

第二編 近世編

1 藩政・村政一般

【明和六年芦屋村差出明細帳】

芦屋市月若町
猿丸吉左衛門氏藏
○明和六年(一七六九)

(表紙)

明和六年	差出明細帳	撰津国兔原郡 芦屋村
丑五月		

青山大膳亮様
寛文元丑年御検地帳ニ御座候
高六百三拾九石壹斗貳舂七合
此反別七拾七町九反壹畝貳步
賦
上田貳拾町六反七畝壹步 石盛 十三
分米百六拾四石七斗壹舂四合
中田拾八町壹反四畝拾三歩 石盛 十一
分米百九拾九石五斗八舂八合

下田拾町六反九畝三歩 石盛 九
分米百五石貳斗壹舂九合
下々田四町五反九畝貳拾九歩 石盛 五
分米貳拾貳石九斗九舂八合
上畑壹畝廿六歩 石盛 十
分米壹斗八舂七合
中畑壹町貳反八畝拾貳歩 石盛 六
分米七石七斗四合
下畑壹町七反四畝九歩 石盛 四
分米六石九斗七舂貳合
下々畑三町三反八畝廿九歩 石盛 三
分米拾石壹斗六舂九合
屋鋪壹町五反三畝拾壹歩 石盛 十
分米拾五石三斗三舂七合
右之内
巷石壹斗五舂三合 池床砂入斗代違
無地引

芦屋川用
水の番割
を定む

【芦屋川水之割】

芦屋市月若町、猿丸吉左衛門氏藏
○天正十七年(一五八九)

蘆屋川水之割事

一市ノ井手壹ヶ月ニ水参候日数
一番ニたりノいてハ参候 其月朔日 十四日 廿七日
二番ニ中ぞハ参候 同四日 十七日 廿八日
三番ニかいちミそハ参候 同六日 十九日 廿九日
四番ニ北ミそハ参候 同九日 廿二日
五番ニかいもりハ参候 同十一日 廿四日
一二ノ井手壹ヶ月ニ水参候日数之事
一番ニ八田ハ参候 其月ノ二日ニ
二番ニ石つかハ参候 同五日ニ
三番ニ打出あれちハ参候 同八日ニ
四番ニふなとハ参候 同十二日ニ
五番ニ打出野田ハ参候 同十六日

右御扱衆上申跡書
山路庄御年寄 猿丸太夫 花押
彌彌右衛門殿 太郎右衛門
横田又左衛門殿 与左衛門
畑市太夫殿 源左衛門 花押
住吉藤次介殿 右御扱衆上申跡書

六番ニちおとハ参候 同廿日
七番ニ北ふなとハ参候 同廿三日
八番ニ打出山ノ口ハ参候 同廿五日
一三ノ井手壹ヶ月ニ水参候日数之事
一番ニけかゝねハ参候 其月ノ三日ニ
二番ニきしろうハ参候 同七日ニ
三番ニ田中ハ参候 同十日
四番ニちよつかハ参候 同十三日
五番ニいのしりハ参候 同十五日
六番ニおさきハ参候 同十八日
七番ニたてはらハ参候 同廿一日
八番ニけれうハ参候 同廿六日
右三ヶ井手之水之内ハすべ水参候覚
其井手ヘ一ハん水入渡シ、二ハん参候時其所々にて
すハ水入申候
一川西にてハはいはらノ田地ヘすべ水参候
一川東ニ而すハ水之事
一番ニたつミハ参候
二番ニ山かとハ参候
三番ニミやつかハ参候
四番ニもちうハ参候
天正拾七年五月廿七日 蘆屋庄年寄中

式斗式舂八合 池床并床引
石斗式舂六舂 辰砂入起殘
当荒引

六拾三石七斗九舂九合 百姓困窮難取統二付本田之内
明和五子年辰年迄免引用捨
高

一 五拾石式斗四舂七合 青山大膳亮様
寛文五巳御改 古 新田
此反別七町五反九畝廿三歩

中畑町六反三畝廿九歩 石盛 十一

分米拾八石三舂六合 石盛 九

下畑町四反式舂歩 石盛 九

分米拾石七斗八舂六合 石盛 十

上畑九畝九歩 石盛 六

中畑町八畝十四歩 石盛 四

分米六石五斗八合 石盛 三

下畑町九反式拾三歩 石盛 三

分米拾石六斗三舂合 石盛 三

下畑三反三畝拾六歩 延宝二寅御改 石盛 三

分米石六合 延宝六午御改 石盛 四

下畑七畝拾四歩 真享二丑御改 石盛 五

分米式斗九舂九合 同年御改 石盛 三

下畑五畝六歩 斗代違砂入堤下引

分米式斗六舂 申砂入起殘当荒引

下畑九反式舂四歩 酉砂入起殘当荒引

分米式石六斗七舂四合 右之内

石斗九斗舂舂 斗代違砂入堤下引

五舂四合 申砂入起殘当荒引

石斗五舂四合 酉砂入起殘当荒引

一 拾九石四斗舂舂四合 青山大膳亮様
延宝年中 樋口屋新田
此反別五町四反三畝廿舂歩

下畑八反式舂八歩 延宝六午御改 石盛 四

分米三石式斗九舂合 延宝六午御改 石盛 三

下畑式反九畝八歩 延宝六午御改 石盛 三

分米石三斗五舂六合

右之内 池床斗代違引

四斗八舂 石斗八斗九舂六合 申砂入起殘当荒引

一 拾石石六舂七合 年々新田
此反別三町舂反七畝式歩

中畑六畝九歩 寛文九酉御改 石盛 六

分米四斗舂舂八合 同年御改 石盛 四

下畑舂反廿四歩 同年御改 石盛 三

分米四斗三舂式合 同年御改 石盛 三

下畑四反舂舂歩 寛文十戌御改 石盛 六

分米石式斗三舂合 同年御改 石盛 三

中畑三反五畝九歩 同年御改 石盛 三

分米式石舂斗舂舂八合 寛文十一亥御改 石盛 三

下畑四反四畝式歩 分米石三斗式舂合

下畑四反拾七歩 分米石式斗舂舂七合

分米石式斗舂舂七合

分米八斗七舂八合 石盛 十

屋鋪五畝五歩 石盛 四

分米五斗舂舂七合 石盛 四

下畑六反七畝九歩 石盛 三

分米式石六斗九舂式合 同年御改 石盛 十

下畑舂舂廿七歩 同年御改 石盛 四

分米五舂七合 天明二戌御改 石盛 四

屋鋪舂舂拾式歩 同年御改 石盛 三

分米舂斗四舂 同年御改 石盛 四

下畑三反式舂拾五歩 真享元子御改 石盛 四

分米石三斗 真享元子御改 石盛 三

下畑三反四畝八歩 同年御改 石盛 四

分米石三斗七舂六合 同年御改 石盛 三

下畑舂反九畝廿七歩 同年御改 石盛 四

分米五斗九舂七合 真享二丑御改 石盛 三

下畑四反式拾六歩 同年御改 石盛 四

分米石六斗三舂五合 同年御改 石盛 三

下畑四反舂舂拾五歩

分米粍舂合
屋鋪粍舂歩
分米六舂四合
新田古田へ五拾町四反六畝舂歩
内四拾七町九反舂舂歩 両毛作

宝曆三酉御改
石盛
六

一当村支配東打出村境へ深江村境迄、東西四百七拾四間、南北御林山根へ海邊迄拾五町程御座候、
一当村の所々道法

江戸へ百三拾七里半
京都へ拾六里
大坂御城へ六里 辰ニ当ル
堺へ九里
尼ヶ崎御城へ三里
兵庫へ四里海上ニ而三里
大坂川口へ海上六里半
当御役所へ六里余り

一隣郷東境打出村へ拾五町
西隣深江村へ拾貳町
一松御林貳ヶ所

一氏神天神宮 御林之内ニ有、宮地除地、
勸請之年曆由来相知不申候
拜殿 神主 吉左衛門

石鳥居
末社 出雲神
同 愛宕
同 多賀大明神
同 荒神
門丸之森 小松六七本有之候、除地
神主支配
一庚申塚 石塔高サ六尺 除地
村支配
一十王堂 石祠 除地
神主支配
一天照大神宮 除地
同 除地
一犬しやうくん塚 除地
同 除地
一山神 除地
同 除地
一山神 除地
一弁才天社 同 断

一若宮社 大比叡大明神
芦屋村人 会野山ニ有之
打出村

但し下草落葉ハ先年々村方へ被下候、松木は池川堤普請仕候節ハ御願申上松木被下置候、杭木柵柵等仕来り申候
一百姓持林九反舂舂歩、此見取米九斗舂舂
右は享保十九寅年御願申上請山仕候
一堤見取林八畝拾六歩舂舂所ニ而、此見取米貳斗六舂
右は享保十三申年御願申上請堤仕候
一芦屋村人 会野山往古々舂舂村持山ニ御座候処、東武庫郡六ヶ村、西本庄九ヶ村と山論及出入候所、舂拾年以前御裁許被仰付、則御印付之絵図芦屋村舂舂村ニ頂戴仕罷有候
一村中四壁ニ唐竹少々宛御座候、但し銘々遺様程ニ御座候得共売出し候竹無御座候
一龍数百八拾貳軒 但し寺社共当丑春御改
一茗軒寺、茗軒堂守、茗軒神主
一高持百四十九軒
一無高三十三軒
一人数七百八十五人 男四百六十六人
女三百七十九人
一牛 四拾八疋
一馬 無御座候

小比叡大明神
聖真子大明神
客人 大明神
八王子大明神
末社 午頭天王 同 断
才ノ神 末社 同 断
同村安楽寺支配
一薬師堂 二間半四方 除地 堂守法山
ほろきやう作
屋根瓦ふき
一御年實地
一浄土宗知恩院末寺大甲山安楽寺 当住沖營
一墓六ヶ所 除地 枝郷共
申伝旧跡
一瓦林対馬守様古城跡と申伝候
一城山 古城跡ニ御座候
一猿丸太夫屋鋪 東西十九間、南北三十間
一藤栄屋鋪 東西十七間、南北十三間
一業平屋鋪 御田地中ニ有之
一犬しやくとゝの塚 東西四間八五寸、南北四間半
一ぬゑ塚 御田地之中ニ有之

一御廻米当村浜出し拾五町、大坂迄海上六里、兵庫迄海上三里半

一当村は山より浜へ通候所ニ而、御田地北高南低ニ而、水持悪敷場所ニ而難儀仕候、殊ニ山手ノ猪鹿諸鳥多出、作物ヲ荒し及難儀、依之秋ニ趣候得は番小屋建猪番仕候

一当村は大還筋ニ而御座候へ共馬遣イは無御座候

一当村百八拾軒之所、村数六ヶ所ニ御座候

一御高札場六ヶ所 但し枝郷村々共

但し切支丹御高札計

一芦屋川幅、往還筋ニ而六拾間、下通ニ而九拾間、長十六町、而堤共御普請所、右之内西堤四百廿間、深江村ノ支配致候、残は敷土未仕、大石持懸、或は梓石之中込、竹柵小州前かこい、是迄御願申上、右松木御林ニ而渡し被下、人足等被下置、御普請仕来り候、大川ニ而、満水之節は、而堤松木伐懸ケ仕、急水を防申事ニ御座候、尤川渡無御座候、洪水之節は、半時斗も渡り留り申事ニ御座候、右大水之節は、土砂下り、殊ニ赤水ニ而御座候、年々御田地へ差入、土地しまり、御田地土地悪敷罷成候、殊ニ水持悪敷、地性も軽く候故、早稲第一ニ植付、

中稻を七八分通り植付申儀ニ御座候

一大溝川幅拾間、長十五六町

一但シ芦屋村用水悪水、打出村立会川ニ御座候

一片田川幅五尺、長八町余

一但シ芦屋村悪水、川下ニ而ハ傍示川と申、

芦屋村深江村境流申候

一芦屋村は大川掛り之所、芦屋奥ニ一ノ井手と申シ、川上せき切、用水上申、此所より続、二ノ井手川筋ニ、御田地用水小川六筋、御田地中ニ御座候、尤此井手川筋ノ用水として五月夏至本庄五ヶ村え、朝卯中刻る未上刻迄毎日水遣し申候、芦屋村本庄ノ肝入立会、右刻限之間遣し申事ニ候仕来りニ御座候故、当村ニハ山出水乍有、年毎ニ早稲仕候、難儀仕候村ニ御座候

字浜新田

一 一種 弓艘 長四間 内法 六寸四方 松織繩

一 一種 弓艘 長四間半 内法 上口卷尺五寸 深サ卷尺三寸五分 板厚サ三寸五分

一 一種 弓艘 長五間 板厚三寸

一 一種 弓艘 長四間半 六寸四方 松織繩

一 一種 弓艘 長四間半 〃 〃 〃 〃

一溜池式ヶ所

内 井ノ尻池 長平口共廿六間、本田方用水ニ御座候 横平均拾八間御座候

是ハ御年貢地之内引高ニ御座候

山坂池 長十式間 古新田用水ニ御座候 横拾壹間

一出水かま池卷ヶ所 長八間 古新田用水ニ御座候 横六間

右川幅五尺長サ百廿間

右之池御普請之儀は、御願申上、前々より杭木野柴并人足被下候

一当村往還筋ニ石橋式ヶ所御座候

外ニ卷ヶ所往還筋片田川ニ石橋御座候へ共、是ハ深江村より支配致候

一御関所口留其外番所 無御座候

一牢屋 無御座候

一威鉄炮 卷艇 御地頭様は是迄揮領仕来り申候

一船 弓艘 式拾石積 村中持

右之船之儀は、是迄御年貢米積登、并村方百姓屎ヲ積取来申候

一稼小百姓、農業手透之節は、油屋稼、酒造持、或は石掘持、野山ニ而柴刈是ヲ売代、日雇持仕渡世仕候、女は着

惣井手 一壺桶弓艘 長七間 指渡し四寸

一 一種 弓艘 長七間式尺 内法 上口卷尺三寸 深サ七寸 板厚サ三寸

往還 一 一種 弓艘 長貳間半 内法 上口卷尺貳寸四分 松織繩

井ノ尻池 一 一種 弓艘 長八間 内法 五寸四方 松織繩

同所池 一 一種 弓艘 長四尺 内法 五寸四方

山坂池 一 一種 弓艘 長五間半 内法 三寸四方 松織繩

同新池 一 一種 弓艘 長五間 内法 四寸四方 板厚式寸五分

往還高辻 一 一種 弓艘 長五間半 内法 卷尺四方 松織繩

大川式ノ井手 芦屋村立会 打出村立会

一 一種 弓艘 長八間半 内法 上口卷尺四寸 深サ卷尺四寸 板厚サ四寸

内 一 一種 弓艘 四間半、裏方石橋、表方四方板橋

内 一 一種 弓艘 此種不殘御普請所ニ而御座候

内 一 一種 弓艘 寬桶弓艘

一 一種 弓艘 壺桶弓艘

一 一種 弓艘 立桶式本

用木綿等仕持ニ候

一 田地小作入米付

上田専反歩ニ付 専石四斗六斗六斗迄

中田専反歩ニ付 専石三斗六斗四斗迄

下田専反歩ニ付 九斗六斗専石専斗迄

下々田場所ニ小作人無御座候

上畑専反歩ニ付 七斗五斗八斗迄

中畑専反歩ニ付 五斗五斗六斗五斗迄

下畑専反歩ニ付 四斗六斗五斗迄

一 田畑實地入大概直段

上田専反歩ニ付 銀百六拾九斗或百廿九斗

中田専反歩ニ付 百廿九斗百八十五斗迄

下田専反歩ニ付 九拾九斗百三十斗迄

屋舖専反歩ニ付 或拾九斗四拾九斗迄

下畑下々畑所ニ實物ニ取不申候

一 田畑実乘大概

本田方専反歩ニ付米七八斗六斗専石四五斗迄

畑方綿作少々宛仕候

専反歩ニ付六斗六斗目位或拾専或八斗迄

小走り給 米専石五斗
麦専石五斗

一 下人下女給銀 男専ケ年二百五十斗或百十斗迄

女専ケ年六十斗或八十斗迄

但シ女ハ一重物綿入遣シ申候

一 奥山土砂留御普請所為見分、尼ヶ崎松平遠江守様毎

春秋兩度づ、御見分御廻リ被成候、大坂御番所様御与

力様方々御普請所御見分ニ御越被下候

一 牛禿買専定ニ付百五拾九斗三百四五拾九斗迄

当村は代々尼ヶ崎御領主、往古池田紀伊守様、戸田左門

守様、青山様御代々、正徳元卯年松平遠江守様、只今

御上知ニ被仰付候

一切支丹類族無御座候

一 出家 或人 御座候

一 堂守 専人 御座候

一 医師 無御座候

一 尿物売仕候者或人御座候

一 水車拾専輜 御座候

内 六輜 油屋稼車

大豆専石六斗位迄

烟草ハ遺料程作り申候

蕎麦専反歩ニ付三斗位六斗位迄

一 尿シ 田方ハ干鰯、干粕、油粕、醬油粕

畑方も右ニ同断

但シ、当村は、砂地ニ而、地性輕ク御座候へは、銀子尿

シ仕候、稲作専反歩ニ付、銀三拾九斗四五拾九斗迄ハ入候

得共、十分成儀無御座候

綿作専反歩ニ付、五拾九斗七八拾九斗迄、仕込仕候

一 村方役人給

庄屋米五斗五斗七合 先御地頭ハ毎年被下置候

同 三石 村方給米

外ニ拾五石高之諸掛リ相除可申候

一 神主高五石諸掛リ相除可申候

年寄或人ニ米専俵つ、四斗入

外ニ或石高之諸掛リ相除申候

山番給 米或俵つ、四斗入或人ニ

綿守給 専斗 専人

五輜 米階粉挽車

一 非人番専人 御座候

右は当村明細帳此度吟味仕差上候通相違無御座候以上

明和六年 丑五月

芦屋村庄屋 伊左衛門
同村 年寄 十左衛門
同断 七郎右衛門
百姓代 利兵衛

同断 作左衛門

同断 太郎兵衛

辻 六郎左衛門様

御役所

【三条村諸事奥印控】 芦屋市三条町、小阪作兵衛氏藏
○寛政十一年(一七九九)

(表紙)

寛政十一年 未正月

諸 支 奥 印 控

三 条 村 庄 屋 伊 作

寛政十式年 申年分此内ニあり

乍恐以書付奉願上候

一西本願寺派大寄講、当月十二日順番ニ相当リ申候ニ付、相勸申度奉願上候、右願之通被為 仰付被下候ハ、難有可奉存候、以上

寛政十一年 未四月

三條村照榮寺無住ニ付寺役預リ小浜 毫撰寺役僧

三條村年寄 稱讚寺印
同村庄屋 七郎兵衛 伊作

寺社

御奉行様

阿願ニ而御座候

御代官様

大庄屋様 奥 印

以書付奉申上候

一此度夫役御免之者御尋御座候ニ付、村中吟味仕候得共、右跡之もの村方ニ尋人も無御座候、以上

寛政十一年 未四月

三條村庄屋 伊作

高井与左衛門様

乍恐以書付御届申上候

三條村伊助後家しゆん作
とし十五 惣五郎

右之者、当月五日家出仕、所々相尋申候得共、行衛相知れ不申候ニ付、此段乍恐以書付御届申上候、以上

寛政十一年 未四月七日

三條村伊助後家 しゆん
同村年寄 七郎兵衛 伊作

田尾源左衛門様

鳴田 清太夫様

御代官様へも届書出ス 奥印付

覚

西本願寺代僧

一参凡三百人
一散銭貳貫文

一商人 拾六人

右之通御座候、以上

寛政十一年 未四月十一日

三條村照榮寺無住ニ付寺役預リ 小浜毫撰寺役僧 稱讚寺
三條村年寄 七郎兵衛 同村庄屋 伊作

津久井源太夫様

林 滝右衛門様

以書付御届申上候

一当植附今日迄ニ不残相済申候、依之御届申上候、以上

寛政十一年 未五月廿四日

三條村庄屋 伊作 印

高井与左衛門様

覚

一凡啓町八反 早稻植附

一凡 九反 中稻植附

右者当未年植附之内ニ御座候、已上

寛政十一年 未六月

三條村庄屋 伊作 印

津久井源太夫様

湯本要八様

以書付御届申上候

一当秋早稻方刈入、当月三日頃ニ取掛リ申候、此段御届奉申上候、以上

寛政十一年 未九月

郷方 御役人衆中様

三條村庄屋 伊作
当年は是ニ不及候 (全文に消練あり)

乍恐以書付奉御届申上候

三條村柄在家孫三郎兄 とし 三十七 藤三郎

一右之者、当月二日家出仕、所々相尋申候得共、行衛相知れ不申候ニ付、此段乍恐奉御届申上候、以上

寛政十一年 未九月四日

三條村 孫三郎 (印)
同村年寄 七郎兵衛 同村庄屋 伊作

田尾源左衛門様

此通御代官様へも本紙ニ而 大庄屋殿奥印ニ而差出し候

鳴田 清太夫様

大庄屋奥印

乍恐以書付奉願上候

一凡三町余り

右者当植付之内早損虫入ニ付、御細見奉願上候、以上

寛政十一年 九月 三條村年寄 七郎兵衛 同村庄屋 伊作

松沢伴蔵様 大庄屋様奥印

乍恐以書付奉願上候

一 当村御高札場破損任候ニ付建替申度奉願上候、此代り木として当村御林之内ニ而松木三尺廻り五本被 下置候様奉願上候、右願之通被為 仰付被下候ハ、難有奉存候、已上

寛政十一年 十一月 三條村年寄 七郎兵衛 同村庄屋 伊作

御代官様 大庄屋奥印

乍恐口上

一 当村先庄屋源吾、宝曆三酉年何才と申事書上候様被為 仰付候得共、右源吾其後家絶仕、当時宗門下帳相尋候得共、源吾御役中之宗門下帳は無御座候、勿論源吾一家共

吟味仕候得共、右酉年何才と申義相知れ不申候、依之御断奉申上候、以上 寛政十一年 十月 三條村庄屋 伊作

松沢伴蔵様

人別請取一札

一 其御村徳兵衛妹当未三拾貳才と申者、当村吉兵衛方へ妻ニ申請候付、此方人別帳面へ書入可申候、其元人別帳面御外し可被成候、此者ニ付自今以後如何様之六ヶ敷義出来候共、其元へ御苦勞掛申間敷候、尤吉兵衛宗旨之義は、代々一向宗ニ而、当村照葉寺且那ニ紛無御座候、為後日之仍而如件

寛政十一年 十二月 松平遠江守殿領分撰州鬼原郡三條村 大吉兵衛印 同村庄屋 伊作

木村周蔵様御代官所 深江村庄屋 作右衛門殿

人別請取一札

一 其御村喜次郎弟当未三拾貳才長次郎と申者、当村忠右衛

段、先方役人加判之一札岩通取、差上申候、願之通被為 仰付被下候ハ、難有可奉存候、已上 寛政十一年 十二月 三條村年寄 七郎兵衛 同村庄屋 伊作

田尾源左衛門様 嶋田清太夫様

大庄屋殿 奥印

乍恐

一 木村周蔵様御代官所同郡深江村徳兵衛妹年三十貳才と申者、私妻ニ仕度奉願上候、尤宗旨之義は、代々浄土真宗ニ而、同村正寿寺且那ニ紛無御座候、則寺請狀別紙取置申候、当村人別入奉願上候 三條村願主 吉兵衛

右縁付来ル者、当村人別帳面へ書入申度奉願上候、尤先方ニおゐて金銀之掛合ハ不及申、其外何之差構も無御座候段、先方役人加判之一札岩通取、差上申候、願之通被為 仰付被下候ハ、難有可奉存候、以上 寛政十一年 十二月 三條村年寄 七郎兵衛

乍恐以書付奉願上候 扣

一 木村周蔵様御代官所同郡深江村喜次郎弟年三拾貳才長次良と申者、私養子仕度奉願上候、尤宗旨之義は、代々浄土真宗ニ而、同村正寿寺且那ニ紛無御座候、則寺請狀別紙ニ取置申候、当村人別入奉願上候 三條村願主 忠右衛門後家 伊作

木村周蔵様御代官所 深江村庄屋 作右衛門殿

右養子ニ来ル者、当村人別帳面へ書入申度奉願上候、尤先方ニおゐて金銀之掛合は不及申、其外何之差構も無御座候

同村庄屋 伊 作
田尾源左衛門様
嶋田 清太夫様
大庄屋 奥印 写

乍恐以書付奉願上候

一私義、是迄用來候印形紛仕相見へ不申候ニ付、自今
此判相用申度奉願上候、右願之通被為 仰付被下候へ、
難有可奉存候、以上

三桑村願主 新四良
同村年寄 七郎兵衛
同村庄屋 伊 作
寬政十一年 未十二月
田尾源左衛門様
嶋田 清太夫様

大庄屋 奥印
右之通相認、御代官様へも差出申候

(中扉)

寬政十式申年諸願控

乍恐以書付奉願上候

一私義、五年以前の年寄役被 仰付、相動罷有候處、去ル
未年の病氣差出、御役難相勤候、依之年寄役御赦免奉願
上候、何卒願之通被為 仰付被下候へ、御慈悲難有可奉
存候、以上

三桑村願主 年寄 七郎兵衛 印
同村庄屋 伊 作 印
寬政十二年 三月

松沢伴藏様
右奉願候通相違無御座候、以上

大庄屋郡家 平野本治 印

乍憚以書付奉願上候

一所持高七石九斗八舛四合 年三十四 六兵衛
此者、平日実跡成ものニ而、村方之勝手ニも相成候ニ

付、此度年寄役被仰付下候様、村方一統奉願上候、右願
之通被仰付下候へ、難有奉存候、以上

寬政十式申年 閏四月
三桑村百姓惣代 四郎兵衛
同 八郎兵衛
同村庄屋 伊 作
大庄屋 平野本治様

乍恐以書付奉願上候

一去未年御上納ニ差詰り御米百六拾五俵岡本村へ御拝借仕
罷有候、然ル処先月中ニ御返納可申上候、當時御上納難
仕候ニ付、何卒来十一月迄御取延奉願上候、乍恐右願之
通御聞濟被為 成下候へ、御慈悲難有可奉存候、以上

寬政十式申年 閏四月
岡本村庄屋 喜左衛門 印
組惣代森村庄屋 利兵衛 印
同所三桑村庄屋 伊 作 印
松沢伴藏様

乍恐以書付奉願上候

一 大坂御番所御支配所西宮東町 名田屋 ね
尾屋九兵衛かしゃか 善吉
同家とし六十一

右之者、当村庄兵衛方へ諸縁御座候ニ付、同家ニ加り申度
申候ニ付、引請申度奉願上候、尤儲成ものニ而、金銀之掛
合等不及申、其外何ら差構も無御座候、当村人別入奉願上
候、宗旨之義は、代々一向宗ニ而、当村照乘寺旦那ニ紛無
御座候、則先方役人加判之一札取之、差上申候、右願之通
被為 仰付被下候へ、難有可奉存候、以上

寬政十式申年 四月
三桑村願主 宇兵衛 印
同村庄屋 伊 作 印
田尾源左衛門様
嶋田 清太夫様

右奉願候通相違無御座候、以上

大庄屋郡家 平野本治 印

入別請取一札

一其御町内尾屋九兵衛かし家名田屋かね同家年六十一善吉
と申者、此度当村庄兵衛方へ同家加り参り候ニ付此方人

別帳面へ書加へ申候間、自今其御町人別御帳面相除キ可
被成候、為後日之依而如件

寛政十貳申年 四月 松平遠江守殿御領分
三条村庄屋 伊 作

大坂御番所御支配所
西宮浜東町 勘十郎殿

乍恐以書付御届奉申上候

一当植付今日迄ニ不殘相濟申候、依之御届奉申上候、以上
年号月日 三条村庄屋 伊 作

松沢伴蔵様

覚

一凡町三反 早稻植附

一凡七反 中稻植附

右ハ当申年植附之内ニ而御座候、以上

寛政十二申年 六月 三条村庄屋 伊 作 印

津久井源太夫様
湯本要八様

寛政十貳申年 十二月

三条村庄屋 伊右衛門
同村年寄 六兵衛
同村庄々 伊 作

田尾源左衛門様
嶋田清太夫様

覚

一其元御支配浜新田長三郎姉年四十二とらと申者、当村嘉
右衛門妻ニ申請候ニ付、此方人別帳面へ書入可申候間、
其元人別御帳面御除キ可被成候、為後日之人別請取一
札、依而如件

寛政十貳申年 十二月 三条村庄屋 伊 作
西新田村庄屋 忠兵衛殿

覚

一菜種八拾九石六斗八升 声屋谷水車絞株之者へ売渡ス
右之通売渡し申候処相違無御座候、已上

摂州鬼原郡三条村

乍恐以書付奉願上候

一凡町余り
右者当植付之内早損虫入ニ付、御細見奉願上候、以上
寛政十二申年 八月 三条村庄屋 六兵衛
同村庄々 伊 作

松沢伴蔵様

大庄屋殿 奥印

乍恐以書付奉願上候

一篠山十兵衛様御代官所播州飾西郡 奥法寺村
とし三十九
女子とし十三 七
男子とし八ッ 嘉吉郎

右之者共、当村伊右衛門方へ諸縁御座候ニ付、同家へ加り
申度申ニ付、引請申度奉願上候、尤儲成ものニ而、金銀之
掛合等無御座候、当村人別入奉願上候、宗旨之義は、代々
浄土真宗ニ而、飾西村教福寺旦那ニ紛無御座候、則先方役
人加判之一札取之、差上申候、願之通被為 仰付被下候ハ
、難有可奉存候、以上

寛政十貳申年 十二月

三条村庄屋 伊 作 印
平野本治様

【俟約取締方取調書】 丹波市三条町、小阪作兵衛氏殿
○享和四年(一八〇四)

乍恐以書付御親奉申上候

- 一 耕作之事、百姓昼夜共心掛ク無懈怠、質素勤農ニ而家業を專ニ可致事
- 一 御城下之罷越候節、衣類襦羽織共麻布木綿布を可着事
- 一 物而百姓衣類、麻布木綿布ニ可限、袖以上糸類夏冬共着用致間敷事
- 一 妻娘衣類、有合持米候物は格別、向後惣庶子素縁巻物類惣而高直之衣類夏冬とも堅停止、向後求申間敷候、尤縁付之娘衣類可為同然、他所之遺候とも先方へ御法度之趣遂断、随分衣服致趣相ニ、数をも随分可致減少事
- 一 婚儀調候節、結納祝儀随分軽く致し取遣り可致、分限より軽く先方へ及対談可申事
- 一 下男下女衣類之義、木綿布可用、袖以上物而絹布之類

堅停止、尤召遣之者主人之用事ニ遺候節、他所ニ罷越候共、右ニ准シ取斗可致事
一 男女共帯袖口半襟は、絹布類迄を限り、尤緋縮細袖口堅停止之事

并男女共せつた、表付之下駄、向後可相止事

一 都而女髪之かさり、銀之櫛、こうかい、かんざし之類堅停止、猶又髪之くより、絹類、ちりめん類、糸巻、水引、金銀すゝの尺長掛ケ候事堅停止之事

一 嫁入、養子、入婿、御領分は不申及、他領ノ縁談之節、持参荷物或は衣類拵之義、先方へ掛合及対談、分限より減し、物事軽々、花美之儀致間敷事

一 嫁入荷物之儀、三荷以下ニ可限、随分産相ニ拵致し、其余は右ニ准し致欠略可申事

附り、嫁入、婿入、口入ニは、一汗一菜を限り時々産物相用、酒三献限り、随分手輕可致候、尤此段先方へ掛合儉約之趣可遂事

一 養子、入婿之弘、又は元服名替祝儀杯ニは、神酒として少々宛賦り可申事

一 村方婚儀、養子、入婿、顔見せ弘呼合振舞之義、可相

こ入之類、持来之物は格別、向後随分産相之品可持致事

音信贈答之事

一 年玉、歳暮、或へ出産、七夜、髪置、袴着之祝儀、産着等取遣り之義、年限中は堅無用

一 他所之親類又は挨拶がら之者たりとも付届之旨物無用村々大庄屋并庄屋年寄え音物之義、雖為軽品堅無用

一 年忌供養齋非時速夜杯、近来何事も致増長候様相成候、向後は随分可成丈輕く相嘗、勿論常々質素ニ村内同行共申合可取斗事

一 葬式之義、分限相応ニ随分輕く致し、送り等物事可致儉約、尤葬送も昼飯後八ツ時迄ニ致候得へ、諸方ノ参候人々勝手ニも可相成、勿論物入費等もおのづから少々、都而仏事之儀は禁酒可致候、其段他所ノ参候者へ可遂断事

一 博奕賭之諸勝負、又は正月ニ至りろくどう穴いちぼう引之類、兼而精々御法度之旨被仰出候条、向後末々迄急度相守可申候、若心得違之者有之候へ、其者家内不殘敵敷御咎メ可被 仰付候事

止候、其形義斗ニ而手輕ニ可致事

一 祭礼之儀、其時之産物有合ニ而一汗一菜を可限、尤氏神祭礼之事、親類は格別、他之客来、挨拶がら之者たりとも其段可遂断事

一 先規より於村々、弓之禱、宮之禱或は諸講營事、是迄儉約も有之事ニ候得共、此上管之形斗ニ而随分成丈致儉約、無懈怠永々輕致し可相勤事

一 伊勢参宮之節、酒迎ほうめん之義、神酒斗ニ而相當可申候、尤贈答土産物堅致間敷事

一 雜祭職節句祝之物并人形等、村方取遣一切可相止、勿論他所親類方へも其段可遂断事

一 於村々若者為仲間諸事取斗方も有之事ニ相聞候、近来不正之事共聞々有之、其上折々参会等致、費がましき事相聞、不埒之至ニ候、惣而若者仲間と申名目差留メ申候、可相勤義有之へ中年之者共取斗可申事

一 於村々居酒小売并菓物類先年指留メ置候処、猥ニ相聞候、向後は急度指留メ可申事

一 百姓家作之義、分限ノ不相応ニ結講成普請等一切仕間敷候、勿論脇指之拵、印籠、巾着等、惣而提物、たは

以上

子ノ正月

右取締方取調書面之趣、令熟覽、逸々尤之事ニ候、彌年限中右通取斗可申候、猶右之外ニも、差掛り取締ニ可相成と存付候義は、其節以書付可申候、一覽之上可令差図候

子二月

右取締方書面之趣、熟得仕奉長候、以上

享和四年 二月

宇兵衛 (印)
三條村百姓
八郎兵衛後家

彌三兵衛 (印)
四郎兵衛 (印)
源兵衛 (印)
善左衛門 (印)
嘉兵衛 (印)
五兵衛 (印)
甚左衛門 (印)
忠右衛門 (印)
喜平次 (印)
彌三右衛門 (印)
徳兵衛 (印)
伊右衛門 (印)

久兵衛後家
 三郎兵衛後家
 市兵衛(印)
 作右衛門(印)
 利右衛門(印)
 兵右衛門(印)
 又兵衛(印)
 市左衛門(印)
 太兵衛(印)
 善右衛門後家
 つた(印)
 嘉右衛門(印)
 伊左衛門(印)
 利兵衛(印)
 吉兵衛(印)
 長兵衛(印)
 茂兵衛(印)
 市右衛門(印)
 七郎兵衛(印)
 彌兵衛(印)
 長右衛門(印)
 七兵衛(印)
 伊助(印)
 幸助(印)
 孫三郎(印)
 長五郎(印)
 源七(無印)

【演説之趣意】 青屋市三条町、小阪作兵衛氏藏
 ○文化二年(一八〇五)
 文化貳乙年六月九日
 演説之趣意

演説之趣意

其方共兼々存知之通、御上ニも御勝手向御不如意ニ付、次第ニ御借財相當ミ、當時ニ而は必至ト御難渋之時節ニ而、誠ニ被成方も無之、我々共も御勝手ニ相懸候事に候得共、昼夜共令心痛種々遂手段候得共、致方も無之限ニ御上ニも賤鋪御儉約、上々様ニも御身分迄被為詰、御家中ニも多分之御借米も被仰付候程之事ニ候得共、兎角跡引のミ多ク、年分御暮方割合候而も下地御大借故一向之引足り不申事ニて、今当惑候、前文之通我等共御勝手懸リニ候得は、夫而已令心勞候得共、手段之不能候事も有之候存、此度其方共え及相談候、其方共儀は家業柄之事ゆへ損益之儀は合得之事ニ付、ケ様ニも被成候へ、御為ニも可相成歟、亦は御儉約之筋ニも可相成と申儀とも心付候へ、無禮誠

中間候様致度候、乍然、右舛及相談候ゆへ一因ニ御為筋のミの事ヲ申出、御領分中へ過役之相懸候義ハ、御上ニも決而御好不被成支ニ候間、能々右之趣意を令熟得可申出候、上下一舛之益ニ相成候筋も可有之哉と、此段分而令相談候間、其方共は勿論之儀、末々之もの迄も申聞、銘々御為ニも可相成哉と存付候主法も有之候へ、趣意書相認メ来ル廿九日迄ニ御代官迄令封印可差出候、銘々差出候上ハ、御勝手懸リ之もの打揃令開封、御領地之者一統之力を以御益筋も相立候様致度存意ニ候、具々も御為而已斗を第一ニ書出シ、御領分ニ過役義も不厭様之主法を書出候得は一統之痛ニ相成候間、其儀は前文之通可令無用ニ、御上御難渋に被為立候得へ、おのつから難渋入御救ハ勿論、御領分中諸御手宛向迄も行届かね候様可相成とも不斗申候、左様成行候而は、たとへ豊年之年柄も凶年同様之姿ニ相成、自然と御領中衰微之基ニ相成候而へ御仁徳共不被申、且は御上ニも御公務難被成候様ニ相成可申候、畢竟御領分有之而之御地頭、亦御地頭有之而之御領分ニ候得へ、上下一舛之事ニて、御上之締ハ下之御手宛、下之締は御上之冥加と相心得候へ、我等共も手段有之逆其儘過

行候は不本意之支と存候、依而此段遂相談候間、銘々一己之存寄ニ而も不苦候間、早々存付之趣意を書出候様ニ被存候、只々上下永久相統第一之儀を相願候支ニ候、下方之儀は我々共も委細は不存事ニ候間、其方共之才覚をも承り申度候故、右之趣申述候、能々熟得いたし何分遂勘弁、聊之事たり共御為筋之儀は早々申出候様致度者也
 丑 六月

覚

- 一 御儉約之任方并御勝手御取直工夫之事
- 一 近年米穀位不宣、既ニ毎々筑前米ニ格別不劣候処、近年直段等引下り候は残念之事
- 一 不時
- 一 御公用御備等も追々相立候主法之事
- 一 御借財少々宛成共御返済無之候而へ甚以御不義理之事
- 一 御領分ニ有之品之内ニ而、何成共御益ニ相成、町在共難儀不相当儀ニ而、永々尼崎産物とも被相成品も可有之哉考之事
- 一 古来仕来候事ニ候共、不益と見極メ候儀は、省略之致方も可有之考之事

一所々荒地其儘穴地ニ致置候も残念之支ニ候、迎も作物難出来場所ニ候は物ニ寄仕付方も可有之考之事
荒増右等之趣ニ候得は、其余銘々存付之儀はケ条際限無之事

丑 六月

【年賦講銀帳】

芦屋市三条町、小阪作兵衛氏藏
○文化三年(一八〇六)

(表紙)

年賦講銀帳

覚

一 御上様、累年御借財相嵩、御勝手向御差支多、御難澁ニ付、近年段々御儉約被遊候得共、御行届無之、諸銀主一統御借銀御利下ケ年賦済、亦是暫無差引等御頼被遊、且御家中之分御面扶持ニ被仰渡、誠ニ稠敷御取締メ被遊候ニ付、此後臨時御物入等之義有之候ニも、右様無差引之御銀主ニ多少共出銀等御頼も難被遊、勿論諸事御備之所

は甚御手薄ニ付、若火急之御用等御座候砌失次と御手支之程も難斗、兼々御心痛不少ニ付、此度御城下惣町之内ニ而名本相応之面々御撰被遊、自然之御備ニ御頼被遊度被思召、御勝手方御役人中様々段々御熱慮之御利害被為仰付候段、一統ニ冥加至極難有仕合奉存候、兼而ハ御上様御難澁之儀乍恐奉察罷在候得共、為冥加何成とも御為ニ相成候義相勸申度相合居申候折柄、此節御内御頼之儀は出御城下年賦講銀相企至置候ハ、自然御入用之砌御間ニ合、講入之中ニも徳用ニ相成候御趣、段々被仰聞候ニ付、御講法之始末得と相勘一統申談取組候事、全御上様始終之御為を相合候義、銘々忘却致間敷候、尤講法帳面之表手数之義ニ候得共

講法之覚

一 講帳銀高貳百四拾五貫目也
但右口分七貫目ニ相定、都合三十五口也、拾五ケ年之間、月五朱利足付、銘々割符、毎年兩度会

合配當之儀左ニ記ス

- 一 毎年二月八月兩度會合ニ相究メ、会日出席之上割符取斗之事、尤七貫目入右口組合より申談一人出席圖引致候事
- 一 初中後拾五ケ年之間割合定銀圖引ニ相定有之候得共、相互ニ請取勝手有之事、望人多時は入札ニ致、下直之落札ニ相渡可申事
- 一 毎會請入用銀は御上様御徳用之内ニ而相勸、講中間取銀ニ不相抱候事
- 一 講帳一件御証文類、致箱入ニ預り入相定候事、尤預入ノ惣講中へ講帳類預り一札指出置候事
- 一 講銀之内、御上様御用進、并外家ニ貸付等共大切之事ニ候得ハ、五人之御銀主之立會之上、惣講中ノ年行司三人宛相定置、不断寄合之席ニ相加リ取斗候事
- 一 此度取組候講銀組合之内、勝手ニ付他所へ引越候敷、亦は身上不如意之儀は勿論自然之差支出来候砌、何時ニ而も申出次第五人之講断年行司立會相談之上、其時迄之利足相添元利相渡候事、万銀子不殘御用進致私底ニ候ハ、其趣早速相願御下ケ銀ヲ以無差支戻遣候事
- 一 毎年兩度會合之砌、当人ニ渡銀其席ニ而御掛屋預り手形

ヲ以相渡、当人請取之儀ハ帳面ニ印形取候間、御出席之銘々印形御持參之事

一 右講法ニ付、相互ニ違乱反之義毛頭無之義ニ候得共、年數之事ニ候得ハ、万一故障之儀出来候節は、先達而配當銀請取候もの、未受取者ニ不相抱、講中一統申立可致事
一 前段ニ書願候通、元來此儀御上様御頼被仰付取組候講銀ニ候得は、銘々出銀請取候上ハ、拾五ケ年之後何程徳用殘銀有之候共、不殘永上納ニ可仕義相心得置候事
右ケ条之通、講中會席速ニ而相極メ、猶又續定帳面之寫御上様へ指上置候上は、相互ニ急度相守、少も違背有之間敷候、仍而如件

文化三寅年三月

割當勘定之覚

一 初五ケ年 但寅八月より来ル未二月迄拾ケ度也
毎年 二月會 三貫五百目渡
八月會 三貫五百目渡
但 一口七貫目分ニ而卷貫目當銀也
尤利息は月數ニ応シ勘定致相添渡ス
元銀渡ハ三拾五貫目也

会席ニ而三口半組合ニ致關札拾本也

一 中五ヶ年

但末八月より二月迄
拾少度也

毎年 二月 七貫目渡

但 港口分ニ而式貫目当銀也
尤利足勘定右同断

元銀渡々七拾貫目

但關札右同断

一 後五ヶ年

但子八月より二月迄
拾少度也

毎年 二月金 拾四貫目

但 港口分四貫目当銀也
利足勘定右同断

元銀渡々百四拾貫目也

但關札右同断

右拾五ヶ年元銀割合月利利足勘定左ニ記ス

初

一 實三月より八月迄六ヶ月元利高三十五口ノ内
三貫六百五匁 三口半分

一 勿二月迄十ヶ月分
三貫七百拾匁 右同断

一 勿八月迄十八ヶ月分
三貫八百拾五匁 右同断

一 辰二月二十四ヶ月分
三貫九百拾匁 右同断

一 辰八月迄三十ヶ月分
四貫貳拾五匁 右同断

一 巳二月迄三十六ヶ月分
四貫百三十目 右同断

一 巳八月迄四十二ヶ月分
四貫貳百三拾五匁 右同断

一 午二月迄四十八ヶ月分
四貫三百四拾目 右同断

一 午八月迄五十四ヶ月分
四貫四百四拾五匁 右同断

一 未二月迄六十ヶ月分
四貫五百五拾匁 右同断

一 未八月迄六十六ヶ月分
四貫六百六拾匁 右同断

一 申二月迄七十二ヶ月分
九貫五百拾目 右同断

一 申八月迄七十八ヶ月分
九貫七百三拾匁 右同断

一 酉二月迄八十四ヶ月分
九貫九百四拾目 右同断

一 酉八月迄九十ヶ月分
拾貫百五拾目 右同断

一 戌二月迄九十六ヶ月分
拾貫三百六拾匁 右同断

一 戌八月迄百二拾ヶ月分
拾貫五百七拾目 右同断

一 亥二月迄百十八ヶ月分
拾貫七百八拾目 右同断

一 亥八月迄百二十四ヶ月分
拾貫九百九拾目 右同断

一 子二月迄百三十ヶ月分
拾貫百貳百目 右同断

右者 中五ヶ年十会渡銀也

一 子八月迄百二十六ヶ月分
貳拾貳貫八百拾目 右同断

一 丑二月迄百三十二ヶ月分
貳拾三貫貳百四拾匁 右同断

一 丑八月迄百三十八ヶ月分
貳拾三貫六百六拾目 右同断

一 寅二月迄百四十四ヶ月分
貳拾四貫八拾目 右同断

一 寅八月迄百五十ヶ月分
貳拾四貫五百目 右同断

一 卯二月迄百五十六ヶ月分
貳拾四貫九百貳拾目 右同断

一 卯八月迄百六十二ヶ月分
貳拾五貫三百四拾目 右同断

一 辰二月迄百六十八ヶ月分
貳拾五貫七百六拾目 右同断

一 辰八月迄百七十四ヶ月分
貳拾六貫百八拾目 右同断

一 巳二月迄百八十ヶ月分
貳拾六貫六百目 右同断

右者五ヶ年拾会渡銀也
元利合三百九拾貫四百貳拾五匁也

右年限之内閏月は其年ニ至り別段勘定相増候事

【青山播磨守六甲山巡行先触】

吉田善八氏藏元祿
頃(一七〇〇前後)カ
芦屋市打出若宮町
新関郷左衛門様

殿様明日六甲山へ被成御座候、六ツ時分御当地御出被遊候、可被得其奉候、

一 六甲山之御道筋へ、二人ほと御先へ遣、かまをもたせ、いばらなと御道筋ニかまひニなり候ものからせ候様ニ可被申付候

一 山中御かごノもの不案内ニて候間、六人達者成器量能もの申付、御供中御さしつ次第ニかゝせ可申候

一 御供中ニ御のせ被成候事可有之候間、其元ニ有之候かご五六丁遣し可申候

一 六甲山案内を存候もの兩人、御かごノ御先へ立可申候

一 右之外、人足御入用之事可有之候間、三四人も手明ノもの遣し可然と存候、其外御入用之事御手つかへ無之様ニ随分手つかへ可申候、いそぎ早々如此候、以上

三月廿八日 打出 善吉殿 新関郷左衛門

尚々、芦屋越被成御座候

一手明ノもの存候外入可申様ニ存候間、了簡いたし右之外ニも人足よけい御出し可然と存候、以上

【殿様御巡見諸廻状控】
芦屋市三条町、小阪作兵衛氏藏
 ○文化五年(一八〇八)

(表紙)

戊文化五辰年
 殿様御巡見諸廻状控
 三条村庄屋
 作兵衛
 五月

兼而御沙汰有之候

殿様御順見、近日之内被遊御順行之段、被仰出候、右ニ付御道筋并ニ村々村名書出候様被仰出候間、取調早々差出候様被仰付候間、其段御心得可被成候、尤御日割左之通地廻一日 中灘一日 大灘二日
 大灘ニ而被遊御止宿候旨、被仰出候、品ニより兵庫津之被遊御越候義も可有御座、左候得は大灘ニ而三日被遊御順行候様ニ相成可申と存候、其段御心得可被成候、以上
 五月二日
(大庄屋)
 平野本治

村々庄屋中
 野寄村々三条村迄、留村より早速返却可被成候、已上

殿様在中御巡見、来月十日頃夕末ニ被為遊候様被仰出候、

尤御道筋之義ハ、上道ニ而御座候様有之候間、兼而其旨御心得可被成候、已上
 五月十日
 平野本治

村々庄屋中
 野寄村々三条村迄早々順達

兼而被仰出候

殿様御巡見之儀、此節被為入御不快候得共押而来十六七日頃地廻分被遊御巡見候段被仰出候、中灘大灘は追而御日限可被仰出候間夫迄は御道筋等用意之義可致無用之旨被仰出候旨村々之可申開様被仰下候間其旨御心得可被成候、已上
 辰六月九日
 平野本治

村々庄屋中
 野寄村々三条村迄早々順達可有之候

殿様御巡見之儀、被為入御不快候得共、先日地廻り分押而被遊御巡見候處、此節未だニ不被遊候ニ付、大灘、中灘分ハ、当年之処、被遊御延引候段、被 仰出旨、被 仰下候間、其旨御承知可被成候、已上
 六月廿七日
 平野本治

【殿様御順見諸入用割賦帳】
芦屋市三条町、小阪作兵衛氏藏
 ○文化十四年(一八一七)

(表紙)

文化十四年
 殿様御順見諸入用割賦帳
 五月十六日

高割 式百石七斗 照乘寺
 覚 一 銀三百三匁八分六厘 五兵衛
 式ツ割 一 三匁八分 家掛リ
 高百五拾匁九分三厘 一 四匁四分九厘 高掛リ
 家百五拾匁九分三厘 一 七匁九分九厘 高掛リ
 家別割懸リ野軒ニ付 一 三匁八分 嘉兵衛
 三匁八分 一 三匁八分 家掛リ
 高割懸リ野石ニ付 一 式匁三分九厘 高掛リ
 七分五厘六毛 一 六匁四分九厘 高掛リ

吉右衛門 彌三兵衛
 一 三匁八分 家掛リ
 一 四匁四分三厘 家掛リ
 一 七匁九分三厘 家掛リ
 六兵衛 作兵衛
 一 三匁八分 家掛リ
 一 六匁四分 高掛リ
 一 九匁四分四厘 高掛リ
 源兵衛 喜平次
 一 三匁八分 家掛リ
 一 三匁四分五厘 高掛リ
 一 六匁八分五厘 高掛リ
 四郎兵衛 八郎兵衛
 一 三匁八分 家掛リ
 一 三匁四分五厘 高掛リ
 一 九匁四分五厘 高掛リ
 德兵衛 利右衛門
 一 三匁八分 家掛リ
 一 三匁四分七厘 高掛リ
 一 五匁四分九厘 高懸リ
 一 九匁四分九厘 高懸リ

一 廿四步 幸助
 貳分九厘
 一 廿三步 嘉右衛門
 貳分七厘
 一 貳反三畝拾七步 長兵衛
 八分三分九厘
 一 貳反三畝拾七步 作兵衛
 一 壹反貳畝三歩 四分三分三厘
 拾歩 利右衛門
 壹分壹厘 彌三兵衛
 一 貳反六畝廿歩 九分五分壹厘 彌三右衛門
 一 壹反五畝拾五歩 五厘五分貳厘 彌三右衛門
 內貳分六厘 伊助出ル
 又四分七厘 兵右衛門分
 又四分五厘 彌三右衛門分

一 三畝歩 兵右衛門
 壹分七厘
 一 三畝八歩 甚兵衛
 壹分壹分六厘
 一 五畝拾九歩 徳兵衛
 貳分壹厘
 一 三畝四歩 市右衛門
 壹分壹分貳厘
 壹分不足
 一 八畝拾七歩 彌兵衛
 三分五厘
 一 五畝廿歩 喜平次
 貳分
 壹分二付
 丁百卷文

【三条村勘定帳】

背屋市三条町、小坂作兵衛氏蔵
 ○寛政二年(一七九〇)

(表紙)

寛政二戊歳勘定帳

万月役高合
 六百九拾八分四分四厘
 成年助郷銀
 銀八拾六分九分五厘
 此り成三月同七月迄
 四分三分五厘
 九拾壹分三分
 内
 五拾壹分五分八厘
 成七月預ヶ銀引
 残而三拾九分七分貳厘
 此り成七月同七月迄
 三分九分七厘
 四拾三分六分九厘
 一 銀八拾七分 助郷手宛
 一 銀廿分 凡小私

惣合
 八百四拾九分三分三厘
 右式割
 四百貳拾四分五分七厘
 家別
 此割壹軒二付
 拾壹分八厘宛
 右残
 四百貳拾四分五分七厘
 百八拾四分三厘
 壹石二付
 貳分三分三厘
 一 拾壹分八厘 家
 七分三分三厘 高

一 拾八分五分壹厘 過 渡し
 内貳拾四分六分出
 指引六分九厘 過 渡し
 一 拾壹分八厘 家 五兵衛
 七分八分九厘 高
 一 拾九分七厘 出
 内拾七分五分 出
 指引壹分五分七厘不足受取
 一 拾壹分八厘 家 吉右衛門
 拾貳分六分六厘 高
 一 貳拾三分八分四厘 出
 内貳拾貳分五厘出
 さし引三分五分九厘不足
 受取
 一 拾壹分八厘 家 六兵衛
 拾分七分七厘 高
 一 貳拾壹分九分五厘不足
 受取
 一 拾壹分八厘 家 善次郎

一 八分四分四厘 高
 一 拾九分三分三厘 出
 内拾三分六分五厘出
 指引五分六分七厘不足受取
 一 拾壹分八厘 家 源兵衛
 六分貳分 高
 一 拾七分三分八厘 出
 内九分貳分 出
 さし引
 八分壹分八厘不足 受取
 一 拾壹分八厘 家 四郎兵衛
 拾四分七分七厘 高
 一 貳拾五分八分九厘 出
 内拾三分七分 出
 指引拾貳分九厘不足
 受取
 一 拾壹分八厘 家 伝兵衛
 貳分九分四厘 高
 一 拾四分三分 出
 内拾四分三分 出

指引壹分八厘 過 渡し
 一 拾壹分八厘 家 彌惣兵衛
 貳拾八分八厘 高
 一 三拾貳分 出
 内貳拾六分八分五厘出
 五厘壹分五厘不足 受取
 一 拾壹分八厘 家 八郎兵衛
 三拾八分九分五厘高
 一 五拾分三分三厘 出
 内四拾七分 出
 指引九分四分三厘不足受取
 一 拾壹分八厘 家 忠兵衛
 拾貳分七分九厘 高
 一 貳拾三分九分七厘 出
 内五拾四分五分 出
 指引三拾五分三厘過渡し
 一 八分貳分三厘 高
 一 内四拾八分五厘出
 指引三拾貳分六分三厘過

一 拾壹分八厘 家 久兵衛
 七分三分五厘 高
 一 拾八分四分三厘 出
 内貳分七分五厘出
 指引拾五分六分八厘不足
 受取
 一 拾壹分八厘 家 利右衛門
 拾五分三分三厘 高
 一 貳拾六分四分九厘 出
 内貳拾三分六分五厘出
 指引貳分八分四厘不足受取
 一 拾壹分八厘 家 甚左衛門
 拾三分五分三厘 高
 一 貳拾四分七分七厘 出
 内拾三分壹分 出
 指引拾壹分六分壹厘不足
 受取
 一 拾壹分八厘 家 忠右衛門

四又六分三厘 高
拾五又八分七厘 出
内拾五又七分九厘 出
指引三厘 不足 受取
一 拾毫又四分八厘 家
拾六又三分八厘 高
或拾七又五分六厘
内拾九又四分
指引八又四分六厘不足受取
彌三右衛門
一 拾毫又四分八厘 家
八又五分三厘 高
拾九又七分
内四又八分五厘 出
指引拾四又八分五厘不足
受取
一 拾毫又四分八厘 家
拾四又四分四厘 高
或拾毫又六分三厘
内拾三又五分五厘 出
指引八又七厘 不足 受取
兵右衛門

作右衛門
一 拾毫又四分八厘 家
拾五又五分六厘 高
或拾六又七分四厘
内或拾三又九分
指引三又八分四厘不足受取
三郎兵衛
一 拾毫又四分八厘 家
拾三又四分三厘 高
或拾四又六分三厘
内拾三又五分五厘 出
指引拾三又六厘不足 受取
又兵衛
一 拾毫又四分八厘 家
拾七又七分三厘 高
或拾八又三分五厘
内拾八又八分五厘 出
指引拾七又五分 不足受取
市兵衛
一 拾毫又四分八厘 家
七又五分
或拾八又六分八厘
内拾四又四分五厘 出

指引八又四分三厘不足
吉兵衛
一 拾毫又四分八厘 家
四又三分九厘 高
或拾五又五分七厘
内拾三又七分
指引三又七分七厘不足受取
市左衛門
一 拾毫又四分八厘 家
五又六分八厘 高
或拾六又八分六厘
内拾六又四分四厘 出
指引六又四分三厘不足
仁兵衛
一 拾毫又四分八厘 家
拾七又七分三厘 高
或拾八又九分三厘
内拾五又七分五厘 出
指引拾三又四分六厘不足
受取
太兵衛
一 拾毫又四分八厘 家
拾三又四分八厘 高

善右衛門
指引八又四分五厘不足受取
内拾三又七分九厘 出
或拾三又四分四厘
拾毫又六厘 高
一 拾毫又四分八厘 家
拾毫又六厘
指引九又七分五厘不足受取
嘉右衛門
内拾四又四分六厘
内拾四又七分五厘 出
指引九又七分五厘不足受取
一 拾毫又四分八厘 家
拾毫又六厘 高
或拾三又四分四厘
内拾三又七分九厘 出
指引八又四分五厘不足受取
善右衛門
一 拾毫又四分八厘 家
拾毫又八分三厘 高
或拾三又四分四厘
内拾三又四分五厘 出
指引八又四分 不足 受取
伊左衛門
一 拾毫又四分八厘 家
拾九又四分七厘 高
或拾三又四分五厘
内拾三又四分五厘 出
指引三又四分五厘 受取
長右衛門
一 拾毫又四分八厘 家
拾三又四分八厘 高

五又五分九厘 高
拾六又七分七厘
内廿又四分 出
指引三又六分三厘 過 渡し
長兵衛
一 拾毫又四分八厘 家
拾三又七分六厘 高
或拾四又九分四厘
内拾六又五厘 出
指引八又八分九厘不足受取
市右衛門
一 拾毫又四分八厘 家
拾九分六厘 高
或拾三又四分四厘
内九又四分四厘 出
差引三又七分 不足
茂兵衛
拾毫又四分八厘 家
拾五又五分六厘 高
或拾七又七分四厘
内廿又九分九厘 出
差引
拾又五分五厘 過 渡し

七郎兵衛
一 拾毫又四分八厘 家
拾六又四分三厘 高
或拾七又四分
内廿八又三分九厘 出
差引九分九厘 過 渡し
伊右衛門
一 拾毫又四分八厘 家
拾五又六分三厘 高
或拾六又八分
内廿毫又四分五厘 出
差引五又六分五厘不足受取
彌兵衛
一 拾毫又四分八厘 家
拾六分八厘 高
或拾七又八分
内拾四又五分五厘 出
差引七又三分三厘不足受取
長五郎
一 五又六分
五分四厘 高
或拾六又四分四厘
内拾毫又六分四厘 出

差引五又五分五厘 過 受取
伊助
一 五又六分
内毫又六分五厘 出
差引三又九分五厘不足受取
又四郎
一 五又六分
内三又五厘 出
差引或五又五分五厘不足受取
太一茂兵衛
一 五又六分
内九厘 出
差引三又四分 過 渡し
おたま
一 五又六分
受取
佐兵衛
一 五又六分
内三又八分五厘 出
差引毫又七分五厘不足受取
才次郎
一 拾毫又四分八厘 家

受取
不足銀
或百六拾四又四分八厘
過銀
九拾五又八分六厘
差引
百六拾八又四分三厘 有銀
又古出作出銀
一 五又五分 茂兵衛
一 四分三厘 五兵衛
一 一分三厘 太兵衛
一 一分八厘 忠右衛門
一 三分八厘 利右衛門
二口合
或六又六分三厘
百七拾五又四厘
是は口私
一 七又五分 帳持代
一 四又五分 紙代
一 五分 筆代
一 或 寄講世話
一 拾又 茶代

廿四及五分
又或及 七郎兵衛へ私
廿六及五分 引
残而
百四拾八及五分四厘
内

百三拾目六分九厘
助郷手宛引
テ拾七及八分五厘過
預ケ
右者亥年勘定ニ入

【三条村御手当米配賦帳】
普屋市三条町、小阪作兵衛氏藏
寛政十一年(一七九九)

寛政十一年
御手当米配賦帳
未十二月日

三條村
内式斗九升 照乘寺
壹斗壹升七合村持高
壹斗九升 八幡宮高
七升 歩屋敷
六斗六升七合 除之
残而
貳百壹石三斗六升六合
此高ニ割壹石ニ付
壹升五合 宛
一高貳百貳石三升

嘉兵衛(印)
一 七升八合 家割
一 四升七合 高割
一 壹斗貳升五合
右御手当米儲受取申候(印)
五兵衛(印)
一 七升八合 家割
一 五升壹合 高割
一 壹斗貳升九合
右御手当米儲受取申候(印)
吉右衛門(印)
一 七升八合 (家割)
一 八升貳合 (高割)
一 壹斗六升
右御手当米儲受取申候(印)
○以下
一 御米拾五俵
右者当夏長々早賊虫入而度
之大風ニ而不熟難澁之趣
御上様ニ相聞候ニ付厚御憐
愍ヲ以中分以下之難澁之者

爲御手当被爲下置候ニ付
村方末々迄参会仕熟澁之上
右之通割賦致難有奉頂戴候
処相違無御座候以上
寛政十一年
未十二月
御役人中

御口達写
去ル廿七日御会所大庄屋
中被召出被仰渡候者
当夏長々早賊虫入而度之大
風ニ而不熟難澁ニ相聞候
御上ニも御時節柄故難相成
候得共其方共支配下村々ニ
而も至而難澁之者相聞候ニ
付厚御憐愍ヲ以中分以下之
難澁之ものへ御手当別紙之
通被下置候間御取納無滞
上納出精可仕旨被仰渡候
右之趣被仰渡候条承知可有
之候以上
未十二月
左之通御手当米被下置候
一 御米千俵 瓦林組

大物組
一 御米貳百五拾俵
一 御米三百俵
一 御米五百俵
一 御米貳百五拾俵
一 貳千三百俵

平野村
一 同五俵
一 同拾八俵
一 同貳拾三俵
一 同拾七俵
一 同四俵
一 同拾四俵
一 同拾六俵
一 同拾五俵
一 同拾六俵
一 同四俵
一 同壹俵
一 貳百五拾俵

郡家組村々被下米之扣
一 御米拾五俵 三条村
一 御米貳拾五俵 森村
一 同拾六俵 中野村
一 同拾五俵 小路村
一 同拾俵 北畑村
一 御米五俵 田辺村
一 同拾俵 岡本村
一 同拾俵 野寄村
一 同五俵 郡家村

平野村
一 同五俵
一 同拾八俵
一 同貳拾三俵
一 同拾七俵
一 同四俵
一 同拾四俵
一 同拾六俵
一 同拾五俵
一 同拾六俵
一 同四俵
一 同壹俵
一 貳百五拾俵

【芦屋村百姓六十八人願書】
芦屋市月若町
猿丸吉左衛門氏藏
○明和七年(一七七〇)
乍恐以口上書御願奉申上候
芦屋村 百姓共
一 当村方、年来不熟仕候ニ付、先御領主松平遠江守様之年
々御願申上、都合米四百九拾三俵御未進仕候所、毎年困
窮相逼リ、右御未進御返納可仕手段難成、依之村中困窮
之御願申上候へ、御開届之上、御田地御高六百三拾石
余之内ニ而、毎年減米四拾三石宛、未進返納之御手宛被
下置、去ル子年々来ル已年迄五ヶ年ニ返納仕候様被爲仰
付、村中難有仕合ニ奉存、子年一ヶ年分御返納仕候、然
ル処、去年丑二月御代官様御支配ニ罷成候得共、右御
手宛米無恙被下置、去年丑年分も先御領主様へ御返納仕
候管ニ庄屋方ニ而勘定仕候所ニ、十二月廿五日、右返納
米不納ニ付廿八日迄ニ急度上納仕候様ニ、庄屋伊左衛門
方へ披露御催促被下候ニ付、深江村庄屋ヲ頼頼、村中
へ披露被致候へ、当年之御手宛米四拾三石へ庄屋伊左衛
門引込ニ罷成候間、村方銀子ヲ以相弁候様ニ被申渡候

ニ付、村中男女共驚入、打寄評儀仕候得共、最早御年貢皆済仕候後一錢之貯も無之、早速此段御願可申上と奉存候処、年寄十左衛門、同七郎右衛門并ニ百姓之内三三人、違而被差留、此上ハ屎手代農道具代等之弘方村中一同ニ相止メ、銀子取揃申外無之と被申候、然共元來困窮之百姓、其上不作仕候ニ付諸方弘方も式三歩通之申訳而已ニ而相仕廻候ニ付、銀子調達不仕候所、右衆中段々村中ヲたゞき廻シ、或ハ老人又ハ妻子之巾着錢并寺方へ年玉之心当錢迄取集メ、漸貳拾石代出銀為致、尼崎様申わけニ罷登リ、半銀たらず上納仕、先ハ村中越年仕候、年明ケ早々村中小買物又ハ春先之屎手代等、一錢ノ仕送人も無之、ひしと手詰リ、此上ハ銘々及渴命申ニ付、村方入用之諸帳面吟味致可申様ニ存候処、伊左衛門當春正月十七日御役儀も動リ不申、片時も早ク退役御願申上度間跡役相談致具村方支配讓リ申度と年寄方へ被申渡、年寄十左衛門、七郎右衛門承、村中ヲ当村安樂寺へ寄セ、右之段被申候ニ付、又々村中色々相談之上、所詮是迄之通ニ而ハ村中及渴命候へハ、庄屋役他え譲リ替候へ、末々取続之品も出来可申との相談一決仕、其段年寄十左

衛門方へ申入候所、年寄而人外三三人之者共却而退役ヲ差留、是迄之通相動もらひ可申との事ニ御座候、余リ不思儀ニ奉存、是悲々々退役被致候様ニ申遣候得は、去暮貳拾石分^{（未カ）}之出銀儀ニ戻シ、是迄之通役儀相動可申段、伊左衛門被申候、然共尼崎表去年分上納も貳拾三石取込有之、其上当年^{（未カ）}末三ヶ年返納も御座候得は伊左衛門ニ役儀勤さ七置候而ハ、当年御年貢御上納等もいヶ様之取斗可致哉無心元、是迄十四ヶ年庄屋相勤候内、毎年正月四日旧冬之手尻勘定日ニ御座候得共、是迄我身勝手斗取捌、一向無勘定ニ而村中惣潰シニ仕候事、恐敷心底ニ奉存候事一前々村中伊勢講田有之、此作間米毎年石壹斗六升六合宛有之、是ヲ村中末々迄致割賦、御上納之足シニ仕來候処、此田地も庄屋方ニ而濫ニ売払、代銀取込居申由、是迄怒々不存、言語同断奉存候、縦売払候共買人無之管之処、内証ニ而売買致、其銀子役人斗割賦ニ而取込、榮花ニ暮居申儀、庄屋年寄副合村中ヲ取潰シ、ヶ様之姿ニ罷成候哉、偏ニ御吟味奉願上候

一先御領主様人足御入用之節ハ、村々差出シ申候、此歩食米として町人前ニ米五合宛被下置候、此歩食米も伊左

衛門役儀十四ヶ年之間、人足之者え一粒も相渡不申候、是ハ村入用ニ打込候杯と申、勘定不致候得共、是等ハ退役さへ被致候へハ改申所存無御座候得共、押而役儀相望被申候上ハ、右庄屋年寄被為 御召出、何卒庄屋退役被為仰付被下候ハ、村中之者共案堵仕、広太之御慈悲難有可奉存候、以上

芦屋村百姓

- 明和七寅年 四月
- 八右衛門(印)
 - 与右衛門(印)
 - 長左衛門(印)
 - 五右衛門(印)
 - 彌右衛門(印)
 - 武右衛門(印)
 - 勘右衛門(印)
 - 吉左衛門(印)
 - 半左衛門(印)
 - 与次右衛門(印)
 - 彌次右衛門(印)
 - 儀兵衛(印)
 - 勘兵衛(印)
 - 甚兵衛(印)
 - 市右衛門(印)
 - 惣兵衛(印)
 - 助右衛門(印)
 - 太右衛門(印)

- 庄右衛門(無印)
- 作左衛門(印)
- 嘉兵衛(印)
- 茂兵衛(印)
- 庄助(印)
- 善七(印)
- 十右衛門(印)
- 喜兵衛(印)
- 次兵衛(印)
- 安兵衛(印)
- 八郎右衛門(印)
- 又左衛門(印)
- 次郎兵衛(印)
- 長郎兵衛(印)
- 五郎兵衛(印)
- 松兵衛(印)
- 彌兵衛(印)
- 久兵衛(印)
- 吉右衛門(印)
- 半兵衛(印)
- 久兵衛(印)
- 七兵衛(印)
- 惣右衛門(印)
- 与右衛門(印)
- 勘左衛門(印)
- 彦兵衛(印)
- 徳右衛門(印)
- 半右衛門(印)

久左衛門(印) 吉郎右衛門(印) 次郎右衛門(印) 新兵衛(印) 新右衛門(印) 与惣兵衛(印) 四郎兵衛(印) 小左衛門(印) 久左衛門(印) 文右衛門(印) 安右衛門(印) 安左衛門(印) 三郎右衛門(印) 安左衛門(印) 利右衛門(印) 小右衛門(印) 茂次郎(印) 半次郎(印) 七兵衛(印) 孫左衛門(印)

【芦屋村百姓六十八人願書】
 芦屋市月若町
 猿丸吉左衛門氏藏
 ○明和七年(一七七〇)

乍恐御願奉申上候

芦屋村百姓 六拾八人

一 当村之儀、去々子年迄 松平遠江守様御領分ニ而、庄屋伊左衛門相勤被申候処、御地頭様人足御入用之節、村々え被仰付出勤仕候者共えハ、為御扶持米粍人五合宛被下置、何方ニ而も人足共ハ割賦頂戴仕候之所、当村之儀、右伊左衛門庄屋役十四年之間、右御扶持米人足共ハ一粒も被相渡候義無御座候

一 村方ニ伊勢講田御座候而、此作徳米一ヶ年ニ粍石粍斗六舛六合宛、毎年御歳貢之足シニ相成候処、右田地庄屋方ニ而濫ニ売払、代銀取込居被申候由、私共會而不奉存候、右田地売買ニ年寄中証文加印可被致様無御座候所、是又不審ニ奉存候

一 先御地頭様之節、村方困窮ニ付、御願奉申上候処、御聞届被遊、御未進米四百九拾三俵之分、去ル子年より来ル辰年迄五ヶ年賦ニ被成下、粍ヶ年ニ米四拾三石ツ、返

辻六郎左衛門様
 御役所

納ニ被仰付被下、去々子年分上納仕、去五年之儀も村方必右四拾三石庄屋方ニ相納候処、尼崎表不納被致候由ニ而、去十二月廿八日殿敷御催促御座候ニ付、年寄十左衛門、同七郎右衛門村中ニ披露被致候ハ、右四拾三石庄屋引込ニ相成候間、村中ニ取替相濟具候様ニ御座候ニ付、奉齋村方ニ相濟御座候段御断可申上之処、年寄兩人達而差押ハ、如何様共振替先相納候様ニ御座候得共、困窮ニ而出方無御座、人々年取物五升粍斗ツ、有之米迄売払、漸貳拾石代相調候付、殘貳拾三石ハ御年延願ニ而当分ニ通ニ相納リ申候

但此段、元来村方之未進ニ而ハ無御座候得共、庄屋之引込と申儀ハ不軽事ニ付、村未進ニ引請、御憐愍之筋相願可然との儀ニ付、年寄并頭百姓之内惣代印形ニ而御願申上、五年賦返納ニ被為成下候、然ハ右年賦米実ハ庄屋方ニ相納可申筋ニ御座候ハ共、不身上ニ付不及力村弁ニ罷成候、勿論先御地頭様ニ村中引請之御請書差上置候事故、今更異姿仕候儀ハ無御座候得共、去五年右之通ニ重ニ難波致させ被申候儀不実之至ニ奉存候

一 前々村方免割節、高懸リ入用之儀ハ凡入ニ仕、毎年御

年貢一所ニ庄屋方ニ米納ニ致置、正月四日ニ免尻勘定と号、百姓打寄勘定仕、余リ銀翌年入用之足シニ仕来リ候処、右伊左衛門十四年之間、右免尻勘定不仕、毎年催促仕候得共、彼是と相延シ、剩去五年分外ニ高石ニ凡七匁五分程ツ、取立、当正月四日も勘定不仕候ニ付、右入用小前帳面相改申度、并右人足扶持、伊勢講田売代銀、去五年尼崎表不納米共、得と相しらへ申度、年寄中ニ相届可申と存候所、当正月十七日伊左衛門儀退役致度旨被申出候ニ付、年寄承、当村安樂寺ハ百姓寄合評儀之上、此度退役被致候ハ、右品々改候儀相止メ、穩便之沙汰ニ可仕と一同相談相決候ニ付、差扣罷在候所、伊左衛門義今以退役御願も不申上、其儘ニ相勤被申候所存ニ相見え申候ニ付、乍恐御願奉申上候

右之通ニ御座候、伊左衛門儀其儘庄屋役被相勤候儀ニ御座候ハ、右一々立合勘定被致、差引等潔白ニ相濟候上勤役被致候様仕度奉願候、私共儀困窮百姓之儀故、臨時之失堅(取力)御座候而ハ、少々之儀ニ而も相続之障リニ相成、難儀仕候間、御慈悲之上庄屋伊左衛門、年寄十左衛門、七郎右衛門被為召出、御吟味被為成下候ハ、難有可奉存候、以上

【芦屋村百姓百九軒願書】

故猿丸又左衛門氏書寫文書

○文政二年(一八一九)

御支配所撰州尾原郡芦屋村

百八拾壹軒之内七拾貳軒ヲ相除キ

残百九軒百姓

惣代 嘉兵衛

忠兵衛

願方 源右衛門

市次郎

同村七拾貳軒頭取

相手

年寄 九左衛門

同断 伝九良

百姓代庄左衛門

一 当村庄屋・年寄・百姓代動役之義ハ、往古ハ百姓一統入札ヲ以三役人相定メ来リ、近來庄屋九平退役後、年寄兼帯ニ相成、年寄式人・百姓代志人、三人三ヶ年限リ入札仕来リ候ニ付、当卯年ハ三ヶ年季ニ罷成候間、右役中退役之旨申出候ニ付、如先例之東願并山手・茶屋・淡方共五ヶ所之百姓一統及參會ニ、銘々人相実鉢歸服三人ヲ見立入札可仕存居申候處、右三役之内年寄伝九良ハ惣分入札相成難、当村之義ハ高持ニ不抱、宮講七拾貳軒ニ役家取極リ有之由、拳而取極之旨申立候ニ付、私共及及應對ニ候得ハ、芦屋一村ニ限リ響水吞百姓たり共宮講百姓ニ候迎自儘ニ役儀相動候筋無之筈と存候得ハ、既ニ以七拾貳軒之内当節身上及及私底ニ地

出、是迄通り兼帯ニ相動候共、又ハ庄屋見立候共、三ヶ年限リニ而、五ヶ所大小之百姓一統入札之上、不相願役儀七拾貳軒ヲ押而相動候段相省ク候間、仕来リ通り上下百姓相替リ候儀無之候間、一和順之上役儀入札ヲ以取極メ候儀御利解被仰聞被下候様奉願上御聞濟被成下候得ハ御慈難有奉存候、以上

文政式年卯年八月四日

右惣代 嘉兵衛

忠兵衛

源右衛門

市治良

前書之通相手取候間、奥印無之御歎キ奉願上候、此段御断奉申上候、以上

五条 御役所

【芦屋村宮講七十二軒返答書】

故猿丸又左衛門氏書寫文書

○文政二年(一八一九)

御下尾原郡芦屋村庄屋兼帯

年寄 九左衛門

同断 伝九良

百姓代 庄左衛門

一 当村方之義ハ、本郷式ヶ所、枝郷四ヶ所、六ヶ所ニ合分リ罷在候得共、一地一村之場所ニ御座候所、此度百九軒百姓惣代とし而、私共始七拾貳軒之百姓ニ相替リ被願上候、然ル處七拾貳軒と唱へ候儀ハ、永録元戊午年御地頭三好修理大夫御領分之節当村百姓不殘離散仕、同州芥川辺へ罷越住居仕候所、同三年中

借り借家ニ而、其上御年貢未進及遲滞候者儘有之、殊ニ以先庄屋不心得ニ付拾貫目余之引員銀當時困窮之百姓一統ハ并方仕有之候難渡之義中ニ、七拾貳軒ハ役義難任セ、兎角身上并ニ人柄ヲ見立

一 統ハ入札無之候ねは難相頼、夫共御年貢有之節ハ、百九軒ニ不抽七拾貳軒ハ、并銀被致具候得ハ、いヶ儀共可被致、尤御太切之御年貢取立并ニ村及取極リ相動候義ハ相分、百姓之相談入札ヲ相減シ、役家之宮講七拾貳軒ニ相定メ候義ハ、早竟御上様之御内節之沙汰ニ而、全自格ヲ相構へ候義存候、然ル上ハ御上様へハ奉差上罷有候百姓一統之御請眞証文御下さし可奉願上候間、其上勝手ニ動役可被致旨、申入候所、左様候得ハ以來庄屋役ハ東西相極メ年寄百姓代ハ山手・茶屋・淡方ハ相動候儀、当役被申聞、一統決着罷有候所、又々及違変、矢張宮講七拾貳軒ニ相限り候杯と申立食着不申、依之村方人氣速散乱仕候、納り方不宜敷候、前書申上候通、村中之内老人たり共不承知申有之候得ハ、役義難相定メ候程之儀、殊ニ以右役定及違変候得共、響三方ニ而年寄・百姓代不相動候儀、其儀不抱、年々諸勘定も不響ニ奉存候上、右鉢宮講七拾貳軒ハ役家ニ限リ候杯と自格ヲ定メ、私共分外之百姓同様ニ取斗、勘定向勿論參會立合セ不申候、右不案内ニも奉存候、殊更私共一統ハ役替リ御請眞証文迄も奉差上候義お及其却ニ見立入札ニ不抱杯と御私領同様之不持申段、心得違哉と奉存候得共、役減ヲ以不利懸可申儀、不得止事、乍恐奉願上候、何卒村役共被為召

年三好日向守様方以御使者、如前々立歸り相続仕候様被為仰下、則同年十一月廿一日御奉書頂戴仕、右七拾貳軒之者如前々立歸り、芦屋村相続唯今迄仕来リ罷在候御事

一 其後当村大川濁水之節、阿堤共押切、御田畑ハ勿論、人家并ニ諸帳面諸物は不殘流失仕候も、寛文元五年七拾貳軒之者ハ御檢地御改奉請罷在候

一 七拾貳軒由緒と申候儀ハ、往古ハ例年九月十五日氏神祭礼之朝御供方御神酒方両講取給ひ奉備則神前ニ、七拾貳軒者共神前詣テ左右と座ヲ改、祭礼之嘗ヲ仕来罷在候

一 枝郷浜新田之義も、右七拾貳軒開發仕、寛文五巳年御檢地奉請候御事

一 枝郷茶屋新田之義も右七拾貳軒開發仕、寛文十未年居家敷御檢地奉請候御事

一 枝郷樋口新田之義ハ、同州尼ヶ崎樋口屋九平と申者開發仕候、御檢地奉請候御事

一 山新田之義も、七拾貳軒之内之者ハ開發仕、元録四未年居家敷御檢地奉請候御事

一 右之外、諸新田は勿論水車家敷并ニ水車取建之義も、七拾貳軒之内ハ開發仕奉請候御事

一 此度惣分代百姓と唱へ、他國他村ハ居附百姓之者共ハ新規之儀お種々申立被願上候、山新田・茶屋新田・浜新田等ニも役方も

相動候様申立候得共、往古々庄屋役・年寄役之儀、本郷式ヶ所
 西青屋・東青屋ニ限り、七拾式軒之内相動罷在候、右枝郷之
 場、并ニ居村之者共へ役義為相動候儀ハ決而無御座候
 一御年貢勘定并ニ村方諸勘定等之儀、立会セ不申不審ニ存候様申
 立候得共、是迄年々百姓一統立会勘定仕来り罷在候、庄屋・年
 寄・百姓代勤役之儀ハ、右式ヶ所、山新田、ノ三ヶ所ニ限り七
 拾式軒之内人柄ヲ見立差附候而役儀相動メ来り候所、拾ヶ年以
 前文化七午年、先々庄屋九平役好并ニ私欲ヲ以惣分百姓と右九
 平と馴合候而入札仕始メ、乍併右入札之儀ハ東西式ヶ所ニ相限
 り七拾式軒之者ヲ見立入札仕候所、右九平落札ニ相成申候、右
 之外種々申立候得共、全旧来之儀ハ少も無御座候、且此度惣代
 願人始メ、外五七人斗之者共、銘々役好ミ仕、拾ヶ年以來折々
 最寄内談ヲ取メ新規之儀ヲ相工ミ候義ニ御座候、尤此度百九軒
 願方惣代ヲ申立候得共、全百九軒一同ニ而ハ無御座候、右頭取
 之者共欲心ヲ以申立、村方一同人氣懇數仕困窮彌増難之基と
 歎ケ數奉存候、是迄通七拾式軒外ハ勤役之儀ハ一同不承知ニ
 御座候、乍恐此段格別之被為聞召、願人者共御召之上、右先規
 仕来り通違変不仕様御利解被為仰聞被成下候得は、御慈悲難
 有仕合ニ奉存候、以上
 文政二卯年八月十七日
 五条
 御役所

【近世領主一覽】

襲封等の年月	三條村	津知村	青屋村	打出村
一六一七・元和三・七	戸田氏鏡(左門)	近江膳所崎より移封		
一六三五・寛永三・七	寛永二年(大蔵)			
一六四三・寛永三・三	青山幸成(大蔵少輔)	遠江掛川より移封		
一六八四・貞享一・九	青山幸利(大膳亮)			
一六九四・元祿七・八	青山幸督(播磨守)			
一七一〇・宝永七・三	幸督は弟兵部幸澄に二千石を分与、淡青			
一七一〇・宝永七・三	屋新田等九一石余はその知行地となつた			
一七一〇・宝永七・三	青山幸秀(大膳亮)			
一七一〇・宝永七・三	正徳一年(遠江)			
一七一〇・宝永七・三	松平忠篤(遠江守)	遠江掛川より移封		
一七五一・寛延四・三	松平氏は廢藩置縣まで歴代遠江守を稱した			
一七六六・明和四・二	松平忠名			
一七六九・明和六・二	松平忠告			
一八〇五・文化三	尼崎藩は藩筋を天領として収公せられ、			
一八二七・文政三	芦屋村・打出村は天領となつた			
一八二九・文政三・三	松平忠誨			
一八六一・文久一・八	松平忠興			

2 租 税

【三条村免定】 芦屋市三条町、小阪作兵衛氏蔵
 ○文化三年(一八〇六)

- 尼崎領實歲免定
- 一高百九拾七石四斗九分 三条村
 - 百八拾九石四斗七分 田方
 - 取米百四拾九石六斗貳分七合 七九分
 - 八石八分九合 如方
 - 取米四石貳斗六分 五貳分
 - 一高貳石五斗貳分 同村新田
 - 取米貳石八分 四三分
 - 一高貳斗七升六合 正徳三巳改 新 畑
 - 取米六升六合 貳貳分
 - 一高石四斗貳分五合 享保五子同六丑改 新 畑
 - 取米貳斗八升三合 貳取
 - 一高貳斗七合 享保九辰改 新 田
 - 取米三升九合 壹九分
 - 一高斗三升三合 寛延二巳改 山新畑

取米壹斗三合 壹取

取米合百五拾五石三斗九合(高嶽彌太郎)
 一斗貳分 内貳斗 享保八卯同九辰改 山見取米
 殘壹俵七升(印上) 上納 元文三年改山見取米
 一米三斗(印上) 右之通当免相定之条、庄屋年寄小百姓立会致免割、年貢米
 極月十日以前急度皆済可仕者也、
 文化三寅年十一月十五日 外谷郷右衛門(印)
 丸子善左衛門(印)
 高塚 彌藤太(印)

前書之通当立毛御役人申立会見分免相定り申候、以上
 大庄屋大物 生沢 源十郎(印)
 同 三反田 吉井 又兵衛(印)
 同 荒牧 岸添吉左衛門(印)

同 瓦林 岡本 勘四郎 (印)

【三条村免割目録】青屋市三条町、小阪作兵衛氏藏
○寛政元年(一七八九)

(表紙)

寛政元年
酉 歳 免 割 目 録
三条村

一高百九拾七石四斗九舂
内拾貳石貳斗八舂七合 本田方之内西檢見引
残百八拾五石貳斗三合 毛 附 高
分
百七拾七石壹斗壹舂四合 田 方
取米百三拾八石壹斗四舂九合 七八分
八石八舂九合 畑 方
取米四石壹斗貳舂五合 五舂分
一高貳石五斗壹舂合 同村新田
取米壹石八舂 四三分
一高貳斗七舂六合 正徳三己改 新 畑
取米六舂壹合 貳貳分

一高壹石四斗壹舂五合享保五子同六己改新 畑
取米貳斗八舂三合 貳 取
一高貳斗七合 享保九辰改 新 田
取米三舂九合 壹九分
一高壹斗三舂壹合 寛延二己改 山 新 畑
取米壹舂三合 壹ッ取
取米合百四拾三石七斗五舂
一米壹俵貳斗七舂 享保八卯同九辰改山見取米
一米三斗 元文三年改 山見取米
一銀三百拾五匁分七厘 組 割
一米壹石貳斗三舂貳合 同 断
一銀六拾匁八分七厘 巡見入用
一銀四拾八匁三分六厘 狩人割
一銀貳拾三匁 大廻り様入用
一米五舂 伊勢初穂
一九匁 米入雜用
一銀六拾七匁 国役銀
一米壹石九斗 庄屋給
一米四斗 尼宿米

一貳匁貳分五厘 茶船ちん
一銀貳拾匁 送り物入用
一米壹石貳斗 船 賃
一米貳舂五合 (船賃カ) 大学寺御供米
一米貳斗五舂 今日造用

此割三歩七厘
御免五ッ壹歩
此掛り物五歩七厘
畑方免 合六ッ壹歩
一米七舂七合 新田延口米
此割三歩四厘
御免四ッ三歩
同村新田免 合四ッ七歩
一米四合 新 田
免合貳ッ四歩
享保新田延口米

九石九斗貳舂
米々五石五舂七合
惣米合拾四石九斗七舂七合
此割七歩六厘
米九石八斗三舂六合 田方
此割七歩貳厘 延口米
御免七ッ八歩 此懸り物七歩六厘
田方免 合九ッ貳歩八厘
一高八石八舂九合 畑 方
取米四石壹斗貳舂五合
米貳斗九舂四合 延口米

免合壹ッ九歩
御免壹ッ八歩
一米三合三勺
右之通、村中致立会、免割算用仕候、若相違御座候ハ、
重而算用可仕候、
寛政元酉年十一月 三条村
同村庄屋 惣 百姓
伊 作 殿

【三条村御細見願帳】 芦屋市三条町、小阪作兵衛氏藏
寛政四年(一七九二)

(表紙)

寛政四年
子九月

子秋御細見願帳
野寄組
三条村

一上田彦敬拾九歩	壹太兵衛
内卷斗三合引	
一上田貳敬六歩	嘉兵衛
内卷斗貳舛七合引	
本步壹敬貳拾六歩之内	
一上田貳敬貳拾三歩	三六兵衛
内六舛合引	
一上田三敬拾五歩	四伊左衛門
内八舛合引	
一上田壹敬拾八歩	五同 人
内三舛七合引	
一上田壹敬拾六歩	六同 人
内七舛合引	
一上田六敬拾四歩	七同 人
内六斗貳舛六合引	
本步貳敬貳拾六歩之内	
一上田貳敬拾九歩	八久兵衛
内卷斗貳舛合引	

本步四敬貳拾貳歩之内	
一上田四敬拾六歩	九同 人
内貳斗六舛合引	
本步五敬拾九歩之内	
一上田五敬拾貳歩	十太兵衛
内五斗貳舛七合引	
一上田壹敬拾三歩	十一市兵衛
内卷斗四舛合引	
一上田壹敬拾三歩	十二同 人
内卷斗三舛合引	
本步三敬貳歩之内	
一上田貳敬拾五歩	十三同 人
内貳斗四舛四合引	
一上田貳敬拾貳歩	十四彌三右衛門
内卷斗五舛合引	
一上田貳敬拾八歩	十五同 人
内五舛七合引	
一上田九敬五歩	十六伊 作
内四斗貳舛合引	
一上田貳敬拾五歩	十七嘉右衛門
内四舛三合引	
一上田貳敬拾三歩	十八同 人
内五舛六合引	
一上田壹敬拾貳歩	十九同 人
内貳舛合引	
一上田壹敬拾八歩	廿同 人
内卷斗八合引	
一上田壹敬六歩	廿一善右衛門

内貳舛合引	
一上田六敬歩	廿二市兵衛
内貳斗四舛合引	
一上田拾五歩	廿三同 人
内貳舛九合引	
一上田貳敬拾貳歩	廿四善右衛門
内八舛合引	
一上田三敬九歩	廿五市左衛門
内卷斗四舛四合引	
一上田三敬拾五歩	廿六同 人
内八舛合引	
一上田四敬六歩	廿七五兵衛
内卷斗四舛五合引	
本步五敬六歩之内	
一上田三敬拾四歩	廿八長兵衛
内貳斗壹舛九合引	
一上田壹敬拾歩	廿九彌三右衛門
内六舛合引	
本步九敬拾七歩之内	
一上田八敬拾五歩	三十彌三兵衛
内貳斗四舛四合引	
一上田四敬拾三歩	三十一七郎兵衛
内卷斗九舛合引	
一上田三敬四歩	三十二伊 作
内卷斗八合引	
一上田六敬拾四歩	三十三同 人

内卷斗五舛六合引	
一上田壹反貳敬拾五歩	三十四彌三兵衛
内卷斗四舛四合引	
一上田四敬六歩	三十五五兵衛
内卷斗六舛九合引	
本步五敬拾歩之内	
一上田三敬拾歩	三十六忠兵衛
内卷斗五舛三合引	
一上田壹敬拾歩	三十七久兵衛
分米壹斗七舛七合引	
一上田九反壹敬拾四歩	
一上田三反七敬拾歩	
合卷町貳反九敬五歩	
右之通御細見奉願上候以上	
寛政四年子九月	
御奉行様	
子秋檢見引寄	
高合五石六斗三舛八合(河合庄長格ノ)	
以上	
九月	
杉浦彌次右衛門(印)	
河合 庄兵衛(印)	
三条村年寄 宇兵衛(印)	
同村庄屋 伊 作(印)	

【三条村御年貢米納日記】 芦屋市三条町、小阪作兵衛氏藏

(表紙)

文政四年
御年貢米納日記
巳九月吉日

嘉兵衛
一御米六俵 仁右衛門車渡り
一御米拾貳俵 仁右衛門車渡り
一御米六俵 仁右衛門車渡り
一御米四俵 長右衛門入

三橋 崎右衛門(印)
西尾喜久右衛門(印)
岡沢 和乎太(印)
大庄屋大物
生沢 源十郎(印)
同 野寄
高井与左衛門(印)
同 塚口
堀部甚左衛門(無印)

彌三兵衛
一御米八俵 甚兵衛方買納
宇兵衛
十月廿二日 今津村
一御米四俵 米や善四郎
十一月六日 八幡村
一御米四俵 惣右衛門
一御米六俵 仁右衛門車渡り
彌三右衛門
八月廿九日 定五郎入
一御米壹俵 仁右衛門車渡り
一御米四俵 仁右衛門車渡り
八月廿九日 今津村
一御米八俵 米や善四郎
同廿九日 八郎兵衛
十月廿二日 今津村
一御米八俵 米や善四郎
同廿九日 納手形
十一月六日 八幡村
一御米九俵 惣右衛門
仁右衛門
十月廿二日 今津村
一御米貳俵 米や善四郎
久兵衛
一御米四俵 仁右衛門車渡り

清兵衛
七月九日 作兵衛入
十一月晦日 六兵衛方買納
市兵衛
(記事ナシ)
十月廿一日 今津村
一御米四俵 米や善四郎
一御米拾俵 仁右衛門車渡り
喜平次
十月廿一日 今津村
一御米四俵 米や善四郎
十一月六日 八幡村
一御米四俵 惣右衛門
利右衛門
十月廿一日 今津村
一御米四俵 米や善四郎
一御米拾俵 手形納り
一御米貳俵 八幡納り
忠右衛門
一御米四俵 仁右衛門車渡り
甚兵衛
十月廿一日 今津村
一御米貳俵 米や善四郎

納り手形
一御米拾俵 兵右衛門
一御米拾俵 手形納り
又兵衛
十月廿一日 今津村
一御米四俵 米や善四郎
一御米九俵 仁右衛門車渡り
市左衛門
一御米九俵 仁右衛門車渡り
太兵衛
十月廿二日 今津村
一御米四俵 米や善四郎
十一月六日 八幡村
一御米貳俵 惣右衛門
一御米八俵 手形納り
善右衛門
吉兵衛
長兵衛
伊左衛門

今津村
一御米四俵 米や善四郎
一御米九俵 甚兵衛方買納
一御米三俵 仁右衛門車渡り
長右衛門
一御米拾貳俵 仁右衛門車渡り
内四俵吉右衛門入
一御米拾貳俵 仁右衛門車渡り
内貳俵七三郎分
一御米貳俵 仁右衛門車渡り
茂兵衛
十月廿二日 今津村
一御米六俵 米や善四郎
十一月六日 八幡村
一御米四俵 惣右衛門
内貳俵 喜平次入
伊助
一御米六俵 仁右衛門車渡り
彌兵衛
一御米拾俵 仁右衛門車渡り
照榮寺

十一月六日
一糶米貳斗 納り
但し切舟
郷 払 扣
今津村
一御米五拾俵也 米屋善四郎
右御差紙髓ニ受取申候以上
巳十月七日
右御米十月廿二日ニ相渡
一御米五拾俵 米や善平次
右御差紙髓ニ受取申候
巳十月廿五日
(御印)
一御米貳拾五俵也 田辺村作右
右御差紙髓ニ受取申候以上
巳十月廿七日

一御米五俵也 森村
右御差紙髓ニ受取申候以上
巳十月廿六日
一御米七俵也 三条村仁右
右御差紙髓ニ受取申候 以上
巳十一月十一日
一御米百俵也 三条村
右御差紙髓ニ受取申候以上
巳十一月廿日
一御米七拾五俵也 三条村仁右
右御差紙髓ニ受取申候以上
巳十一月十日

芦屋市三条町、小阪作兵衛氏藏
文政二年(一八一九)

文政貳知年 郡家組
御年貢米納通 三条村
九月 高橋房右衛門(印)

取石斗七斗四合 新田
取四斗三斗 見取
米斗式合 年賦上納
式斗合 山番
式斗四合 ありき
取石九斗六斗四合
内五斗七斗 吉兵衛方入
三斗三斗 市兵衛方入
伊作方入
三斗三斗四合 銀納
右之通皆済

一高六石三斗六斗八合 宇兵衛
取五石七斗五斗七合 田
一高九斗九合 畑
取六斗斗合
一高三斗斗合 新田
取斗斗六合 見取
米八合 山はん
式斗合 ありき
六斗五合 ありき
五石九斗三斗斗合
内米拾四俵 納り
人足ふち

一高四石三斗五斗七合 兵右衛門
取三石八斗四斗九合 田
一高斗斗八斗斗合 畑
取斗斗斗斗斗合
一高五斗九合 新田
取斗斗九合 年賦上納
斗八合 山はん
式斗合 ありき
四斗五合 ありき
四石七斗六合
内米九俵 派出し
又糯米斗 納り
三斗七斗六合 不足
又五合 人足ふち
三斗七斗斗合 受取
皆済

一高四石八斗六斗六合 作右衛門
取四石三斗九斗九合 田
一高斗斗斗斗斗合 畑
取七斗五合
一高四斗八合 新田
取斗斗斗斗合 年賦上納
米斗式合 山はん
三斗斗合 ありき
五斗斗合 ありき
四石五斗八斗斗合
内米拾俵 納り
五斗九合 ありき
五石三斗八斗斗合
内米拾俵 納り
又御膳米式俵 太兵衛方へ
又斗斗五斗 半米取
三斗斗合 銀
七斗 皆済

一高五石七斗三斗斗合 三郎兵衛
取五石斗斗八斗斗合 田
一高斗斗斗斗斗合 畑
取七斗斗合
一高四斗八合 新田
取斗斗斗斗合 年賦上納
米斗式合 山はん
三斗斗合 ありき
五斗九合 ありき
一高五石七斗三斗斗合
内米拾俵 納り
五斗九合 ありき
五石三斗八斗斗合
内米拾俵 納り
又御膳米式俵 太兵衛方へ
又斗斗五斗 半米取
三斗斗合 銀
七斗 皆済

一高三石三斗三斗 市兵衛
取斗斗斗斗斗合 田
一高斗斗斗斗斗合 畑
取斗斗斗斗斗合
一高五石七斗三斗斗合 三郎兵衛
取五石斗斗八斗斗合 田
一高斗斗斗斗斗合 畑
取七斗斗合
一高四斗八合 新田
取斗斗斗斗合 年賦上納
米斗式合 山はん
三斗斗合 ありき
五斗九合 ありき
一高五石七斗三斗斗合
内米拾俵 納り
五斗九合 ありき
五石三斗八斗斗合
内米拾俵 納り
又御膳米式俵 太兵衛方へ
又斗斗五斗 半米取
三斗斗合 銀
七斗 皆済

一高六石三斗六斗八合 宇兵衛
取五石七斗五斗七合 田
一高九斗九合 畑
取六斗斗合
一高三斗斗合 新田
取斗斗六合 見取
米八合 山はん
式斗合 ありき
六斗五合 ありき
五石九斗三斗斗合
内米拾四俵 納り
人足ふち

一高六石五斗七斗三合 利右衛門
取五石九斗四斗斗合 田
一高六石三斗六斗八合 宇兵衛
取五石七斗五斗七合 田
一高九斗九合 畑
取六斗斗合
一高三斗斗合 新田
取斗斗六合 見取
米八合 山はん
式斗合 ありき
六斗五合 ありき
五石九斗三斗斗合
内米拾四俵 納り
人足ふち

一高五斗斗斗斗合 畑
取三斗斗斗斗合 新田
一高三斗斗斗斗合 畑
取斗斗斗斗斗合
一高五斗九合 新田
取斗斗九合 年賦上納
斗八合 山はん
式斗合 ありき
四斗五合 ありき
四石七斗六合
内米九俵 派出し
又糯米斗 納り
三斗七斗六合 不足
又五合 人足ふち
三斗七斗斗合 受取
皆済

一高五石六斗五斗四合 甚左衛門
取五石斗斗斗斗斗合 田
一高斗斗斗斗斗合 畑
取斗斗斗斗斗合
一高五斗九合 新田
取斗斗九合 年賦上納
斗八合 山はん
式斗合 ありき
四斗五合 ありき
四石七斗六合
内米九俵 派出し
又糯米斗 納り
三斗七斗六合 不足
又五合 人足ふち
三斗七斗斗合 受取
皆済

一高六石七斗 甚兵衛
取六石五斗七合 田
一高三斗五斗八合 畑
取斗斗斗斗斗合
一高六石七斗 甚兵衛
取六石五斗七合 田
一高三斗五斗八合 畑
取斗斗斗斗斗合
一高六石七斗 甚兵衛
取六石五斗七合 田
一高三斗五斗八合 畑
取斗斗斗斗斗合

一高六石七斗 甚兵衛
取六石五斗七合 田
一高三斗五斗八合 畑
取斗斗斗斗斗合
一高六石七斗 甚兵衛
取六石五斗七合 田
一高三斗五斗八合 畑
取斗斗斗斗斗合
一高六石七斗 甚兵衛
取六石五斗七合 田
一高三斗五斗八合 畑
取斗斗斗斗斗合

又兵衛
一高七石卷斗八舛貳合 田
取六石四斗九舛三合
一高卷斗九舛貳合 田
取卷斗七合 新田
取卷斗三合 年賦上納
米卷斗貳合 山はん
七舛四合 山はん
六石七斗三舛三合
内米九俵 納り
五合 人足ふち
一三石卷斗貳舛八合不足
内三斗貳舛八合半米取
貳石八斗 銀
皆済

四舛五合 あるき
一四石六舛 納り
内米九俵 納り
三斗九舛九合 山はん給
五合 人足ふち
一四舛三合過 渡済
皆済
一高六石八斗八舛八合 伊左衛門
取六石貳斗貳舛七合 田
一高卷斗九舛八合 田
取七舛貳合 新田
一高貳舛 見取
米三斗 年賦米
貳舛四合 山はん
七舛三合 あるき
六石七斗貳舛七合
内米拾四俵 納り
四斗八舛 納り
此初式俵 人足ふち
五合 人足ふち
一六斗四舛貳合 不足
皆済
一高五石四斗卷舛合 田 太兵衛

取四石八斗九舛貳合 田
一高七舛六合 新田
取四舛七合 新田
取卷斗三舛 新田
取卷斗五合 見取
米五合 年賦上納
三合 山はん
九合 山はん
五舛八合 あるき
一五石卷斗五舛 甚兵衛
内米九斗五舛 甚兵衛
又米九斗五舛 甚兵衛
又式石四斗 伊左衛門
八斗五舛 入

一高五石九斗八舛五合 嘉右衛門
取五石四斗卷舛合 田
一高貳舛七合 新田
取卷舛七合 新田
一高貳舛 新田
三合 山はん
六舛合 あるき
一五石五斗貳舛三合 納り
糯米貳斗 納り
一五斗貳舛三合 不足
内五合 人足ふち

取三舛四合 年賦米
米六合 年賦米
三合 山はん
貳舛合 あるき
八合 山はん
一八斗卷舛六合 請取
但し符儘受取申候
長兵衛
一高五石六斗八舛三合 田
取五石卷斗三舛八合 田
一高三舛貳合 新田
取貳舛 新田
一高貳斗卷舛六合 新田
取卷斗貳合 年賦米
米卷舛八合 年賦米
三合 山はん
貳舛合 あるき
六舛 山はん
一五石三斗六舛貳合 納り
内米拾貳俵 納り
糯米貳斗
一三斗六舛貳合不足
内六舛貳合 半米取
外二八人足ふち 卷舛差次相済
三斗 不納
銀
一高貳石三斗卷合 市右衛門 田

取貳石八舛 新田
一高貳斗貳舛六合 新田
取卷斗三舛八合 新田
一高四舛八合 新田
取貳舛三合 見取
米貳舛七合 年賦米
三合 山はん
貳舛合 あるき
一貳石三斗貳舛四合 納り
内米貳俵 人足ふち
又卷舛 人足ふち
一壹石五斗卷舛四合不足
皆済
一高貳石六舛八合 新兵衛 田
取卷石八斗七舛 田
一高卷石五斗七舛 新田
取九斗五舛七合 新田
一高四斗四舛合 新田
取卷舛八合 見取
米卷斗貳舛見取
卷舛貳合 年賦
三合 山はん
貳舛合 あるき
四舛合 あるき
一三石五舛貳合
七十匁五分
代式百拾五匁七分七厘

右之通受取皆済
七郎兵衛
一高六石卷斗貳舛七合 田
取五石五斗三舛九合 田
一高五斗四舛五合 新田
取三斗三舛貳合 新田
取卷斗四舛九合 新田
三合 山はん
貳舛合 あるき
七舛合 あるき
一六石卷斗卷舛四合 納り
内米拾四俵 納り
糯米貳斗
卷舛五合 人足ふち
一貳斗九舛九合 受取
皆済
伊右衛門
一高八石卷斗四舛四合 田
取七石三斗六舛貳合 田
一高貳斗九舛四合 新田
取卷斗七舛九合 新田
一高八舛九合 新田
三合 山はん
貳舛合 あるき
八舛六合 あるき

一高八斗七合 長右衛門 田
取七斗三舛 田
一高貳舛貳合 新田
取卷舛四合 新田
一高七舛四合 新田
一七石六斗九舛三合 納り
内米貳俵 人足ふち
卷舛 人足ふち
一六石八斗八舛三合 納り
内糯米卷舛 半米取
八舛三合 半米取
一六石四斗 不足
皆済
彌兵衛
一高三石卷斗卷舛九合 田
取貳石八斗貳舛 田
一高七舛三合 新田
取四舛五合 新田
取卷舛貳合 新田
取六合 年賦米
米六合 年賦米
三合 山はん
三舛三合 あるき
一貳石九斗三舛四合 源兵衛
内米貳俵 人足ふち
五合 半米入
一壹石九合 半米入
一壹石七斗不足
内四斗 納り
一壹石三斗 不足
外二卷俵算用違
利兵衛
一高三石卷斗卷舛六合 田

七 源五郎 太郎右衛門 伊勢田 官 愛宕田 齋田 念
 依田 脇当田 寺 道場 現營 平八 善八 源太郎 太
 右衛門 久右衛門 小右衛門 三次郎 四郎助 新左衛門
 又左衛門 三次郎 彌左衛門 平兵衛 角兵衛 六太夫
 助三郎 六兵衛 忠兵衛 九左衛門 忠兵衛 權兵衛 新
 助 八右衛門 四郎兵衛 喜兵衛 作左衛門 平藏 七左
 衛門 太郎兵衛 勘右衛門 徳左衛門 孫十郎 新十郎
 久左衛門 次郎右衛門 太左衛門 伊左衛門 久藏
 久四郎 半三郎 理右衛門 次兵衛 次右衛門 仁右衛門
 權四郎 いとつ家 長左衛門 次郎兵衛 佐兵衛 中右衛
 門 次左衛門 由右衛門 五兵衛 伝十郎 源兵衛 留右
 衛門 彌兵衛 源四郎 太兵衛 九郎左衛門 長右衛門
 市左衛門 次郎左衛門 彌十郎 伊勢講中 源兵衛 彌三
 右衛門 庄右衛門 庄三郎 市兵衛 喜左衛門 七郎右衛
 門 吉十郎 喜兵衛 庄三郎 半兵衛 嘉兵衛 太郎兵衛
 市兵衛 勘四郎 平兵衛 甚四郎 七郎兵衛 五兵衛 藤
 左衛門 清兵衛 与三右衛門 新左衛門 喜右衛門 中右
 衛門 庄右衛門 彌太夫 五郎右衛門 長右衛門 作右衛
 門 助左衛門 仁右衛門 左兵衛 与兵衛 又四郎 九郎
 左衛門 彦兵衛 庄二郎 半二郎 庄兵衛 次郎兵衛 新
 兵衛 源十郎 惣作 左次兵衛

【打出村免定表】 〇各年の「御年貢米取立算用帳」の記載による。

	享保20年 一七三五年	元文4年 一七三九年	寛保3年 一七四三年	延享4年 一七四七年
本郷田方	八ツ八分	八ツ七分	八ツ八分	八ツ七分
本郷畑方	四ツ九分	五ツ	五ツ	五ツ七分
古新田	六ツ七分	六ツ六分	六ツ七分	六ツ七分
西新田	四ツ七分	四ツ七分	四ツ七分	四ツ七分
丑新田	四ツ四分	四ツ四分	四ツ五分	四ツ五分
巳新田	三ツ三分	三ツ三分	三ツ三分	三ツ三分
辰新田	三ツ三分	三ツ三分	三ツ三分	三ツ三分
申新田	式ツ六分	式ツ六分	式ツ五分	式ツ五分
新屋地子	六ツ	六ツ	六ツ	六ツ
岩ヶ平新田	四ツ	四ツ	四ツ	四ツ
正徳巳新田	式ツ式分	式ツ式分	式ツ三分	式ツ三分
切添新田	四ツ	四ツ	四ツ	四ツ
享保十巳	外兵衛新田	外兵衛新田	外兵衛新田	外兵衛新田
元文式巳新田	元文式巳新田	元文式巳新田	元文式巳新田	元文式巳新田
元文三牛新田	元文三牛新田	元文三牛新田	元文三牛新田	元文三牛新田
皮多田方	皮多田方	皮多田方	皮多田方	皮多田方
延口米七二打	延口米七二打	延口米七二打	延口米七二打	延口米七二打
八勺過小入用出	八勺過小入用出	八勺過小入用出	八勺過小入用出	八勺過小入用出
本田打物	五分打	四分打	四分打	五分打
新田打物	三分打	式分打	式分打	三分打

【打出村風烈損毛歎願書案】 芦屋市打出南宮町、妙福寺藏 (表紙)

嘉永五年八月 風烈損毛歎願下案

乍恐奉愁訴候口上覚 御支配所 打出村百姓共
 一昨亥年秋以来潤雨乏敷溜池用水不足ニ御座候処、当五月
 植付之時節ニ至リ、猶以梅雨不日ニ相止ミ、無抛溜池用
 水引拔、先ハ御田地隅々迄、根付仕候処、追々旱相続、
 右溜池用水植付ニ相用ひ候時は、凡草水五六ケ度分相費
 候ニ付、最早本田地先キ、并新田共、式番草三番草ニ而
 白畑と相成リ、養育之手術を失ひ、本田最中之分といへ
 とも、傍示相建、砂反歩ニ而、三畝歩又ハ四畝歩坏と、
 歩水ニ仕、大小之百姓共、根氣限り、昼夜之差別なく、
 抽丹誠候得共、皆無之御田地余程ニ相成リ、村役人共初
 百姓一同、奉対
 御上様無申訳次第重々奉恐入候、右皆無場所たり共、
 我々共土地相応ニ、銀三拾匁ノ四拾匁迄、鋤込之肥し入
 置、入夫相かゝり、終ニは、皆無と相成リ、小百姓共、
 肥手は勿論飯米諸雜用等、僅成作徳ヲ以、妻子活命之基
 と仕候訳ニ而、當時之模様ニ而は、必至難渡之手詰と相
 成り申候、就而は、高持百姓共も、小作夫々相応之引方

相付、肥手仕込等致遺候をも、陶置ニ相成リ、村中一同
 融通相絶、相統ニ抱リ、当惑仕候、就中水廻り宜敷御田
 地之分は、地味相応之穂並ニ相見候処、去月廿一日一昼
 夜之大風雨ニ而、無レ敢吹切、田方一面之白穂黒穂と相成
 り、眼もあてられざる有様、夏以来老若男女之差別なく
 粉骨碎身仕候而、養育仕揚ケ候、稲毛一時ニ吹亡候次第
 天災とは乍申手之ものも落候程ニ愁歎仕候、別而當村之
 儀は、地味薄ク兀山之地先キニ而御座候得は、土砂交り
 之田畑ニ而、他村よりハ、余程実来も少く、剩え肥手ハ
 多分ニ入れ不申候ハデは、並々之作も難出来、殊更折悪
 敷、米性宜敷とて、近年十二八九は、中稻植付申候処、
 出穂最中へ右之大風ニ逢ひ、加之畑方綿作豆作等も、当
 年は早越とハ乍申出精次第ニ作並宜敷御座候処、風烈ニ
 而善悪之差別なく皆無同然之訳合ニ御座候、既ニ三拾ケ
 年已前文政六未年早損、其翌々文政八四年風損ニ而、兩
 度共格別 御憐愍ヲ以御年貢米御引方、御用捨を蒙リ
 莫大之御恩沢重々難有仕合ニ奉存候、其後年々凶作打続
 三拾ケ年之内常年之作ハ漸六七年ニハ過不申、多年来米
 価高直ニつれ、肥手古来よりハ物ニハ三割も五割も直揚
 ケニ相成リ、百姓一同難渡仕候折柄、当年之天災ニ出合
 村中大小之百姓共、来年作付之手術を失ひ、村方喪亡之
 基と一同愁歎仕候、何卒深重之
 御仁恵ヲ以、銀子五拾匁目無利足五拾ケ年賦ニ而、拝借
 被為、仰付被下度奉願上候、右御下ケ之御銀ヲ以、第一

十五 分米八拾九石五斗貳升五合
 中田四町五反貳畝拾五步
 十三 分米五拾八石八斗貳升五合
 下田三町貳畝七步
 十畝 分米三拾三石貳斗四升六合
 下々田壹反八畝貳拾九步
 八 分米壹石五斗壹升七合
 屋敷四反八畝拾壹步
 十三 分米六石貳斗八升八合
 上畑貳反壹畝貳拾八步
 十三 分米貳石八斗五升壹合
 中畑五畝拾九步
 拾畝 分米六斗壹升九合
 下畑三反五畝壹步
 八ツ 分米貳石八斗三合
 下々畑三反八步
 六 分米壹石八斗壹升六合
 分米合百九拾七石四斗九升
 内三石六斗六升 打出シ

寛文三卯年五月三日
 村田 伊兵衛
 近木 平左衛門
 大内 孫兵衛
 本山 六郎兵衛

紙數六拾枚有之
 右ハ、村中畑広狭有之ニ付、無甲乙致御檢地、
 打出シ有之所、寛文四年六月、從公儀、右打出之
 分、本高ニ御直シ、郷帳目録御奉行衆ノ御渡候間、
 自今以後此帳面之通り名寄帳認、御年貢御納所可
 仕者也

寛文四年七月 日
 左右田 甚左衛門
 河原 彦右衛門
 本山 六郎兵衛
 印南 惣兵衛
 鈴木 新右衛門
 大内 孫兵衛

右御檢地帳、本帳有之候といへとも、年久敷罷成

候故、難相分候ニ付、此帳面之引写、面々出入之
 分ハ附紙致、後々年迄も相分候ため、拙者拵之所
 持仕候、然れ共、万一相違成義候ハ、本帳得と
 引合見るへく專第一肝要也

文化十四年 三条村庄屋
 九月 作兵衛

筆者 森村庄屋
 源太郎
 之花押

【元禄五年三条村新田檢地帳】
 菅屋市三条町
 小阪作兵衛氏藏
 元禄五年(一六九二)

元禄五申年改新田檢地帳写

一 下畑 九間半 壹畝八步 安兵衛
 一 下畑 拾間半 貳畝步 徳右衛門
 一 下畑 四間半 九步 六兵衛
 一 下畑 拾間 壹畝三歩 安兵衛

一 下畑 八間 四畝貳拾四歩 治兵衛
 一 下畑 拾九間 三畝五歩 治兵衛
 一 下畑 八間 拾貳歩 吉右衛門
 一 下畑 壹間半 拾五歩 同
 一 下畑 拾三間 貳畝拾壹歩 村分
 一 下畑 四間半 拾三歩 六兵衛
 一 下畑 七間 七歩 同人
 一 下畑 拾七間 壹畝五歩 忠兵衛
 一 下畑 拾貳間 貳畝步 伝兵衛
 一 下畑 四間半 拾四歩 甚左衛門
 一 下畑 三間 拾貳歩 庄右衛門
 一 下畑 拾六間 拾五歩 庄左衛門
 一 下畑 八間 四畝八歩 次兵衛
 一 下畑 九間半 壹畝貳拾七歩 市兵衛
 一 下畑 七間 壹畝拾貳歩 伝三郎
 一 下畑 拾間半 貳拾四歩 甚兵衛
 一 下畑 拾間半 五歩 八兵衛

一 下 畑 式間半 四步 長左衛門

反合式反九畝式拾三步 内

下々田式畝式拾步

八 分米式斗畝式三合

下畑式畝式拾四步

六 分米式斗六畝八合

下々畑式反四畝九步

四 分米九斗七畝式合

高合畝石三斗五畝三合

元録五申年九月

加藤八右衛門判

北村孫右衛門判

天野八郎兵衛判

森 太左衛門判

【宝永元年三條村新畑檢地帳】 同前、小阪作兵衛氏藏
 ○宝永元年(一七〇四)

(表紙)

宝永元申年改新畑

一 下 畑 七間半 拾步 八兵衛

一 下 畑 六間半 式拾六步 理兵衛

一 下 畑 六間 六步 右同人

一 下 畑 五間 五步 六兵衛

一 下 畑 三間 三歩 六兵衛

一 下 畑 拾六間 式拾四歩 五兵衛

一 下 畑 拾三間 拾九歩 四郎兵衛

一 下 畑 拾三間 拾九歩 久右衛門

一 下 畑 拾三間 拾九歩 次郎兵衛

一 下 畑 拾三間 拾九歩 善右衛門

一 下 畑 拾四間 拾四歩 太郎兵衛

一 下 畑 拾四間 拾六歩 源兵衛

一 下 畑 拾三間 拾九歩 徳左衛門

一 下 畑 拾三間 拾九歩 長右衛門

一 下 畑 七間半 拾九歩 右同人

一 下 畑 七間半 拾九歩 善兵衛

一 下 畑 六間 拾四歩 吉左衛門

一 下 畑 八間 畝式歩 茂兵衛

一 下 畑 四間 拾六歩 五兵衛

一 下 畑 四間半 式拾歩 庄左衛門

一 下 畑 四間半 式拾四歩 三右衛門

一 下 畑 六間半 拾歩 吉右衛門

一 下 畑 六間半 拾八歩 伝兵衛

一 下 畑 八間半 拾七歩 吉右衛門

一 下 畑 六間半 拾歩 忠兵衛

一 下 畑 六間半 式拾四歩 太兵衛

一 下 畑 四間半 七歩 安兵衛

一 下 畑 三間半 式拾三歩 半三郎

一 下 畑 八間半 式拾歩 甚左衛門

一 下 畑 五間 拾五歩 伊右衛門

一 下 畑 拾三間 畝式歩 治兵衛

一 下 畑 七間 式拾七歩 十右衛門

一 下 畑 三間 式拾七歩 孫左衛門

一 下 畑 七間半 拾歩 加右衛門

反合式反九畝九歩

六 分米式石斗五畝八合

宝永元申年九月十七日

杉山伊兵衛判

梅垣治右衛門判

中西半太夫判

菅沼市郎兵衛判

【正德三年三條村新畑檢地帳】 同前、小阪作兵衛氏藏
 ○正德三年(一七一三)

(表紙)

正德三巳年改新畑

一 岡ノ山 下々畑 拾四間 畝式歩 善兵衛

一 同所 下々畑 七間半 拾七歩 忠兵衛

一 同所 下々畑 四間 四歩 加右衛門

一 岡ノ山 下々畑 五間半 拾四歩 次兵衛

分米壹斗九合	同所	下々畑 七間	拾四步	同	人
分米壹斗九合	安ノ山	下々畑 七間	拾四步	同	人
分米壹斗九合	同所	下々畑 八間	壹畝拾步	次	兵衛
分米壹斗九合	同所	下々畑 九間	拾八步	照	乘寺
分米壹斗九合	同所	下々畑 九間	拾八步	同	寺
分米壹斗九合	安ノ山	下々畑 六間半	拾五步	照	乘寺
分米壹斗九合	同所	下々畑 八間半	拾三步	同	寺
分米壹斗七合六分	石盛四ツ				

以上

正徳三癸巳年八月

八木庄兵衛判
片岡権左衛門判
関彌市右衛門判
木村儀兵衛判
綾部十之丞判

【享保五年三条村新畑檢地帳】同前、小阪作兵衛氏藏 ○享保五年(一七三〇)

(表紙)

享保五子年改新畑

下々畑 拾四間	壹畝拾步	四郎兵衛
分米五斗三合	貳畝拾四步	右同人
下々畑 七間	壹畝六步	照乘寺
分米壹斗壹斗九合	三畝六步	久兵衛

(表紙)

享保六丑年改新畑

分米壹斗貳斗八合	下々畑 六間	壹畝六步	宗右衛門
分米四斗八合	下々畑 七間	貳拾步	与兵衛
分米貳斗八合	下々畑 八間	貳拾四步	与兵衛
分米三斗貳合	下々畑 拾四間	壹反三畝貳步	久兵衛
反合貳反四畝九步	石盛四ツ		

此分米九斗七斗貳合 右者、六尺三寸竿ヲ以令檢地、壹反三百步ニ相究者也

享保五年子九月

川村 八郎右衛門判
石川 佐太夫判
浦野 六郎右衛門判
石田 仁左衛門判

【享保六年三条村新畑檢地帳】同前、小阪作兵衛氏藏 ○享保六年(一七三一)

下々畑 九間	貳畝拾貳步	茂兵衛
分米九斗六分	貳拾四步	同人
下々畑 六間	壹畝拾貳步	四郎兵衛
分米六斗九分	壹畝貳步	伊右衛門
下々畑 八間	拾六步	与兵衛
分米四斗三合	拾七步	同人
分米五斗三合	貳拾八步	与兵衛
分米九斗三合		
反合八畝壹步		

同所

屋敷貳畝壹步

分米貳斗三合

下々畑六畝步

分米貳斗四升

高合四斗四升三合

右者、六尺三寸竿ヲ以令檢地者也、

享保六年丑九月

河澄四郎右衛門判

片岡權左衛門判

西条徳左衛門判

米沢孫右衛門判

同所

山長八間

横均拾間

此見取米壹斗壹升

西畑之原

長三拾七間半

横均三間壹分

此見取米七升

合壹反五畝貳步

右之通見取定納相究者也

享保九年辰四月

市郎右衛門判
武次右衛門判
左兵衛門判
太右衛門判
彌右衛門判
次右衛門判
治右衛門判
四郎右衛門判

茂兵衛

【享保九年三條村請山改帳】

同前、小阪作兵衛氏藏
○享保九年(一七二四)

享保九辰年請山改帳

西畑之原
山長貳拾貳間

横均七間

五畝四步

久兵衛

【享保九年新田檢地帳】

同前、小阪作兵衛氏

享保九辰年改新田

改西尾利兵衛判

吉田又右衛門判

河澄四郎右衛門判

望月甚左衛門判

一 字松本

一 下々田

同所

一 下々田

一 字高盛谷

一 車屋鋪

反合壹畝貳拾八步

分

下々田貳拾六步

分米六升九合

屋鋪壹畝貳步

分米壹斗三升八合

高合貳斗七合

右者、以六尺三寸竿令檢地、壹反三百步相究者也

享保甲辰年九月

七間半

七間半

七間半

拾五步

六間半

五間半

拾八步

拾八步

拾六步

拾九合

拾貳步

拾八合

拾七合

佐次兵衛

同 人

茂兵衛

石盛八ツ

石盛拾三

吉田又右衛門判
片岡權左衛門判
市村九郎左衛門判
原六郎左衛門判

【寬延二年三條村新畑檢地帳】

同前、小阪作兵衛氏藏
○寬延二年(一七四九)

寬延貳巳年改新畑

常田助太夫判

一 字はけ山

一 下々畑

同所

一 下々畑

反合三畝八步

分米壹斗三升壹合

右者、六尺三寸竿ヲ以令檢地、壹反三百步相極者也

寬延貳巳年九月

六間半

拾間半

拾間半

拾四合

拾五步

拾七合

拾八步

貳畝三歩

分米八升四合

拾五步

拾五步

拾七合

拾八步

源 五

石盛 四

同 人

石盛 四

柴田小文治判
家木長右衛門判
塚本小右衛門判

内山次郎左衛門判
綾部郷右衛門判

【天明三年三条村名寄帳 巻番】同前、小阪作兵衛氏藏
○天明三年(一七八三)

(表紙)

天明三年

三条村名々田畑持高帳

卯正月改

巻番

照葉寺

塚穴之邊
一新田下畑貳拾壹步 四斗貳合
同所
一新田下畑壹拾叁步 六斗六合
一屋敷壹畝拾貳步 壹斗八升貳合

松本新田
一下々田拾壹步 三斗
同所新田
一下々田拾五步 四斗
西畑
一新田下畑拾六步 三斗貳合
辻か花
一中田貳畝貳拾壹步 三斗五斗合

嘉兵衛

同所 一 中田五畝七步 六斗八斗合
同所 一 中田貳畝五步 貳斗八斗合
上ノ段屋敷共
一下々畑七畝廿八步 四斗七斗六合
垣添
一 上田壹畝拾九步 貳斗四斗五合
同所 一 上田貳畝三斗 三斗壹斗五合
同所 一 上田貳畝六步 三斗三斗
同所 一 上田貳畝拾五步 三斗七斗五合

申
一新田下畑拾六步 三斗貳合
同所
一新田下畑廿四步 四斗八合
一 屋敷壹畝拾貳步 壹斗八斗合
一 中田四畝六步 五斗四斗六合
あ七垣内
一下畑三畝壹步 貳斗四斗三合
同所
一 上田四畝六步 六斗三斗
同所
一 上田貳拾步 壹斗
同 一 上田六畝拾壹步 九斗五斗五合
安ノ山
一中田貳拾壹步 七斗七合
里ノ垣内
一中田壹畝廿步 貳斗壹斗七合

五兵衛

吉右衛門

一 屋敷貳畝廿五步 三斗六斗九合
西畑
一新田下畑拾步 貳斗
同所
一新田下畑拾七步 三斗四合
安ノ山
一新田下々畑拾五步 壹斗
同所
一新田下々畑拾貳步 四斗七斗
田中
一 上田三畝四步 貳斗七斗三合
一 屋敷貳畝三斗 壹斗八斗七合
一 屋敷壹畝拾叁步 八斗七合
辻
一下田七畝拾步 三斗八斗九合
同所
一下田三畝拾六步 貳斗貳斗八合
同所
一下田貳畝貳步 七斗六斗五合
田中
一 上田五畝三斗 貳斗壹斗七合
南垣内
一 上畑壹畝廿步 貳斗八合
岡山
一下畑拾四步 貳斗三斗合
安ノ山
一下田貳畝三斗 壹斗九斗五合
谷
一 中田壹畝拾五步 四斗三斗四合
同
一 中田三畝拾步

六兵衛

同 一 中田壹畝拾四步 壹斗九斗合
東小里
一 中田三畝五步 八斗兵衛八尺ル
同所
一 中田四畝四步 八斗兵衛八尺ル 五斗三斗八合

西畑
一新田下畑五步 壹斗
同
一新田下畑三斗 六合
はけ山
一新田下々畑七步 壹斗
同所
一新田下々畑拾三斗 善次郎分 壹斗八合
大岩谷
一 新田下々畑九步 壹斗貳合
上ふけ
一下田五畝拾六步 六斗九合
下ふけ
一下田九畝廿三斗(コノ行違アリ) 壹石七斗五合
凡生 右者作右衛門へ入
一 中田壹反廿四步 壹石四斗四合
一 屋敷貳畝九步 貳斗九斗九合
阿かいち
一 上畑三畝四步 四斗八合
安ノ山東
一 上畑九步 三斗九合
同東
一 中畑廿三斗 八斗五合
同所西
一 上田貳畝廿壹步 四斗五合

同 中田六歩 貳舛六合
 小寄 一上田三畝拾五歩 五斗貳舛五合
 作 兵衛
 はけ山 一新田下々畑拾八歩 貳舛四合
 同 一新田下々畑拾八歩 貳舛四合
 同 一新田下々畑拾五歩 貳舛
 同 一新田下々畑拾三歩 貳舛七合
 同 一新田下々畑拾六歩 四舛八合
 丸山尻 一新田下々畑三畝六歩 壹斗貳舛八合
 南垣内 一上知三畝拾貳歩 四斗四舛貳合
 同 一上田貳畝拾五歩 三斗七舛五合
 同 一上畑畝九歩 壹斗六舛九合
 同 一下畑五歩 壹舛四合
 出口 一上田三畝廿三歩 五斗六舛五合
 同所 一上田貳拾八歩 壹斗四舛
 同所 一上田三畝拾三歩 五斗壹舛五合
 同所是八南垣内 一上田壹畝六歩 南 壹斗八舛

一 中田九畝五歩 壹石壹斗九舛貳合
 上ノ半田 一下田壹畝拾八歩 壹斗七舛六合
 同 一下田五畝歩 五斗五舛
 同 一下田貳畝廿歩 貳斗九舛三合
 同 一上田貳畝三歩 南かいち 三斗壹舛五合
 八右衛門家敷 一上田廿八歩 壹斗四舛
 出口 一上田三畝拾三歩 五斗壹舛五合
 同 一上田貳拾四歩 壹斗四合
 同 一上田貳拾四歩 壹石貳舛
 同 一下畑貳畝拾歩 壹斗六舛三合
 同 一上田三畝四歩 四斗七舛
 同 一上田貳畝廿八歩 四斗四舛
 同 一上田貳畝拾貳歩 三斗六舛
 久保田 一上田貳畝拾四歩 三斗七舛
 出口 一上田七畝拾四歩 九斗七舛壹合
 同所 一上田七畝拾四歩 右式筆長兵衛方入
 同所 一上田七畝拾四歩 忠兵衛
 同所 一上田七畝拾四歩 五舛四合

六条 一 中田六畝六歩 (貼紙) 一 是八嘉右衛門(入) 八斗六合(消線アリ)
 ア七垣内 一 上田五畝廿歩 八斗五舛
 河原 一 下々田貳拾拾歩 五舛六合
 同 一 下々田八畝五歩 六斗五舛四合
 同 一 下田四畝四歩 四斗五舛五合
 一 屋敷貳畝拾七歩 三斗三舛四合
 鍵町 一 中田六畝拾貳歩 八斗三舛貳合
 西分手 一 下田五畝八歩 五斗八舛
 同 一 下田七畝歩 七斗七舛
 岡山 一 下畑拾歩 貳舛七合
 同 一 下畑畝七歩 九舛九合
 寺の垣内 一 下畑貳畝四歩 貳斗三舛五合
 同 一 下々畑貳畝拾貳歩 壹斗四舛四合
 同 一 下田壹畝廿三歩 壹斗九舛五合
 同 一 下田壹畝拾拾歩 壹斗五舛五合
 同 一 下田貳拾拾歩 七舛七合
 久 兵衛

ねち込 一 新田下々畑壹反三畝貳歩 五斗貳舛三合
 字はけ山 一 新田下々畑拾四歩 壹斗九合
 同 一 新田下々畑拾拾歩 五舛四合
 同 一 新田下々畑三畝五歩 壹斗貳舛七合
 同 一 新田下々畑四畝廿四歩 壹斗九舛
 一 屋敷三畝廿三歩 四斗九舛
 一 屋敷壹畝拾五歩 壹斗九舛五合
 出口 一 中田八畝拾八歩 壹石壹斗壹舛八合
 内三畝六歩四斗壹舛六合八郎兵衛屋敷
 あ七垣内 一 中田壹畝拾拾歩 壹斗七舛八合
 信時 一 上田貳畝廿六歩 四斗三舛
 同 一 上田四畝廿貳歩 七斗壹舛
 一 屋敷貳畝廿歩 内畝拾拾歩壹斗七舛四合作右衛門分
 又拾九歩八舛三合 治右衛門分
 又残り式拾歩四舛九合 久兵衛分
 右差引拾歩四舛八合久兵衛方上納
 一 屋敷壹畝拾貳歩 是ハ水帳ニ彌次兵衛屋敷と有之
 是ハ水帳ニ彌次兵衛屋敷と有之
 残テ式拾歩八舛七合久兵衛方上納
 出口 一 上田三畝九歩 四斗九舛五合

宇兵衛

六条 一 中田三畝貳步
 一 屋敷畝拾步
 一 上田畝反拾九步
 一 上田畝畝四步
 一 中田畝畝四步
 一 中田四畝拾貳步
 一 中田六畝廿貳步
 一 中田四畝七步
 一 中田三畝拾貳步
 一 中田九畝廿七步
 一 屋敷畝拾貳步
 西小里 一 下田六畝拾四步
 一 中田畝拾六步
 出口 一 中田三畝八步 治右衛門へ入
 一 上田畝畝步 治右衛門へ入
 一 中田三畝拾九步

三斗九舛九合
 壹斗七舛四合
 壹石五斗九舛五合
 三斗貳舛
 壹斗四舛八合
 五斗七舛貳合
 八斗七舛六合
 五斗五舛壹合
 四斗三舛八合
 壹石貳斗八舛七合
 壹斗八舛貳合
 七斗壹舛貳合
 貳斗
 四斗貳舛五合(消線)
 壹斗五舛(消線)
 四斗七舛三合

八郎兵衛

河原 一 下田拾貳步
 東小里 一 上田九畝廿五步
 一 中田三畝廿七步
 一 中田三畝拾八步
 一 下田貳畝三歩
 一 下田畝反三畝拾歩
 一 中田四畝七歩 伊左衛門へ入
 一 上田八畝廿三歩
 一 下田拾貳歩
 一 中田三畝六歩 是へ出口屋敷久兵衛へ入
 東小里 一 中田三畝五歩 善左衛門へ入
 一 中田四畝四歩 善左衛門へ入
 一 中田畝反貳畝拾貳歩 久兵衛へ入
 一 新下田拾六歩 同人へ入
 一 新下田六歩
 一 中田畝反拾七歩 市兵衛へ入
 一 上田五歩
 一 中田九畝拾歩 市左衛門へ入

三舛貳合
 壹石四斗七舛五合
 五斗七合
 四斗六舛八合
 貳斗三舛壹合
 壹石四斗六舛七合
 五斗五舛壹合
 壹石三斗壹舛五合
 三舛貳合
 四斗壹舛六合
 四斗壹舛貳合(消線)
 五斗三舛八合(消線)
 壹石六斗八合
 五舛貳合
 壹石三斗七舛四合
 貳舛五合
 壹石貳斗壹舛四合

下四分手 一 中田五畝拾八歩 同人へ入
 一 中田四畝五歩 同人へ入
 東小里 一 中田拾三歩 又兵衛へ入(消線)
 一 中田三畝三歩 同人へ入(消線)
 河原道 一 下田拾四歩 長兵衛へ入
 一 中田拾八歩 長兵衛へ入
 一 下田五歩 長兵衛へ入
 一 中田九歩 長兵衛へ入
 一 中田七歩 長兵衛へ入
 一 中田拾八歩 長兵衛へ入
 一 中田貳畝十貳歩 同人へ入
 一 上田三歩
 一 中田九歩 同人へ入
 一 下田畝拾五歩 同人へ入
 一 中田九歩 同人へ入
 一 下田畝拾六歩 市兵衛へ入
 一 中田四畝拾五歩 市右衛門へ入
 一 中田五畝九歩 同人へ入
 一 下田拾九歩 同人へ入

七斗貳舛八合
 五斗四舛貳合
 五斗七舛七合
 四斗三合
 五舛貳合
 七舛八合
 壹舛四合
 三舛九合
 三舛壹合
 七舛八合
 三斗壹舛貳合
 壹斗六舛五合
 三舛九合
 九舛六合
 五斗八舛五合
 六斗八舛九合
 五舛壹合

一 下田九歩 同人へ入
 一 下田廿四歩 同人へ入
 一 下田拾貳歩
 一 中田三畝八歩
 一 中田三畝拾五歩
 西畑 一 新下田拾九歩
 一 中田拾貳歩
 河原 一 中田四畝七歩
 一 下田八畝拾九歩 忠右衛門へ入
 一 下田七畝拾歩
 一 屋敷畝九歩
 一 下田七畝拾歩 作左衛門屋敷
 一 下田拾貳歩
 一 中田五畝四歩
 一 中田畝畝四歩
 一 上田九畝六歩
 一 下田拾九歩

貳舛四合
 六舛四合
 壹斗壹舛
 四斗貳舛五合
 四斗九舛九合
 治右衛門
 三舛八合
 五舛貳合
 五斗五舛壹合
 九斗五舛(消線)
 壹斗六舛九合
 八斗四舛三合
 八舛三合
 五舛九合
 六斗六舛八合
 壹斗四舛八合
 壹石三斗八舛
 七舛

門田 一下田八畝廿七步 九斗五舛七合
 角田 一上田拾步 五舛
 松本 一下田貳拾七步 七舛七合
 同 一上田貳拾三歩 壹斗壹舛五合
 同 一上田拾三歩 六舛
 同 一上田拾三歩 六舛五合
 同 一上田拾六歩 八舛
 同 一上田貳拾四歩 壹斗貳舛
 同 一上田拾六歩 貳舛貳合
 同 一上田五歩 三斗七舛
 同 一上田貳畝拾四歩 四舛四合
 一屋敷拾歩 久兵衛入 四斗貳舛五合
 出口 一上田三畝八歩 八郎兵衛入 壹斗五舛
 同所 一上田壹畝歩 八郎兵衛入 壹斗五舛
 西畑 一新田下畑廿七歩 五舛四合
 一新田下畑拾九歩 三舛八合
 一新田下畑貳畝歩 八舛
 一反田 一上田三畝拾八歩 五斗四舛

同 一上田壹畝拾四歩 貳斗貳舛
 同 一上田貳畝廿六歩 四斗三舛
 水之き 一上田貳畝八歩 三斗四舛
 同 一上田三畝拾七歩 五斗三舛五合
 同 一上田三畝拾四歩 五斗貳舛
 一屋敷貳拾七歩 壹斗壹舛七合
 水之き 一上田壹畝拾七歩 貳斗五合
 一上田拾六歩 壹斗三舛
 一上田貳拾歩 壹斗
 一上田三畝廿六歩 五斗八舛
 一上田七畝拾五歩 壹石壹斗貳舛五合
 一下田貳畝歩 貳斗貳舛
 一上田貳畝七歩 三斗三舛五合
 一上田壹畝七歩 壹斗八舛五合
 一上田拾五歩 七舛五合
 忠右衛門 六合
 西畑 一新田下畑三歩 壹斗三舛
 一屋敷壹畝歩 壹斗三舛

河原 一下田貳拾四歩 八舛八合
 南垣内 一上畑壹畝歩 壹斗三舛
 松本 一上田拾八歩 九舛
 同 一上田壹畝三歩 壹斗六舛五合
 同 一上田壹畝貳歩 壹斗六舛
 同 一上田壹畝拾貳歩 貳斗壹舛
 同 一上田拾三歩 六舛五合
 一下田八畝拾九歩 是八治右衛門入 九斗五舛
 丑はき 善兵衛 四舛八合
 河原 一下畑拾八歩 七舛
 一上田拾六歩 八舛
 一下畑壹畝歩 壹斗七舛五合
 一上田壹畝廿五歩 貳斗三舛九合
 田中 一上田六畝五歩 九斗貳舛五合
 六条 一上田六畝四歩 七斗九舛八合
 田中 一上田三畝八歩 四斗九舛
 一上田貳畝廿歩 四斗

九ノ坪 一上田壹反壹畝歩 壹石六斗五舛
 一上畑壹畝廿三歩 貳斗三舛
 西分手 一上田七畝拾貳歩 壹石壹斗壹舛
 はさま 一上田四畝廿五歩 七斗貳舛五合
 一屋敷四歩 壹舛八合
 彌惣右衛門 是八彌三右衛門入 六舛
 西畑 一新田下畑壹畝歩 三斗八合(消線)
 河原 一上田壹畝拾七歩 四郎兵衛入 貳斗
 水之き 一上田三畝六歩 四斗八舛
 同 一上田三畝廿六歩 五斗三合
 同 一上田五畝廿四歩 七斗五舛四合
 同 一上田八畝拾七歩 壹石壹斗五舛五合
 一上田七畝拾六歩 四郎兵衛入 九斗八舛(消線)
 一上田貳畝歩 四郎兵衛入 貳斗六舛(消線)
 一屋敷貳拾四歩 壹斗四合
 内四歩善兵衛入残り八舛六合彌三右衛門入納り 壹斗五舛六合
 一屋敷壹畝六歩 壹斗五舛六合

天明三年
 三条村名々田畑持高帳
 卯正月改
 式番

あ七垣内
 一上田壹反歩
 岡山
 一下畑貳拾六歩
 七歩
 貳畑四合

一上畑壹畝貳歩
 一中田貳拾八歩
 一中田貳拾八歩
 一中田貳畝拾貳歩
 一下畑拾三歩
 冠者
 一上田壹畝拾六歩
 冠者
 一上田壹畝廿四歩
 同
 一上田壹畝廿四歩
 同
 一上田貳畝貳歩

兵右衛門

東畑
 一新田下畑貳拾歩
 岡山
 一新田下畑拾四歩
 一屋敷壹畝三歩
 河原
 一上田壹畝廿五歩
 田中
 一上田五畝廿貳歩
 同
 一上田三畝歩
 あ七垣内
 一下田壹反八歩
 南垣内
 一中畑貳拾四歩

作右衛門

会山下
 一新田下畑貳拾四歩
 あ七垣内
 一上田壹反貳畝拾四歩
 同
 一上田壹畝廿歩
 南垣内
 一中畑廿三歩
 あら打
 一下畑拾四歩
 一屋敷壹畝拾貳歩
 是八瀬次兵衛屋敷之水帳ニ有之
 内式拾歩九歩六合是八久兵衛之入
 残り式拾歩八歩七合是八作右衛門分

一屋敷貳畝拾歩
 内寄畝拾歩
 拾九歩八歩三合治右衛門分
 式拾九歩九歩九合久兵衛分
 為ノ前
 一上田四畝八歩
 同
 一上田貳畝拾歩
 同
 一上田貳畝廿四歩
 一下田九畝貳拾三歩

清兵衛

会山下
 一新田下畑廿四歩
 五反田
 一上田四畝拾歩
 同
 一上田四畝拾五歩
 為ノ前
 一上田三畝歩
 同
 一上田三畝八歩
 河原
 一上田壹畝四歩
 屋敷
 一上田壹畝廿四歩
 同
 一上田貳拾三歩
 五反田
 一上田貳拾七歩

市兵衛

為ノ前
 一上田三畝歩
 同
 一下畑拾七歩
 松本
 一下畑壹畝拾四歩
 了信田
 一上田壹畝廿歩
 同
 一上田六畝九歩
 右式筆之内寄畝拾六歩此分米式三歩七郎兵衛入
 水とぎ
 一中田九畝廿貳歩

あせ垣内
一上田彦敵拾貳歩
あせ垣内
一中知貳拾歩
冠者
一上田四敵八歩
東
一上田四敵廿七歩
同
一上田彦敵六歩
田中
一上田六敵六歩
あせ垣内
一上田貳敵廿三歩
同
一上田彦敵拾三歩

貳斗彦舛
七舛三合
貳斗五舛
七斗三舛五合
彦斗八舛
六斗八舛貳合
四斗彦舛五合
貳斗彦舛五合

寺ノ前村持分
一屋敷貳拾七歩
越ノ垣内
一上知拾六歩
安ノ山
一新田下々田貳敵拾歩

七舛
是ハ歩屋鋪
彦斗九舛
是ハ八幡田

田畑惣高貳冊之内
合貳百貳石貳斗四舛

【文化四年芦屋村高古出作銘寄帳】
（表紙）
文化四年
芦屋村高古出作銘寄帳
八月十八日
三條村庄屋
兵衛

針木原（歩数カ）
一 下知六敵
一 下田彦敵拾四歩
一 下田彦敵貳拾六歩
一 下田三敵拾五歩
一 下田三敵拾七歩
一 下田貳敵拾三歩
一 下田貳敵三歩
一 下田彦敵拾六歩

仁右衛門
仁右衛門
仁右衛門
仁右衛門
仁右衛門
仁右衛門
仁右衛門
仁右衛門

四
下知六歩
分米八合
高合石五斗五升
右仁右衛門と申ハ則利右衛門先祖成

仁右衛門分

三條村治兵衛願人
長右衛門

字うづわ
一 下田彦敵拾五歩
一 下田貳拾三歩
一 下田貳拾九歩
一 下田彦敵五歩
一 下田貳敵拾三歩
一 下田拾歩

同
同
同
同
同
同

九
下田合七敵拾五歩
分米合六斗七升五合
右長右衛門と申ハ忠右衛門家之先祖勘右衛門
之事成

三條村願人治兵衛
兵衛

一 下々知拾五歩
一 下々知貳拾五歩
一 下田貳拾八歩
一 下田貳敵歩
一 下田拾九歩
一 下田彦敵拾三歩
一 中田彦敵六歩
一 中田三敵拾八歩
一 中田三敵拾六歩
一 中田三敵三歩
一 中田貳拾七歩

同
同
同
同
同
同
同
同
同
同
同

願人太郎兵衛先祖善兵衛

九
下田合七敵歩
分米合六斗三升
中田合九敵拾歩
十一
分米合石五升八合貳勺
三
下々知合彦敵拾歩
分米合三升九合三勺

字たに
 一上田九歩 三条村願人 兵衛
 一上田彦畝貳拾四歩 同 兵衛
 一上田彦畝拾歩 同人 兵衛

十三 上田合三畝拾三歩
 分米合四斗四升六合

太兵衛分

惣高合四石四斗貳升八合壹勺

右之通、芦屋村庄屋惣左衛門殿ニ而、御檢地帳之寫ヲ
 借リ書寫候、且又当村ニも、御檢地帳之寫ハ、先年より
 先庄屋源五殿ニ有之趣聞伝、則御地頭御役人様方之御
 印形有之由、聞伝申候得共、儲ニ有所不知、定而古出
 作高持五兵衛方ニ有之様被存候、芦屋村御檢地帳ハ寛
 文元年丑八月廿一日、御檢地帳寫ハ寛延三年午五月と
 有之候

一 右古出作と申ハ、芦屋村之地ニ候処、養水無之ニ付、
 三条村ニ開発被 仰付ニ付、三条村ノ開発致、用水ハ
 村方同様ニ順水致し候得ハ、冠甲用水諸懸りも、高嶋
 池諸掛りも、同様ニ相懸り候、若時節ニ右古出作高

芦屋村へ壳渡し候節は、篤と勘弁いたし、三条村之勝
 手之宜様ニ致、其上芦屋村へ壳渡候様、宜と存候、芦
 屋村へ壳渡候跡から申出申不宣、為念覺書いたし候、
 以上
 文化四年八月十八日書之
 三条村庄屋
 作兵衛

【文化五年三条村新田御檢分帳】 同前、小阪作兵衛氏藏

(表紙)

新田御檢分帳

一高貳石五斗壹升壹合 同村新田
 分 元祿五申年御改
 内 卷石三斗五升三合
 下々田貳畝貳拾歩 石盛八ツ
 下々田貳畝貳拾歩 御免四ツ三分
 下々田貳畝貳拾四歩 石盛六ツ
 御免同断

下々畑貳反四畝九歩 石盛四ツ
 御免四ツ三分

此反合貳反九畝貳拾三歩

一 卷石壹斗五升八合 宝永元申年御改

此反合壹反九畝九歩 石盛六ツ
 御免四ツ三分

一 高貳斗七升六合 正徳三巳年御改

此反合六畝貳拾七歩 石盛四ツ
 御免貳式分

一 高壹石四斗壹升五合 新畑

分

九斗七升貳合 享保五子年御改

此反合貳反四畝九歩 石盛四ツ
 御免貳式取

四斗四升三合 享保六丑年御改

分

屋敷貳畝壹歩 石盛拾
 御免貳式取

下々畑六畝歩 石盛四ツ
 御免同断

一 高貳斗七合 享保九辰年御改

分

下々田貳拾六歩 石盛八ツ

屋敷壹畝貳歩 御免九分

此反合壹畝貳拾八歩 石盛拾三
 御免同断

一 高壹斗三升壹合 寛延二巳年御改

此反合三畝八歩 石盛四ツ
 御免壹口取

右之通相違無御座候、以上

文化五年 七月

三条村年寄 兵衛
 同村庄屋 兵衛
 御奉行様

家内三人内男式人

外ニ、女子年三ツます酉八月二日病死仕照楽寺葬申候

一向宗

照楽寺

年寄 年六十 宇兵衛

同寺

男子年廿八 蔵

同寺

同年十ヲ 熊 蔵

同寺

妹年五十七 たま 相果

同寺

母年七十五 妙 寿 相果

家内五人内男式人

外ニ、女房年四十五きわ正月廿五日病死仕照楽寺葬申候

一向宗

照楽寺

半役人 年六十六 弥兵衛 相果

同寺

養男子年三十三 弥平治

同寺

女子年十四よし事 よね

家内三人内男式人

一向宗

照楽寺

本役人 年四十六 忠兵衛

同寺

同寺 当村嘉右衛門娘女房年四十五よし事 ぶり

同寺

男子年廿 伝三郎

同寺

女子年十七 いそ

同寺

同年十三 きく

同寺

同年九ツ よつ

同寺

同年七ツ とや

同寺

男子年五ツ 三 蔵

同寺

生男子年二ツ 鶴 蔵

家内九人内男四人

外ニ、母年七十四妙意酉三月十九日病死仕照楽寺葬申候

一向宗

照楽寺

半役人 年三十六 七郎兵衛

同寺

深江村六郎兵衛娘女房年三十 まん

同寺

母年六十六 きん

家内三人内男式人

一向宗

照楽寺

柄在家 年五十八 長五郎

同寺

男子年廿二 久 蔵

家内三人内男式人

一向宗

照楽寺

半役人 年三十 甚兵衛 相果

同寺

妹年廿九 りよ

同寺

妹年廿三 きく

同寺

母年五十六 く の

家内四人内男三人

一向宗

照楽寺

半役人 年四十二 吉兵衛

同寺

同寺 当村甚左衛門妹 女房年廿六 とめ

同寺

女子年六ツ ちか

家内三人内男一人

一向宗

照楽寺

本役人 年四十 長兵衛

同寺

先長兵衛娘 女房年三十五 しも

同寺

女子年三ツ ふさ

同寺

生男子年二ツ 長 蔵

同寺

母年六十八 せん

家内五人内男式人

一向宗

照楽寺

本役人 年六十四 八郎兵衛 相果

同寺

同寺 先八郎兵衛娘 女房年五十六 ち ち

同寺

男子年廿四 十 助

同寺

女子年廿 つよ

同寺

同年十七 いよ

家内五人内男式人

一向宗

照楽寺

本役人 年三十六 新七

同寺

女房年廿八 るい

家内三人内男一人

一向宗

照楽寺

本役人 年四十四 又兵衛

同寺

同寺 当村吉右衛門妹 女房年三十七 さん

同寺

女子年五ツ ゆき

同寺

女子年三ツ せき

同寺

加り年三十七 吉兵衛

家内五人内男式人

一向宗

照楽寺

本役人 年四十四 久兵衛

同寺

弟年四十 嘉七

家内三人内男式人

一向宗

照楽寺

本役人 年四十四 久兵衛

同寺

弟年四十 嘉七

家内三人内男式人

一向宗

照楽寺

本役人 年四十四 久兵衛

同寺

弟年四十 嘉七

一向宗 照楽寺 庄屋 年三十一 伊作

同寺 尼崎別所町塩津屋太兵衛姉 女房年三十三 るい

同寺 女子年三ツ まち

同寺 父年六十五 作兵衛

家内ノ四人内男式人

一向宗 照楽寺 本役人 年四十四三郎兵衛事 清兵衛

同寺 当村宇兵衛妹 女房年三十八 とめ

同寺 男子年十三 弥七

同寺 同 年十ナ 佐太郎

同寺 同 年七ツ 清蔵

同寺 同 年三ツ 勿之助

同寺 (貼紙)生男子とシニツ虎藏 弟年三十七 大次郎

家内ノ七人内男六人

一向宗 照楽寺 半役人 年六十七 市兵衛

同寺 先市兵衛娘 女房年六十八 くに

家内ノ三人内男一人

一向宗 照楽寺 半役人 年三十七 市右衛門

同寺 母年六十 けん

家内ノ三人内男一人

一向宗 照楽寺 本役人 年四十七 吉右衛門

同寺 田辺村半兵衛娘 女房年三十七 つじ

同寺 女子年五ツ まさ

家内ノ三人内男一人

一向宗 照楽寺 本役人 年三十六忠五郎事 六兵衛

同寺 弟年廿九 政次郎

同寺 同 年廿四 新次郎

家内ノ三人男

一向宗 照楽寺 半役人 年三十三 善次郎

家内ノ一人男

一向宗 照楽寺 半役人 年六十七 忠右衛門

同寺 同村八郎兵衛妻女子女房年五十三 きわ

同寺 男子年廿九 長左衛門

家内ノ三人内男式人

一向宗 照楽寺 半役人 年四十六 嘉右衛門

同寺 越木岩村彌次兵衛妹女房年三十七 しも

家内ノ三人内男一人

一向宗 照楽寺 半役人 年四十七 五兵衛

同寺 広田村佐次兵衛妻妹 女房とシ三十五 ひさ

同寺 女子年十一 さき

同寺 同 年八ツ さか

同寺 同 年六ツ さん

同寺 母年八十六 妙少 相果

家内ノ六人内男五人

一向宗 照楽寺 柄在家 年六十六 長右衛門

同寺 先忠次郎妹 女房年六十六 きよ

(貼紙)女子年廿五 きみ

同寺 男子年廿四 吉五郎

同寺 女子年廿三 つね

同寺 女子年三十九 よし事 よね

同寺 此者行衛不知

同寺 除(滑瀬)女子年二十五 しか

同寺 男子年二十四 十三郎

同寺 女子年十七 ぬい

同寺 男子年十ナ 弥三郎

同寺 家内ノ六人内男三人

一向宗 照楽寺 茂兵衛後家とし四十七

同寺 半役人 藤兵衛

同寺 男子年廿九 藤兵衛

同寺 同 年廿四 平次郎

同寺 母年六十六 しめ

同寺 家内ノ四人内男式人

一向宗 照楽寺 半役人 年四十二 七兵衛

同寺 森村平左衛門娘 女房年四十 いさ

同寺 女子年十五 いよ

同寺 家内ノ三人内男一人

一向宗 照楽寺 本役人 年六十一 善右衛門

同寺 先善右衛門娘 女房年五十二 つた

家内五人内男式人

一向宗

照樂寺 半役人 年三十八 太兵衛

同寺

生男子年二ツ 吉蔵

同寺

母年四十八 妙いぢ事

家内三人内男式人

外ニ、女房三十二つね酉八月廿三日病死仕照樂寺葬申候

一向宗

照樂寺 半役人 年六十五 嘉兵衛

同寺

深江村藤左衛門娘女房年五十一とめ

同寺

女子年廿七てう

同寺

男子年十九 清五郎

同寺

同年九ツ 岩蔵

同寺

同年八ツ 幸次郎

家内六人内男四人

一向宗

照樂寺 柄在家 年四十七 伊助

同寺

播州上多田村彌兵衛娘女房年三十一しゆん

同寺

男子年六ツ 栄蔵

家内三人内男式人

一向宗

照樂寺 本役人 年廿五 源四郎

同寺

妹年十九 きし

同寺

弟年十七 藤十良

家内三人内男式人

外ニ、源四郎母とし年五十一仁兵衛後家ふさ成正月廿

三日病死仕照樂寺葬申候

一向宗

照樂寺 住持 年廿五 教勝

同寺

妹年廿いっ

家内三人内男式人

外ニ、母年六十六いさ酉六月廿日病死仕森村浄称寺葬申候

家数合四拾四軒 西御改後ニ式軒増

内寺軒寺

人数合百六拾人

右之内

増人八人内男五人

五人内男四人 生子

内 式人内男一人 他領より来り者

啓人 女 御領より来り者

右之外

減人拾人内男式人

啓人 女 御領え遣シ者

啓人 女 他領え遣シ者

八人内男式人 相果者

増減差引シテ西御改後ニ式人女減人

但シ男三人増

男高八拾五人

女高七拾五人 内四拾人十七と五十迄男

右書面之通拙僧且那ニ紛無御座候、切支丹宗門之儀は不申及、転之者ニ而モ無御座候ニ付、年々御改判形仕候、若脇切支丹宗門と訴人御座候ハ、御吟味之上、拙僧如何様之御仕置ニ成リ共、可被 仰付候、為後日之判形仍而如件

西本願寺末寺小浜権持寺下 三条村照樂寺 教勝

寛政貳戌年 田尾源左衛門殿 川上又左衛門殿

右宗門強御改被 仰付、仲間之者共随分吟味仕、切支丹宗門之義は不及申上候、転之者ニ而モ一切無御座候、若疑敷者隠置、脇相聞候敷、訴人御座候ハ、拙者共如何様之曲事ニ可被 仰付、一組之仲間互ニ吟味仕、判形手形一紙差上可申候、尚以無油断友々吟味可仕候、為後日仍而如件

寛政貳戌年 田尾源左衛門様 川上又左衛門様

右毎年切支丹宗門強御改、五人組判形、并ニ寺請判形、被仰付、差上申候、少も疑敷者組下ニ啓人も無御座候、不断心ヲ付申候、若疑敷者隠置、脇訴人御座候ハ、急度死罪ニ可被 仰付候、兼而誓詞被 仰付候上ハ、縦親子兄弟たりとも、困中心毛頭無御座候、為後日仍而如件

寛政貳成年
田尾源左衛門様
川上又左衛門様

大庄屋野寄
高井与左衛門

同とし十九千蔵

【三条村人別増減差引点合帳】
○天明年三月(一七八三)

(表紙)

天明三年卯二月

点合帳 下帳

三条村庄屋
八郎兵衛

三条村

半役人伝兵衛加り又四郎後家年五十四 しま

男子とし三十六 仁太郎

同とし廿一 藤治郎

同とし十九 千蔵

家内、四人

右之者共御願申上別家仕候

一新家新判 から在家又四郎後家年五十四 しま

男子とし三十六 仁太郎

同とし廿一 藤次郎

右御願申上同村伝兵衛方別家仕候

四人

一入 半役伊左衛門方え 女房とし廿二 きし

御願申上他領深江村善兵衛娘嫁付来り

一相果 半役人伊左衛門母年六十五 妙専

寅六月廿五日病死仕候

一生子 本役人兵右衛門生男子とし二ツ 三平

同村吉兵衛方え縁付遣シ

一相果 同村吉兵衛方え縁付遣シ

寅八月九日病死仕候

一入 半役人甚左衛門父年八十四 京西

御願申上播州清水

一相果 半役人七郎兵衛父年七十三 七郎兵衛

寅八月七日病死仕候

一来り 半役人吉兵衛女房とし十九 とめ

同村甚左衛門妹嫁付来り

一除 本役人又兵衛女子とし三十二 とわ

他領御影村吉五郎妻へ遣シ

一相果 本役人清兵衛母とし八十八 妙専

寅六月廿三日病死仕候

一遺シ 半役人嘉右衛門妹とし三十 まさ

御領分北畑村七郎右衛門方え縁付遣シ

一生子 半役人嘉兵衛生男子とし二ツ 岩蔵

一入 半役人嘉兵衛方へ加り年四十市兵衛事 伊助

御願申上播州清水御領分

竜野村太右衛門弟

男女合拾貳人 同村差引へ右高除之

増人六人内男五人

男貳人 生子

四人内男三人他領へ来り者

減人六人内男貳人

分 卷人女御領分え遣シ

卷人女他領え遣シ

四入内男貳人相果者

増減差引御改ニ同断、但シ男三人増

【宗盲人別送状】 菅屋市三条町、小阪作兵衛氏藏

(包紙)「寺送証文 丹波天田郡大呂村 天寧寺」

前寺送証状一札之事

一、保科越前守様御領分丹州天田郡長尾村与兵衛子年三拾

三庄右衛門と申者、代々禅宗当寺租那ニ紛無御座候、此

度貴寺且中其御村伊右衛門方え養子ニ遣申候、然ル上ハ

此方帳面相除申候、向後貴寺且中ニ被成、宗旨印形可
被成候、此者宗門代々切支丹ころひ之類族ニ無之、万
一紛數宗門杯と申者有之候ハ、何方迄も拙僧可申披
候、為後日宗旨送証状、仍而如件

寛政七乙卯年八月

接州鬼原郡三条村 照乘寺

宗盲送り之夏

一、撰西八部郡白川邑伴左衛門娘いかな年十四才、此者

宗旨之義ハ、代々清家禅宗、則拙庵禮那ニ紛レ無御座、

尤も御公儀御法度之切支丹ハ不及申、転ニても無之候、

然ハ今般貴寺禮中其御村四郎兵衛方へ妻ニ遣し可申間、

改寺送り、自今貴寺宗帳人別御加入可被成、為其宗

旨送り一札、仍而如件

文化拾貳乙亥稔 同州同郡同村 広福寺塔中 竜泉庵(印)

榎月日 同州同郡同村 竜泉庵(印)

撰東鬼原郡三条邑 照乘寺

【三条村戸口・牛数表】「宗旨人家御改帳」「点合帳」による

A. D.	年	家数	人口		増加				減少				牛数		
			計	男女	計	出生	入村	計	死亡	失人	出村				
				男	女	男	女	男	女	男	女	男	女		
1780	安永 9		(男3人増 女3人増)	1	3	0	0	1	3	3	1	2	0	1	1
1783	天明 3		(男3人減)	5	1	2	0	3	1	2	4	2	2	0	2
1785	天明 5		(男2人増 女2人減)	2	4	2	2	0	2	5	4	5	2	0	2
1789	寛政 1	42	162	82	80										23
1790	2	44	160	85	75	5	3	4	1	1	2	2	8	2	6
1791	3	44	165	87	78	5	6	2	3	3	3	3	3	3	3
1792	4														
1793	5	44	175	93	82										17
1794	6	44	175	93	82	4	5	3	3	1	2	4	5	3	3
1795	7	44	171	92	79	2	2	1	2	1	0	3	5	3	4
1796	8	44	169	92	77	4	4	1	3	3	1	4	6	2	3
1797	9	44	173	95	78	5	2	0	0	0	0	2	1	2	1
1798	10	44	179	97	82	4	5	2	3	2	2	2	1	2	1
1799	11	43	180	95	85	1	4	1	2	0	2	3	1	3	1
1800	12	43	185	97	88	4	5	3	4	1	1	2	2	2	2
1801	享和 1	43	190	103	87	7	5	3	0	4	5	1	6	0	5
1802	2	43	197	100	97	1	10	0	7	1	3	4	0	2	0
1803	3	44	192	99	93	1	4	0	4	1	0	2	8	2	4
1804	文化 1	44	194	97	97	2	6	0	2	2	4	3	3	1	2
1805	2	45	197	99	98	3	3	2	2	1	1	1	2	1	2
1806	3	45	191	96	95	2	1	2	1	0	0	5	4	3	0
1807	4	44	184	93	91	1	0	1	0	0	0	4	4	1	0
1808	5	44	177	91	86	1	2	1	1	0	1	3	7	3	4
1809	6	43	175	90	85	1	2	1	1	0	1	2	3	1	1
1810	7	43	179	91	88	3	7	1	1	2	6	2	4	2	2
1811	8	43	183	95	88	5	2	3	2	2	0	1	2	1	1
1812	9	42	177	90	87	1	4	1	2	0	2	6	5	6	2
1813	10	42	176	91	85	3	0	3	0	0	0	2	2	1	2
1814	11	42	171	90	81	2	4	1	3	1	1	3	8	2	7
1815	12	43	171	90	81	2	4	2	3	0	1	2	4	2	2
1816	13	43	180	93	87	5	8	3	3	2	5	2	2	1	0
1817	14	43	180	91	89	2	5	1	3	1	2	4	3	2	2
1818	文政 1	43	183	94	89	6	3	4	3	2	0	3	3	3	1
1819	2	43	190	95	95										
1820	3	43	193	92	101	1	7	1	4	0	3	4	1	2	1
1821	4	43	192	91	101	3	4	2	3	1	1	4	4	4	3

家数のうち一軒は寺(照楽寺)

【三条村五人組帳・牛帳・年季帳・自庵帳】

同前
寛政二年
一七九〇年

(表紙)
寛政貳戌庚年
五人組牛帳
井二年季奉公人
野寄組
三条村

頭 四郎兵衛
幸助
伝兵衛
市左衛門
頭 忠兵衛
宇兵衛
甚左衛門
彌兵衛
兵右衛門
五人
頭 市兵衛
久兵衛
伊作
清兵衛事三郎兵衛
又兵衛
五人

頭 伊左衛門
弥三右衛門
源兵衛
作右衛門
伊右衛門事源六
頭 八郎兵衛事十助
長兵衛
七郎兵衛
甚兵衛事くの
吉兵衛
長五郎
六人
頭 吉右衛門
六兵衛
市右衛門
忠右衛門
茂兵衛後家と
善次郎
六人

頭 善右衛門
嘉右衛門
七兵衛
又四郎後家
新七
五人

家数合四拾三軒外ニ春軒寺

頭 仁兵衛事源四郎
五兵衛
長右衛門
太兵衛
嘉兵衛
伊助
六人

一牛疋正
三條村
牛疋正
清兵衛
市兵衛
又兵衛
源四郎
善右衛門
伊左衛門
長兵衛
茂兵衛後家と
七郎兵衛
作右衛門
市右衛門
後ニ貳疋減

一 三条村 太兵衛年季
京都御郡代様御支配所丹羽天田郡日尾村元次郎娘年十五つ
る、酉二月より卯二月迄、七ヶ年季召抱申候

右同人娘年十四之よ、酉二月より来辰二月迄、八ヶ年季召抱
申候

一向宗 西本願寺末寺小浜庵寺下 三条村
一 照葉寺 自庵年廿六 教勝

同寺 妹とし廿一 いつ

【三条村年季奉公人表】小阪作兵衛氏蔵、寛政一、文政時代
屋主 年季奉公人 年季 年季
太兵衛 丹羽天田郡日尾村 七ヶ年季 寛政元年二月 2014才
元次郎娘 同 七ヶ年季 同 七年二月 2013才
伊左衛門 同 右 娘 七ヶ年季 同 八年二月 2013才
八郎兵衛 丹波天田郡行積村 伊之助 七ヶ年季 寛政十年二月 2013才
善兵衛 同 善兵衛 伊之助 七ヶ年季 文化二年二月 2013才
作兵衛 但羽朝来郡末藏村 万助 六年季 元和二年二月 2115才
政七伴万吉事 同 万助 六年季 文化五年二月 2115才

5 山論・入会

【伊丹後書状】 芦屋市打出若宮町、吉田善八氏蔵
〔表書〕
〔宗運まゝる〕

能令啓候、然者、打出領之内にて、高野山悉地院石塔被申
付ニ、愈馳走由、奉行之坊迄被申候、大夫殿拙者宿坊
之事ニ候間、相応之用所馳走候て可給候、恐々頓首、

三月晦日 伊丹後 (花押)

【元和二年蘆屋庄打出村宗運文書】

○吉井良秀氏著「武庫の川千鳥」所引抄録による。
もと元治元年(一八六四)打出村西田花居稿「蘆
の浦風」所載、文中割弧は良秀氏の附記。
○五十九年巳前、天文年中(弘治三年の誤)越水城主、三好修理
大夫長慶殿と申候、其節西宮兵庫屋何某と申者、佳娘を被持候を
被開召、御寵愛不淺、其上御内に松永正と申、悉皆人御座候、
是も野間右兵衛殿、齋藤新八郎殿と御兩人を以て、偏頼被申候、
左様候へば、上下彼方を御眞實被成候に付、何たる不結儀を申
掛候ても苦かるまじきと存候か、此方の揮領新義にかさ押に、山

嘉蔵 丹波天田郡田和村 源蔵 六年季 文化九年二月 2317才
五左衛門伴 同 同 同十五年二月 2317才
作兵衛 丹波天田郡大呂村 龜松 六年季 同十四年二月 2115才
与市郎伴 同 同 同 同十六年二月 2115才
八郎兵衛 丹波天田郡長尾村 權蔵 文政元年九月 2010才
喜平次伴 同 同 同 同十一年二月 2010才
茂兵衛 同右村 長吉 文政元年九月 2013才
清右衛門伴 同 同 同 同八年九月 2013才

【年季奉公人請証文】 芦屋市月若町、猿丸吉左衛門氏蔵
○明和五年(一七六八)

年季奉公人請状之事

一振州揖東郡天満村平治郎女子年十三さんと申者、当子ノ
二月より来辰ノ二月迄、九年四年季ニ相極、奉公為致申候、
則右給銀として銀四拾五匁儲ニ受取申候、然ル上は、右年
季之内、不奉公仕候敷、又ハ長煩仕候は、人代相立成共、
右請取申候給銀相渡シ成共、其元様思召次第可仕候、則宗
旨之義ハ、代々浄土真宗同村聖安寺旦那ニ紛無御坐候、寺
請状別紙ニ取置置申候、為後日仍而如件

明和五年ノ年 振州天満村親 平治郎 印
二月 同村年寄 長左衛門 印

振州兎原郡芦屋村 吉左衛門殿

へ人を入れられ申候を、此方より鎌を取り、追払申候へは、山に
ては異儀に不及候て理不尽に二千三千の人数を対度と被掛候に付
て、小在所の御事に御座候へは迷惑仕候、惣別蘆屋庄と申は、柴
を任其日々の身命を次申御事に御座候に付、迷惑に存御奉行所
へ申上、芥川と申所にて裁許仕候て三問答ながら勝申候事
右裁許の勝負に不備、又右如申上、無理押領を被仕掛、何を以在
所に堪忍可仕候も無之、一人も不残在所を逃散仕候事
五年亡仕候へは、五年目の霜月に、三好日向守様と申は、下郡
(島下郡也)の郡代にて御座候を、松永正殿と申か御頼被成候
て、蘆屋庄を早く被召直、如前々山を身体可仕由、被仰候に付て
罷直り候、夫より以来山を仕候、其節の向州様御使者には、坂
東大炊助殿、金子市之丞殿と被申候、是は右向州様御内御殿の御
年寄にて御座候、

五ヶ年以前此方山の内より銀子出申候に付、其御片桐主膳正殿、
四宮の御代官にて御座候へは、又彼方(本庄村にや)より忝成儀
を被申掛候所に、則主膳正様へ御願申上候へは御檢使被下候、五
ヶ年以前、閏十月十四日、山にて銀子御尋被成候間罷出只今銀子出
申候は此方の山内に御座候由申上候に付、別儀無御座被仰候事
去年春、高野山悉地院と申御寺より、此方の山にて石塔御切被成
候所、此方より裁判仕候へは、其刻四宮の御代官、大野修理殿御
持被成候に付又彼方(本庄村カ)より、忝成儀被申掛候処、則修
理殿へ此方より御願申上候へは、無別儀如前々被仰付、此方より
道を造り石塔出し申候之間、何を以彼方より山の義に付、被申分
は御座有間敷候事
元和二年丙辰九月十二日 蘆屋庄打出村宗運

【中野村百姓連判状】

○延享四年(一七四七) 菅屋市三桑町、小阪清兵衛氏藏

一 今度、菅屋打出本庄及山論ニ候所、役人中、百姓方へ一言之知せも無之、清証文相手方へ進シ、村方へ何之披露も不被致、百姓閉合、其分ニ差安置、恐多事なから、又棟御上様へ御願申上候族相究、百姓不殘れん印仕候、

一 右之義ニ付、入用如何程いり候共、其時一言申問敷候事、

一 御願之筋ニ而御とかめ如何様之難義人有之候共、諸入用ハ及申ニ、其者斗ニ難義かけ申問敷候事、為念連判、仍而如件、

延享四年卯五月廿一日

- 中野村 權左衛門(印) 太平治(印)
- 善左衛門(印) 市右衛門(印)
- 市次郎(印) 宗右衛門(印)
- 字兵衛(印) 仁兵衛(印)
- 次左衛門(印) 平右衛門(印)
- 理兵衛(印) 久右衛門(印)
- 吉右衛門(印) 八兵衛(印)
- 長左衛門(印) 九郎兵衛(印)
- 市郎兵衛(印) 長右衛門(印)
- 久兵衛(印) 六兵衛(印)
- 安兵衛(印) 藤七(印)
- 与三左衛門(印) 甚兵衛(印)

【山論裁許状】

○寛延三年(一七五〇) 菅屋市役所藏

撰津国兔原郡菅屋庄式ヶ村と武庫郡社家郷六ヶ村兔原郡本庄九ヶ村山論那境庄境裁許之事

菅屋庄訴趣者、往古より之持山え社家郷之者入込及狼藉、刺社家郷持山之由申掠之旨訴之、社家郷答趣、右山者往古より広田西宮両社之山ニ而、社家郷六ヶ村持山之処、菅屋打出式ヶ村より新道を作り、山内え入込新儀を巧及山訴候、山之鎮守西宮之末社白山権現之石室殿武庫山之峯通ニ有之、山隣者兔原郡本庄山ニ而、那境炭ヶ尾、石釜、烏帽子岩、境目大石明白之処、菅屋庄より申掠旨答之、右山論双方会繪圖申付ニ至、本庄九ヶ村より令横訴処、無程庄屋年寄者和睦して内済を告るといへ共、本庄山内東西拾七町程之内六町、菅屋庄より繪圖ニ載横領申掛候、天文年中三好修理大夫裁許状古繪圖有之由を以、九ヶ村百姓代抽而令再訴、菅屋庄答趣者、持山東西拾八町之内、東拾貳町者西宮、西六町者本庄より横領申掛候、菅屋庄ニ者往古より山進退之証物書を以答之、右而訴就難決為檢使稻垣藤左衛門奥谷半四郎被差遣逐糺明処、社家郷より申立郡境

者、高塚よりいもり山、烏帽子岩、石釜、炭ヶ尾、石祠迄、見通之由申といへ共、聞伝而已にして無証拠、且打出村地頭林同村新田岩ヶ平新田、竝溜池貳拾三ヶ所各武庫郡之地ニ入候、為証拠武庫郡越木岩新田檢地帳、名寄帳、算用帳等差出といへ共、越木岩新田者、明曆之檢地、岩ヶ平新田者、延宝之檢地にして、貳拾ヶ年余を隔、殊ニ越木岩新田檢地帳ニ岩ヶ平新田之高無之上者、申条聞伝迄にて証拠ニ者難用、右地面悉兔原郡ニ相決候、仁川奥論山炭ヶ谷之内社家郷土砂留丁場有之といへ共、右丁場有無を以、那境之証拠難成、字中畑之内古畑荒地社家郷開発之跡之由聞伝を以申所、是又無証拠、石祠下字炭ヶ尾と唱社家郷より西之尾を指、本庄より東之尾を指、境目兩条令齟齬、菅屋庄山内炭ヶ尾之名目無之、社家郷本庄共ニ聞伝迄ニ而無証拠、菅屋庄より新道を付候旨社家郷より申立といへ共、見分之上古道ニ無相違、其外社家郷より差出書物繪圖等悉不都合ニ而証拠ニ難用、扱亦菅屋庄申、西宮打出村地境之証拠地頭林内字栗林寛文二年皮剥松拾七本分明也、論山かき谷之内打出村支配之銀山間歩持山之証跡有之、天文年中東拾貳町社家郷就横領菅屋打出兩村百姓離散之砌、永祿三年

三好日向守裁許を以立掃如前々菅屋庄山進退証拠之状有之、且元祿十一寅年領主え差出郡境書付之扣、他村連判無紛、旁以菅屋庄持山之由緒並那境之証拠等顯然たり、本庄より所論西六町之境中垣石、花石、伏石、切口、烏帽子岩、石釜、炭ヶ尾、石祠北者六甲山峯通本庄持山之由申といへ共、伏石、切口無之、中垣石者菅屋庄より涼塚と唱、本庄より中石垣と号旨趣吟味之上、菅屋村と三条村地境印にして、却而菅屋庄より申立ル西之境目ニ的當論山之内菅屋村弁天宮地年久敷安置する事本庄持山ニあらざる証跡也、字三睦知本庄より畑之場と唱、古畑荒地跡有之、享保年中本庄より開発之由申といへ共、吟味之上無証拠、其外繪圖、書付、古状等差出分逸々証拠ニ難用、天文廿四年三好修理大夫裁許状有といへ共、其比本庄横領故、菅屋庄百姓離散之節にして、三ヶ年を経弘治三年三好日向守裁判を以立掃、菅屋庄如前々山進退、本庄横領之境目書物悉可為反故旨裁許状演之、竝天正十年池田紀伊守再裁許之状、三好日向守墨究相用山進退せしむる条、本庄所持之状全不用たり、既今般本庄庄屋年寄内済之節取替証文古来之通西六町北者、石祠より一のこし桜ヶ株迄地頭林者不及申、南北

見通芦屋庄支配無相違旨記之芦屋庄持山彌顯然たり、於然者武庫郡鬼原郡境之儀、堀切川下より高塚迄、西宮町打出村田地畔限、高塚より五本松迄山之尾者奉通、谷間者西宮田地畔限五本松より飯盛尾を見通、皮刺松を以西宮打出村地頭林之境とす、飯盛尾より立会峠に至山之尾筋を伝ひ、立会峠之峯を越、北之谷間池之成夏之尾筋を上り、山之峯筋逆瀬谷入口迄水流限、夫よりしゝみ塚とが、坂迄道限、とが、尾純池谷之西北山之尾筋を廻り、とが、尾之峯より亥之方茨谷尻を見通尾筋水流限、岸より下小谷並茨谷折廻、しゝ遊、横尾、石祠見通、谷筋中央限、右武庫郡鬼原郡之境ニ決、石祠より六甲山峯統二ツ塚乃至二のこし迄有馬郡鬼原郡之境水流限、二のこし之下谷筋中央甲ヶ鉢より花原之峯を越、巳之方小谷を下、大谷之入口迄溝限、大谷筋中央中見山之峯を越、椈ヶ株之下高座谷川中央限、三条村用水井路之堰口より涼塚迄井路限、同所より傍示川迄三条村芦屋村田地限、本庄芦屋両庄之境ニ極、右郡境庄境東北西三方境目相決、山境者南之方地頭林木立限、芦屋庄武ヶ村古来之通山進退すべし、右山内尚後社家郷本庄より固不可妨之、右之趣今般衆評之上裁断之畢、仍為後鑑慈圖面引畢

筋加印判三方え授置之条永不可違失者也、

寛延三庚午年二月

防 (印)
後 (印)
岐 (印)

摂津国鬼原郡芦屋庄武ヶ村
同 国武庫郡社家郷六ヶ村
同 国鬼原郡本庄郷九ヶ村
右村々
百年庄
姓寄屋

【山論裁許表白文】

神戸市東灘区本山町、猿丸武勇氏藏
○寛延四年(一七五二)

○前文裁許状(前掲同文)略

敬而奉拜書、山論御裁判依成下給、雖有奉頂戴、実ニ理哉神者非礼ヲ請給す、誓真戴天を信力賢固之門を照し給ひ、正直遂憐愍之神国之神之捷、誠なる哉、芦屋庄には昔より所持に神以毛頭相違無之条、歴然之処、社家郷本庄両郷之族、催結邪佞横領、怨敵と成て結争論、依之辞事なく、時之御地頭松平遠江守様へ訴書以奉親御覽慮処、御他領入組にして不給遂純明、去程ニ大坂御番所へ奉御願申上、于美地方御奉行職山本長右衛門様、田坂直右衛門様、頼明之

御役儀御上々様へ願之旨趣成給言上、至而吟味依為末細

年月を経、就中及難決事九ヶ年、雖然天道三室之納受、神明之冥利にかなひ、邪知横變之申掛といへとも、一句一言之答に少も應ず、忽然として詳ひ申開キ、其美麗なる事、誓ハ草木臨テ季ニ華実の時を不違ニ似たり、敢以垂失之違難、事偏に氏の神天満宮の依擁護ニなり、故ニ寛延三庚午年二月十七日、今此時に当テ、悉も天下の御制務大坂之御守護御城代酒井讃岐守様、御而殿久松筑後守様、小浜周防守様、御裁断列印ニして事嚴重たり、難有かな、人は神之徳によつて運の求以テ自他年来之愁眉を開キ、後代迄之雪面目を、後世ニ至迄他之妨無之条、神徳正ニ顯然たり、然れば則神恩之忘事非本意、思ラクハ自今以後累年二月十七日為良辰之間、氏子中神前ニ詣、丹誠抽テ、速ニ奉礼拝者也、

仰願は、其席ニのぞんて此啓軸を開キ、奉神慮を、兼具に訓読し、山内三方之境目其由緒不違様代々相統ならしめは、当地繁昌子孫之助ならん、益々神慮を可願、万端難尽筆紙、併末代信用之思出ニ令神納之畢、依而執達如件、

寛延四辛未歲二月十七日

願主当村

氏子中

白

斯而件之啓軸、依欲奉獻神前へ、其書シ之、奉寄付、願ハ此書後世ニ至於痛損者、時之人可致造營之、幼少童稚之助とナラン、依テ会芸之思ひなし粗走筆也、頓首

施主当村

生年三十三歳

助野氏利兵衛

満信敬白

総圖ノ面ヲ墨引筋ニ御印居リ所

讃岐守様御印

荷宝 越殿

堀切川尻

筑後守様御印

華立 会峰

高塚

周防守様御印

茨谷 原山

栗林十七本松

庄屋 久保金兵衛

年寄 久保七郎右衛門

同 好村忠右衛門

同 山村伊左衛門

同 井床九左衛門

同 助野与兵衛

同 同姓五郎右衛門

同 同姓五郎右衛門

同 同姓五郎右衛門

同 同姓五郎右衛門

同 同姓五郎右衛門

同 同姓五郎右衛門

同 同姓五郎右衛門

同 同姓五郎右衛門

同 同姓五郎右衛門

同 同姓五郎右衛門

同 同姓五郎右衛門

同 同姓五郎右衛門

同 同姓五郎右衛門

同 同姓五郎右衛門

同 同姓五郎右衛門

同 同姓五郎右衛門

同 同姓五郎右衛門

同 同姓五郎右衛門

同 同姓五郎右衛門

同 同姓五郎右衛門

同 同姓五郎右衛門

浜堀切の深江境川迄
堀切の大溝迄 五百五拾間
同所ノ芦屋境川迄六百貳間
境川ノ浜芦屋道迄百三十六
間
道ノ堤迄八拾四間
芦屋川幅 八拾貳間
又三十間
西境ノ境迄五拾四間
惣合千五十四間
此町十七町三十四間

凡道法
一 宝殿 芦屋村迄 四十七町
但し大川筋 四十七町
一 打出村迄 六十貳町
一 同 右同所 八拾五町
一 同 見谷迄 九拾町
一 同 鷺林寺迄 七拾九町
一 同 越水村迄 七拾九町
一 同 右同所 七拾九町

一 同 中村迄 八拾三町
一 同 右同所 八拾三町
一 同 上ヶ原迄 七十四町
一 同 鷺林寺ノ甲山西通リ
一 同 広田村迄 七拾九町
一 同 鷺林寺迄 四十町
一 同 越木岩迄 六拾貳町
一 同 但し鷺林寺通リ 六拾貳町
本庄東西往還筋
西境ノ芦屋境迄
拾六町貳拾間
山 芦屋庄ニノ越ニツ石ガ
山路庄迄十五町貳拾間
内
すく繩ニ而見れハ七十
九間引ケ
残十三町五十三間すくなり

一 同 角兵衛 六
一 同 善兵衛 六
一 同 市兵衛 六
一 同 勘四郎 四
一 同 伊左衛門殿 七
一 同 忠右衛門殿 九
一 同 庄右衛門殿 九
一 同 善右衛門殿 九
一 同 平兵衛殿 八
一 同 八郎兵衛殿 八
一 同 清兵衛殿 八
一 同 惣左衛門殿 五
一 同 与兵衛殿 五
一 同 佐左衛門殿 五
一 同 庄左衛門殿 五
一 同 仁助殿 五
一 同 治郎右衛門殿 十
一 同 十左衛門殿 十
一 同 甚兵衛殿 十
一 同 兵衛殿 十
一 同 利兵衛殿 十
一 同 勘九郎殿 十

一 論地ニ双方立会之節、
互ニ非儀申掛間敷候、勿
論口論仕間敷事
一 総師尊人ニ而方ノ頼、
最眞偏頗不仕様ニ誓紙い
たさせ、総圖書ヲ可申事
右条々於相背者、
梵天帝釈四天大王惣日本
六十余州大小神祇殊伊豆
箱根而所権現三嶋大明神
八幡大菩薩天満大自在天
神部類眷屬神討其討各可
蒙罷者也、仍起請如件

寛延二己二月十三日
御檢使 稻垣藤左衛門
奥谷半四郎
御手代 江口伴左衛門
新明政右衛門
祐筆 高野用藏
金吾
竿取 市右衛門
起請文之前書
一 論所少々無相違、山
川道谷田畑堤井溝等如有
来、双方立会有杉杵枚絵
関仕立可申支

一 東方社家郷六ヶ村、西方
本庄九ヶ村、山論之義、
此度当二月大坂御番所ニ
而御裁許、則御総圖書屋
村打出村而村ニ被下候処
当村ニ当分預リ具候様御
頼ニ付、儲ニ預リ申所美
正明白ニ御座候処、何時

一 論地ニ双方立会之節、
互ニ非儀申掛間敷候、勿
論口論仕間敷事
一 総師尊人ニ而方ノ頼、
最眞偏頗不仕様ニ誓紙い
たさせ、総圖書ヲ可申事
右条々於相背者、
梵天帝釈四天大王惣日本
六十余州大小神祇殊伊豆
箱根而所権現三嶋大明神
八幡大菩薩天満大自在天
神部類眷屬神討其討各可
蒙罷者也、仍起請如件

ニ而も東西境目吟味其外
御用拜見被成度節、早速
相渡し可申候、仍右絵図
預リ手形、為後日之如件
井
一 (空白)
一 (空白)
一 (空白)
往古ノ其元芦屋村ニ持来リ
分共、改此方持来リ之書物
と一所仕、預リ置候、以上
尼ヶ崎松平遠江守候領
寛延三庚午年 善 八
四月 同村年善平 四郎
同 善右衛門
同 善吉
同 善藏
同 兵右衛門
同 仁左衛門
同 与右衛門
同 九右衛門
同 平八
同 清右衛門
同 太右衛門
同 忠右衛門
同 藤右衛門
同 三郎兵衛

一 同 角兵衛 六
一 同 善兵衛 六
一 同 市兵衛 六
一 同 勘四郎 四
一 同 伊左衛門殿 七
一 同 忠右衛門殿 九
一 同 庄右衛門殿 九
一 同 善右衛門殿 九
一 同 平兵衛殿 八
一 同 八郎兵衛殿 八
一 同 清兵衛殿 八
一 同 惣左衛門殿 五
一 同 与兵衛殿 五
一 同 佐左衛門殿 五
一 同 庄左衛門殿 五
一 同 仁助殿 五
一 同 治郎右衛門殿 十
一 同 十左衛門殿 十
一 同 甚兵衛殿 十
一 同 兵衛殿 十
一 同 利兵衛殿 十
一 同 勘九郎殿 十

一 論所少々無相違、山
川道谷田畑堤井溝等如有
来、双方立会有杉杵枚絵
関仕立可申支

一 東方社家郷六ヶ村、西方
本庄九ヶ村、山論之義、
此度当二月大坂御番所ニ
而御裁許、則御総圖書屋
村打出村而村ニ被下候処
当村ニ当分預リ具候様御
頼ニ付、儲ニ預リ申所美
正明白ニ御座候処、何時

アトノ難儀チ、くろ海の御筆
一々無理を、ゆう天和尙名号
ニシテカイノマン陀羅ハ
社家郷一徳三異作
誤リ証文ハきのとくの御筆
三方への絵図カ楯ニ
長伝子御筆
笑止事ニ、なり平ノ御筆
禁制札ハ、本陣院御筆
文ニ曰
於山内、自今末代ニ至迄、柴
木如取支堅致開鋪事、
右之趣急度相心得べきもの也
寛延三庚午年二月十七日

嘉永三成年正月十七日
御代官御手代
海岸并海中浅深御改座候
芦屋村打出境ノ深江村境迄
長八丁拾五間浪打際
海中深サ
一三十間沖 形間四尺
一壹丁沖 形間五尺
一五丁沖 四間五尺
一十丁沖 六間四尺
一或十丁沖 六間五尺
一三拾丁沖 七間或尺

東青木村さくる木、田辺村之まな池西堤、五ツ岩迄見通
し、奥山は浅香山谷頭より峯通奥へ行は東原へ懸り山路之
庄と出合之場迄、夫々凡六町程之間道限り、此間ニ赤坂之
のり越と云所あり、奥之出合夫より東光寺山之峯ふたひの
平炭が尾岩じやり迄、此間ニ所々小キ塚有、右之通相違な
き事也
右東西際限改之義は、寛政五丑年六月二日、本庄村々庄屋
年寄頭百姓立会、相改申出、相違無御座候、
寛政五丑年
六月
三糸村庄屋 伊 作
年寄 宇兵衛
頭百姓 八郎兵衛
同断 忠兵衛

【本庄東西際限改】 芦屋市三条町、小阪作兵衛氏藏
○寛政五年(一七九三)

東境
本庄東西際限
高座谷中央三条村用水一ノ井手ノ源塚迄井路限、夫ノ源塚
ほうじ川浜迄見通シ也、奥山は横が株中見山大谷之谷口花
原兜がはち小谷ニ之越岩ニツ塚は
有馬郡鬼原郡本庄芦屋里境也
西境

【字奥山山請証文】 芦屋市三条町、小阪作兵衛氏藏
○寛政九年(一七九七)

一 札
一前々從御公儀様被仰出候土砂留所川筋、無油断見廻り、
新崩等無之様手当等可致旨、精々被為 仰渡候ニ付、此
度当村山内六甲山峯統字柴山と申所、当村より手邊キ場
所成故、他所他村ノ隈ニ入込伐採候儀も難斗存居申候得

共、見廻り万端手当等も難行届御座候ニ付、暫其御村方
へ吟味為行届之山内御預申置候処相違無御座候、然ル上
ハ、右之場所ニ生立候松木、猥ニ伐り採不申候様御吟味
可被下候、猶其御村御不勝手之節ハ、右山内地面之場所
何時成とも御戻シ可被成候、為後証一札如件、
寛政九巳年
二月
撰州有馬郡湯山六町年寄
池坊左橋右衛門 印
川崎宇右衛門 印
山支配人 角坊伝兵衛 印

撰州鬼原郡本庄
村々御役人名主

【有馬山請所境】 芦屋市三条町、小阪作兵衛氏藏
○文化十一年(一八一四)

有馬山請所境
東ははんしらかごぞ申西之間見通し、西は小竹西之尾限
りなめら谷西原之峯限り、前は山路之庄地境見通し
右之通、本庄九ヶ村、有馬拾六町惣代立会、境杭木打申候、
請山年貢之義は別紙山請証文ニ有之、則庄内村々百姓惣代
之連印ニ而一札差入有之候
文化十一年
十月

【字奥山山請証文】 芦屋市三条町、小阪作兵衛氏藏
○文化十一年(一八一四)

一 札
一其御地、字奥山之内、下刈柴之儀、壹ヶ年米式石五斗六
拾及相場ニ相極刈取候様、山境双方立会五ヶ年切ニ相
極、右米代銀毎年極月廿日限ニ無滞滞相渡可申候、尤土
留御普請所之儀は、双方立会目印杭打仕候ニ付、山受所
境之儀は、其御地六甲山坊跡御年貢地ノ打越候向々柴山
分也、四方境立会杭限刈取、受所之外一切刈取申間敷候
但シ松木之分、譬小松たり共一切為伐取申間敷候、為後
日山請証文、仍而如件、

文化十一年
十一月

- 森村百姓代 重兵衛 印
- 中野村百姓代 彌平次 印
- 同断 彌三七 印
- 小路村百姓代 吉兵衛 印
- 北畑村百姓代 安兵衛 印
- 青木村百姓代 彌右衛門 印
- 同断 喜五郎 印
- 深江村百姓代 藤左衛門 印
- 津知村百姓代 与兵衛 印
- 三糸村百姓代 伊右衛門 印

有馬湯山町拾六町
年行司衆中
米屋嘉藏殿

6 水利・水論・水車

【岸作池床引御上書】 芦屋市打出岩宮町、吉田善八氏藏

○寛永十二年(一六三五)カ

(袋表書)

岸作池床引
御上書

已上

其村日損所依有之、新池申付為掘候、其池地三反三畝貳拾歩、此高貳石九斗七升之所、從當暮御勘定ニ立可申候者也

乙亥
正月廿八日

内藤六右衛門 (花押)
香山長兵衛 (花押)
高岡茂左衛門 (花押)
打出村 庄屋 百姓殿

【貞享四年東川用水番割帳】 芦屋市三条町、小阪作兵衛氏

藏 ○貞享四年(一六八七)

(表紙)

東川用水番割帳扣之写

東川用水番割帳

東川用水番割之次第	
朔日	番頭
朔日	西中野村
二日	東深江村
三日	西同村
四日	東森村
五日	西中野村
六日	東深江村
七日	西同村
八日	東森村
九日	西森村
十日	東三条村
十一日	西中野村
十二日	東津知村

番頭	番頭
十三日	西中野村
十四日	東深江村
十五日	西同村
十六日	東森村
十七日	西中野村
十八日	東深江村
十九日	西同村
廿日	東森村
廿一日	西同村
廿二日	東三条村
廿三日	西中野村
廿四日	東津知村
廿五日	西中野村

一三条村あぜがいち毎日分水
字くわんおん田同村
一七畝歩 毎日分水

相極申番水之事

一毎年番割之儀は、帳面書記有之通
一七月十五日之水、西東番水ニ不構、例年三条村へ遣ス水

一三条村、津知村番水ヲ以、根付仕候節は、両日共両村分水ニ致し取申極ニ候
一小路村へ水遣し申義は、西番水之内見合ニ遣シ、是ハ村々番割ニハ構無之候
一雨ふり番破れ候節へ、前之通中野村番始ニ仕候、何村ニ而破れ候共右之通ニ候
一照繞痛候節は、田辺村七左衛門水掛り庄屋中立会見分之以、高下無之取可申候、自今以後立会見分之上へ、何れも方御了簡之通ニいたし相守可申事
右之通、庄屋年寄立会相極判形致置者也、

貞享四年
七月廿二日

中野村庄屋	彌三左衛門印
同村年寄	佐次兵衛印
同村同断	次郎左衛門印
中野村庄屋	作左衛門印
同村年寄	市右衛門印
深江村庄屋	忠兵衛印
同村年寄	十右衛門印
同村同断	彌三右衛門印
森村庄屋	久左衛門印
同村年寄	与三兵衛印
同村同断	善太夫印
三条村庄屋	治兵衛印

○旧中野村有文書に同文「東川番割極之帳」(写)あり、

同 村年寄 伝 兵衛 印
 同 村同断 忠 兵衛 印
 津知村庄屋 次左衛門 印
 同 村年寄 彌右衛門 印
 小路村庄屋 九郎右衛門 印
 田辺村 七左衛門 印
 深江村 甚右衛門 印

【打出村善八水車新建一札】
旧中野村有文書
 ○正徳二年(一七二二)
 寛政十二年(一八〇〇)

一 札

一、私儀、東川上二之井手ニ而水車仕度奉存候ニ付、水掛り各々村々え相断候得は、若用水之構罷成候へは相止させ可申候、其節難儀可有之候間、無用之儀と御申被成候段、御尤ニ候、併口分用水構ニ不罷成候様ニ仕可申候、自然少ニても構申候儀御座候へ、被 仰聞次第ニ何時ニても水車相止可申候、其時一言之御託言申間敷候、為後日如件

正徳貳辰三月二日 水車主打出村 善八 印

中野村 庄屋 勘 助殿
 同 村年寄 半右衛門 殿
 小路村 庄屋 安 兵衛 殿
 同 村年寄 甚 兵衛 殿
 深江村 庄屋 吉 兵衛 殿
 同 村年寄 重右衛門 殿
 津知村 庄屋 半 四郎 殿
 同 村年寄 九郎右衛門 殿
 三条村 庄屋 作 兵衛 殿
 同 村年寄 五 兵衛 殿
 森村那右衛門 久左衛門 殿
 同 村年寄 伊右衛門 殿

右之通証文写奉差上候以上
 寛政十二年申三月廿五日 中野村庄屋 彌惣左衛門(印)
 同 村年寄 伊右衛門 殿 次(印)

【大阪山田町播磨屋与兵衛水車新建一札】
旧中野村有文書
 ○享保五年(一七二〇)
 寛政十二年(一八〇〇)

一 札

私儀、東川上二之井手ニ而水車仕度奉存候ニ付、水掛り各之村々え相断候得とも、若用水之構ニ罷成り候得は相止させ可申候、其節難儀ニ可有之候間、無用之儀と御申被

成候段、得心ニ候、併随分用水構ニ不罷成候様ニ仕可申候、乍然少々ニても構申候儀御座候へ、被仰聞次第ニ、何時ニても水車相止可申候、其時一言之御託言申間敷候、為後日如件

大坂山田町播磨屋車主 与 兵衛 印
 芦屋村年寄 八左衛門 印
 同 断 平 助 印
 同 村庄屋 太郎右衛門 印

享保五年八月

中野村庄屋 甚 助殿
 同 村年寄 友右衛門 殿
 同 村庄屋 勘 平殿
 同 村年寄 権右衛門 殿
 小路村庄屋 安 兵衛 殿
 同 村年寄 甚 兵衛 殿
 森 村庄屋 且 七殿
 同 村年寄 左五衛門 殿
 三条村庄屋 源 五殿
 同 村庄屋 久 兵衛 殿
 津知村庄屋 半 四郎 殿
 同 村年寄 丈 兵衛 殿

深江村庄屋 吉 兵衛 殿
 同 村年寄 彌惣右衛門 殿

右之通証文写奉差上候以上
 寛政十二申年三月廿五日 中野村庄屋 彌惣左衛門(印)
 同 村庄屋 紋 次(印)
 御奉行様

【享保十一年本庄五力村願書】
旧中野村有文書
 ○享保十一年(一七二六)

乍恐書付を以御願奉申上候

一、東川用水之儀は、本庄之内、中野村、森村、三条村、津知村、深江村、小路村、右六ヶ村田地凡八拾町余之用水ニ而、水掛り之内ハ日割を以番水ニ仕候、然所此川筋長川ニ而、殊ニ三条村之上ニ之井手迄ハ別而川筋悪敷、穴もり等多御座候ニ付、番村より井手ノへ番人付ケ申儀人足多つゝ申ニ付、三条村ノ穴もり等留させ、其かわりニ三条村田地之内あせかいち八反へ毎日三反水宛遣シ申管ニ而、往古々何之村へ番あたり候而も、毎日三反水宛遣シ申所、近年ハ穴もり等も然々留不申候ニ付、村

々々大せい番人を付申所ニ、剩近年ハ右あせかいち近辺ニ如かへし、やふ開等大分致、夫故殊外すいはく地ニ罷成候ニ付、右之川筋落川ニ付ケ替、我儘ニ大水をしかけ申ニ付、番人古来之通三反水之積リニ川口を留寄せ候得は、三条村大勢罷出、番人専人を相手ニ致、我儘仕候ニ付、水掛り之田地近年日損致迷惑仕候御事

一、掛り人足多出シ、川筋等も古例之通ニ急度致申儀も仕兼不申候得共、三条村ハ所引請我儘致儀ニ御座候得は、及口論事やかましく可相成と奉存候、其上水掛リニハ御他領も有之候得は、彌以かさ高ニ罷成候、然ル上ハ、御上様之御苦勞ニ罷成候儀を奉恐、水掛り之庄屋年寄共、三条村庄屋年寄へ立会、兎角古例之通ニ可致と、去年今年再三申開候得共、一円承引不被致、我儘申罷有候、然ル上ハ、下ニ而兎角申候而ハ及口論可申と、御上様乍憚差扣乍恐御願奉申上候、追付番水時分ニ罷成候間、急々三条村御召被為遊、御吟味之上、此以後ハ分石ニ被為仰付被下、古来之通穴もり等も急度ふさき申候様ニ、被為仰付被下候様、奉願上候、以上

享保拾陸年五月

森 村庄屋 久左衛門

年寄 左五衛門
同所 嘉兵衛
津知村庄屋 半四郎
年寄 太兵衛
深江村庄屋 新兵衛
同所 彌三右衛門
小路村庄屋 幸助
年寄 甚兵衛
中野村庄屋 甚助
年寄 長右衛門

御奉行様

深江村庄屋吉兵衛ハ前庄屋故
名印除
中野村庄屋年寄ハ尼崎様へ
願故先名印除

【明和元年尼崎領中野村願書】 旧中野村有文書 ○明和元年(一七六四)

(端裏)「尼領分差被上候扣書留置」

乍恐書付を以御願奉申上候

一東川用水之儀ハ、中野村、深江村、森村、津知村、三条村、右五ヶ村之田地、凡七拾町余養申候、往古ハ夏至之日を番初メと仕、夫々毎日取申候水割之儀ハ、村々田地甲乙ニ随ハ日割ニ仕取来り申候、然ル処、三条村領分田

地字あせかいちと申所ハ反歩へ、毎日少々ツ、水わけ遣シ来り申候、近年ニ至リ殊外我儘を申、此方之差因を不請、自分ニ水をわけ存分ニ取、其上用水之川筋ニ新儀成ル井手を拵候所、上水流れのがいを仕、当村之義川下手末ニ候故難儀仕候事

一此度同村御他領御願被申上候通、三条村我儘新儀成儀相違無御座候、乍恐御見分之上、水分ケ所被為 仰付被下候ハ、難有可奉存候、尤深江村、森村、津知村、右三ヶ村水掛リ日割一烈之村方ニ候所、私方より相請致シ候処、三ヶ村庄屋中被申候ハ、此方共村々川上と申外ニ用水之便りも御座候、別而当年ハ折々之潤も有之、右其元村方程ニも当分ニテハ難儀も無之故、先見合差扣候と被申候、三ヶ村右之通ニ御座候処、私村斗抽出御願申上候儀、御上様思召も在、恐入り奉存候得共、御他領と入交リ之御田地ニ候て、用水筋之義一烈之義ニ御座候、右其儘ニ難差置、難儀至極ニ御座候、依之乍恐言上奉申上候、御慈悲之上、相手三条村庄屋年寄百姓被為、召出、いか様とも被為 仰付被下候ハ、難有可奉存候、以上

明和元年

申七月十一日

横州免原郡中野村庄屋

四郎右衛門 印

松平遠江守様
御役所

同村年寄 半右衛門 印
同村百姓代 惣右衛門 印
同所 義左衛門 印

【明和二年中野村・深江村・津知村・森村・三条村為取替証文】 芦屋市三条町、小阪作兵衛氏藏 ○明和二年(一七六五)

為取替一札之事

一東川筋養水之儀、三条村あぜ垣内之分水、近年撰ニ相成候ニ付、御料中野村ハ三条村を相手取出訴被致候ニ付、去申七月、右水懸り之村々、深江村、津知村、森村、三条村、御会所へ御召被成、御吟味御座候処、相手三条村を除、右三ヶ村は中野村同様ニ指構御願申上候、依之大庄屋横屋松井三右衛門殿へ御取置被 仰付候段承知仕候、其後松井三右衛門殿あぜ垣内并川筋共度々御内見之上、双方村々庄屋年寄頭百姓迄立会、あぜ垣内之分水合石ニ仕候様御取置被成、双方共得心之上内済仕候相違無御座候、尤井手々之儀も此度相改申候、向後分水石、左之

通相究り候事

一あせ垣内えわかれ候本川幅四尺六寸
但底石幅九寸、川底高卷尺ニ伏置
一あせ垣内え分水溝口卷尺五分

但溝口底石本川伏石水流一面之切抜
右之通合石居り申候、尤分石形之墨引別紙ニ相添、双方え
取置申候、然ル上は、何之申分無之候、向後違乱申出間敷
候、為後日為取替証文、仍而如件

明和二酉年八月

- 御料中野村庄屋 彌惣左衛門(印)
- 同村 年寄 藤 助(印)
- 同村 頭百姓 勘 兵衛(印)
- 同断 甚右衛門(印)
- 尼崎領同村庄屋 四郎右衛門(印)
- 同村 年寄 半右衛門(印)
- 同村 頭百姓 五 兵衛(印)
- 深江村 庄屋 忠 兵衛(印)
- 同村 年寄 新 兵衛(印)
- 同断 清 五郎(印)
- 同断 利右衛門(印)
- 同村 頭百姓 作右衛門(印)
- 同断 七郎兵衛(印)
- 津知村 庄屋 彌右衛門(印)

同村 年寄 彌 兵衛(印)

同村 頭百姓 与 兵衛(印)

同断 新 兵衛(印)

森村 庄屋 利 兵衛(印)

同村 年寄 甚右衛門(印)

同断 九左衛門(印)

同村 頭百姓 久左衛門(印)

同断 利平次(印)

三条村庄屋 治兵衛殿

同村 年寄 長兵衛殿

前書之通拙者取贖、双方得心之上、致内済候処相違無之候、
自今本文之通双方違乱有之間敷候、為後証奥印如件、

○旧中野村有文書に同文為取替証文あり、

【明和二酉年東川筋井手之定之覚】

芦屋市三条町、小阪作兵衛氏藏
○明和二酉年(一七六五)

東川筋井手之定之覚

- 一拾番又兵衛井手之覚所 但入水口方式間田之中へ入
地面と井手桁見通し也
- 一九番井手之覚所 但井手揚之筋村々方人足老人宛召
連立会之上井手上可致事
- 一同所上井手之覚所 但入水口方式間田之中へ入
地面と井手桁見通し也

一同所上井手之覚所 當時井石之通ニ差置若形変候

作兵衛井手 但當時有形方五寸下井手下川中之石立
会之上掘下ケ候事尤來成年方掘下ケ候
形ニ而双方違乱申間敷事

右之通此度相改候上は、向後違乱申間敷候、為後証定書双
方え取置申所相違無之候、依如件

明和二酉年八月

○同中野村・森村・津知村・深江
村庄屋年寄(前出に同)連印略

三条村庄屋 治兵衛殿

同村 年寄 長兵衛殿

○旧中野村有文書に同文為取替証文あり

【明和二酉年三条村中野村為取替証文】

芦屋市三条町、小阪作兵衛氏藏
○明和二酉年(一七六五)

為取替一札之事

一此度三条村あせ垣内分水之儀ニ付水論致出来、御上様
迄及出訴候処、大庄屋横屋松井三右衛門殿御取贖ニ而、
水懸り中野村、森村、津知村、深江村、相手三条村、右
村々双方得心之上、別紙為取替一札之通ニ而致内済候、
然ル処、中野村之議は、水末ニ而も有之、外ニ用水も無

之村方ニ候故、三条村と内々相對を以、中野村番水三度

取候内、三条村清水掛り之水頭番ニ程度指添遺候様内々
相對仕候、尤刻限之儀は、芦屋谷東川井手落候節を限、

双方立会、三条村え取可申候、右之通致内済候上は、自
今何之申分仕間敷候、為後日為取替証文、仍而如件

明和二酉年八月

御料中野村庄屋 彌惣左衛門(印)

同村 年寄 藤 助(印)

同村 頭百姓 勘 兵衛(印)

同断 甚右衛門(印)

尼崎領同村庄屋 四郎右衛門(印)

同村 年寄 半右衛門(印)

同村 頭百姓 五 兵衛(印)

三条村庄屋 治兵衛殿

同村 年寄 長兵衛殿

前書之通相對相済候処相違無之候、以上

○旧中野村有文書に同文為取替証文あり

大庄屋横屋 松井三右衛門(印)

【芦屋村八左衛門水車新建一札】

旧中野村有文書
○安永五年(一七七六)

一札之支

私義、此度字かいもりと申所ニ米踏車御願申上候所、当村

井各村方用水川ニ添、殊ニ又右水ヲ以水車仕度候ニ付、及御対談ニ申候、然ル所、此度御願申上候場所上武輪之水車之間、二之井手下□戸井もり下々□有之候ニ付、末々新戸井杯致候は用水之差構ニ相成候趣、并新溝村候得は猶又差構之段、委細承知仕候、後年至リ右躰之義聊も心掛ケ申間敷候、万一左様之義少も有之候ハハ、急度御差留可被成候、勿論私水車下三輪、是迄仕来り同様ニ相働キ可申候、万一水車取置候は、此一札此方へ御戻し可被下候、為後日一札依而如件、

安永五年 芦屋村水車願人 八左衛門(印) 申八月 同村 年寄 庄三郎(印)

同断 同村 庄屋 市郎右衛門(印) 中野村庄屋 官兵 衛門殿 同断 四郎右衛門殿 深江村庄屋 忠兵 衛門殿 森村庄屋 利兵 衛門殿 津知村庄屋 彌右衛門殿 三条村庄屋 長兵 衛門殿

【田辺村支配八幡谷水車両名証文】

田中野村有文書 ○安永七年(一七七八)

誤一札之事

一、此度、字横尾、男池、女池、はふ谷池、右三ヶ所、四ヶ村之御田地御立會留め池之水、是迄盜取候ハ水車私共ニ而御座候、又々去冬酉年十二月池水盜候所相顯、早速村御役人様へ右御届ケ被成、則村御役人様御願申、御説被成被下候得共、御聞届ケなく、大庄屋様迄御願之被成、其上御上様へ御願被下候得は、水車之者共如何様之御答之程難量候ヲ、岡本村御庄屋清右衛門様、三条村御庄屋長兵衛様、津知村御庄屋彌右衛門様、右三人へ御挨拶願申上ケ、御託言被下候ニ付、御了簡成難御願之一儀、御止め被極被下由、承知仕奉存候、自今已後之儀、池冬水一滴ニてもへり候ハ、急度御吟味可被下候、猶又水車之是迄ハ何輛白數何拾ニて為相働候、以來之事ハ、車道具白數増シ候ケ、勿論水車建増シ之普請等一切仕間敷、若池水減り候ケ、又車建増シ候ハ、御吟味之上、御上様へ御届被遊可被下候、右御三人御庄屋様方

御託言被遊、御了簡成所ヲ下ニて殊御済被遊被下候事、

広太之御恩奉存候、右車床田辺村支配八幡谷車中一同

ニ難有奉存候、尙又後々年ニ至、池水ハ不及申、水車ハ

勿論、車道具自今相違御座候ハ、急度御申立被下、其

時一言之御恨ミ不奉存、右誤一札、為後日之仍如件

安永七戌六月

田辺村支配八幡谷 車主 善左衛門 年寄 十兵衛 庄屋 九右衛門 三条村出店車主 新兵衛

中野村 庄屋様

同村 庄屋様

小路村 庄屋様

右之通拙者共御挨拶申、下ニ而□済仕、此上池水相□有之ケ、又水車ハ勿論道具増し候ハ、拙者共吟味仕、御上様へ可申上候、何分以後之儀、相慶セ可申候、為後日之、奥書仍如件

岡本村庄屋 清右衛門 三条村庄屋 長兵衛 津知村庄屋 彌右衛門

【芦屋村水車太兵衛一札】

田中野村有文書 ○寛政七年(一七九五)

一 札

一、私儀、字東川井堰口上ニて水車五輛、水掛り各々掛合不致新規ニ取建罷有候趣、各々村方用水差障り之趣被聞仰承知仕候、尤用水差障りニ相不成様上戸井そこ戸井登水も外方へ流不申様、猶又用水差障り之節ハ水車働キ何時ニても相止可申候、其時尙言之申訳仕間敷候、為後日一札如件

寛政七卯年七月日 芦屋村水車主 太兵衛 印 同所 役人 印

五ヶ村惣各

【本庄五ヶ村申合連判状】

芦屋市三条町、小阪作兵衛氏藏 ○寛政十一年(一七九九)

申合、覚

一東川山水之儀ハ、本庄之内五ヶ村田地八拾丁余之用水ニ御座候、水掛り之内日割ヲ以番水ニ任、往古用水引取来り候趣、近來芦屋村ハ彼是申、用水請取渡し刻限及遲滞候ニ付、早越仕候、猶野末之田地繼之日照統ニ而も亡

消仕、歎ケ敷存、然レ共御上様御苦勞程恐入、猶又困窮之百姓失脚等相敷キ、中々御公辺相望候道理無御座候、仍テ終日五ヶ村参会之上、再応芦屋村へ及掛合候処、同村百姓而人、先例之通用水上ケ落シ仕候様申来リ候ニ付、此節之処争論差扣、若先例等振合候節へ、何れ之村方より申出し候共一決致、御出訴可仕候旨、勿論芦屋村へ徒党かましく儀、決而無之様、何事も用水之儀へ五ヶ村一統熟談可仕候、依テ連判如件

○中野村有文書に同文書あり

同村同断 七郎兵衛(印)
同村百姓代 重兵衛(印)
同村同断 四郎左衛門(印)
三条村庄屋 伊作(印)
同村年寄 七郎兵衛(印)
同村百姓代 利右衛門(印)
津知村庄屋 五郎兵衛(印)
同村年寄 与兵衛(印)
同村百姓代 佐二兵衛(印)

寛政十一年七月

中野村庄屋 彌惣左衛門(印)
同村年寄 嘉兵衛(印)
同村百姓代 清七(印)
同村同断 又兵衛(印)
同村庄屋 紋次(印)
同村年寄 半右衛門(印)
同村百姓代 五兵衛(印)
同村同断 与右衛門(印)
深江村庄屋 作右衛門(印)
同村年寄 新兵衛(印)
同村百姓代 利右衛門(印)
同村同断 茂左衛門(印)
森村庄屋 利兵衛(印)
同村年寄 久左衛門(印)

【深江・森・三条・津知・芦屋村為取替証文】

芦屋市三条町、小阪作兵衛氏蔵
○寛政十一年(一七九九)

為取替申一札之事

一芦屋川出水宇東川筋流水芦屋村支配所寄の井手用水之儀、毎年五月夏至より村々立会番水ニ可申、限刻割合ヲ以往古々用水取来罷在候、然ル処、近來年柄ニ寄限刻選早之争罷成候処、当未年夏至而早越ニ付、猶更限刻申争相募り、終ニ八月十八日西五ヶ村の芦屋村相手取大坂御番所様之御訴訟奉申上、御裏印致頂戴、芦屋村之相渡申候ニ付、九月十八日芦屋村対決返答ニ可相成処、近辺

懸意村方ハ挨拶ニ相成、此節迄過々日延相成申候得共、行届不申、今般対決ニ可相成之処、魚崎村先庄屋十兵衛取唆ニ相成、双方和談ニおよび申候得は、御番所様御願下ケ仕候、則和濟之趣左之通、

右東川筋用水毎年夏至より番水ニ相定、日割刻割ニいたし、曉六ツ時ハ八ツ時迄五時之間、西五ヶ村用水ニ引取申定、

一右川筋用水之儀、西五ヶ村分日数十二日相定、順番相廻り仕舞候ハ、亦々如元順々ニ日割ヲ以用水引取可申事、

一七番 中野村
一六番 深江村
一五番 同村
一四番 森村
一三番 中野村
一二番 深江村
一一番 同断
一十番 森村
九番 同村
八番 同村
七番 同村
六番 同村
五番 同村
四番 同村
三番 同村
二番 同村
一番 同村

一拾番 三条村
一拾九番 中野村
一拾八番 津知村
一拾七番 津知村

右之通双方致対談候処、西五ヶ村之内中野村不得心ニ而及破談、殘四ヶ村之儀は前書之始末承知之上及和濟候上は、相互ニ無申分番水刻割日割之通聊我儘ケ聞敷一切仕聞鋪候、依之双方打寄り致印形一札為取替申所如件、

寛政十一年 未十一月廿二日

深江村庄屋 作右衛門(印)
年寄 新兵衛(印)
百姓惣代 利右衛門(印)
同断 茂左衛門(印)
森村庄屋 利兵衛(印)
年寄 久左衛門(印)
同断 七郎兵衛(印)
百姓惣代 三右衛門(印)
同断 重兵衛(印)
三条村庄屋 伊作(印)
同村年寄 七郎兵衛(印)
百姓惣代 伊右衛門(印)
同断 三郎兵衛(印)
津知村庄屋 五郎兵衛(印)

年寄 与兵衛(印)
百姓惣代 佐次兵衛(印)
芦屋村庄屋 九左衛門(印)
年寄 庄左衛門(印)
同断 惣左衛門(印)
百姓惣代 惣次郎(印)
同断 半右衛門(印)

右之通取噓候処、各方得心之上内済相成候ニ付、為後証印形相添申候、以上

魚崎村先庄屋 十兵衛

【深江・森・三条・津知村申合連判状】

芦屋市三条町、小阪作兵衛氏藏
○寛政十一年(一七九九)

申合一札之事

一字東川用水刻限遅滞ニ付、芦屋村相手取、去ル八月十八日大坂 御番所様へ御訴訟申上、御裏印頂戴仕、芦屋村へ相渡有之処、魚崎村先庄屋重兵衛取噓ヲ以、別紙之通り四ヶ村之義は及和済、中野村而組不承知ニ付及破談、其上銘々四ヶ村之内用水譲り合致具候様申掛候得共、銘々村方迎も此度取噓之用水ニ而仲々行届申義ニ而も無之

候得共、及出入候義も 御公儀様御苦勞奉忍入、且は諸入用銀困窮之百姓難渋ニ付、取噓人之申口ヲ取用和済致申義ニ候得は、中野村申掛候用水融通致候義、決而迷惑ニ候得は、從此後中野村より如何様之義申掛候共、四ヶ村一統ヲ以相掛合、一村之取斗を以致間敷事

一村々用水之外、芦屋村別段ニ水引取候砌は、相互ニいたし、不限様川筋無故障相通シ可申事

一順番用水引取之節、是迄は井手毎ニ番附置候得共、以来之義ハ二井手敷又は三井手位ニ啓人宛番附置、万一櫻ニ用水え手を掛、洩レ水致候もの有之は、早速名前相紀候而、其村方へ相届、銭貳貫文宛請取、用水組合村方へ諸入用銀え相受可申支、

右之通り申合候上は、相互ニいたし銘々村方慎合、此度四ヶ村一統申合之通り相守、決而我儘ケ間敷義無之様、連判一札仍而如件

寛政十一年
未十二月

○深江・森・三条・津知村庄屋
年寄百姓惣代(前出二回)連印略
都合拾六人

【中野・深江・森・三条・津知・芦屋村為

取替証文】

芦屋市三条町、小阪作兵衛氏藏
○寛政十二年(一八〇〇)

為取替証文之事

一芦屋村川上字一之井手東川へ引取用水之儀、前々芦屋村、中野村、森村、深江村、三条村、津知村、以上六ヶ村立会年々致番組、并刻限之割を以用水引來罷在候、然処右刻限、芦屋村ニ相心得候は番始之日五ヶ村毎朝六ツ時迄九ツ時迄四時可差遣、昼九ツ時迄明六ツ時迄八時は芦屋村用水と存罷在、五ヶ村ニ相心得居候は、朝七ツ時迄暮六ツ時迄七時は五ヶ村用水ニ引取、暮六ツ時迄同夜七ツ時迄五時は芦屋村用水と相心得、双方存違有之、既ニ去未年夏至而及早魁候ニ付、双方用水引定り不申候故、刻限申争相成、終ニ同年八月十八日五ヶ村の芦屋村相手取、大坂 御奉行所様へ致御訴訟、御日延中近村魚崎村先庄屋十兵衛致取噓候処、願方五ヶ村之内、深江村、森村、三条村、津知村、以上四ヶ村及対談、番水ニ相成候へ、毎日卯上刻未下刻迄丸五時之間、右四ヶ村用水ニ相定、申上刻未下刻迄丸七時之間、芦屋

村用水ニ相定、双方無申分及和談候処、中野村之儀は四ヶ村同様ニ而は難致承知旨ニ而、不致和済候ニ付、芦屋村同年十一月廿五日返答書差上候ニ付、双方段々御札ニ相成候処、何分内済不相調候ニ付

御奉行所様 御地頭様御下ケニ相成、依之 木村周藏様御役所ニ而尼崎御郡代山口伝兵衛様御立会之上厚御利解度々被為 仰下、猶魚崎村十兵衛、岡本村庄屋喜左衛門或人へ取噓被 仰付候ニ付、精々相談被具、此度左之趣を以及対談申候、

一 毎年夏至之日、番頭ニ相定、寅上刻未下刻迄丸六時は、日數十式日番割廻之内二日中野村用水ニ相定、

一 右同断申上刻未下刻迄丸五時は、日數十式日番割廻之内春日、右同村用水ニ相定、

一 右同断申上刻未下刻迄丸七時は、番割日數十式日番割廻相廻り候内春日、芦屋村用水ニ相定、

一 右同断申上刻未下刻迄丸七時は、番割日數十式日番割廻相廻り候内春日、右同村用水ニ相定、

一 右同断夏至之日番頭ニ相定、卯上刻未下刻迄丸五時は深江村、森村、三条村、津知村、以上四ヶ村用水ニ相定、

一右同断申上刻六寅下刻迄丸七時は、芦屋村用水ニ相定、一日割之儀は、前々之仕來相用、左之通

- 寅上刻方未下刻迄丸六時 中野村
- 一〇番 勿上刻方未下刻迄丸五時 深江村
- 一三番 右同断 同村
- 一四番 右同断 森村
- 寅上刻方未下刻迄丸六時 中野村
- 一五番 勿上刻方未下刻迄丸五時 深江村
- 一六番 右同断 同村
- 一七番 右同断 同村
- 一八番 右同断 森村
- 一九番 右同断 同村
- 一十番 右同断 同村
- 一十番 右同断 中野村
- 一十番 右同断 津知村

但右之日數電通老廻り仕舞候ハ、電番之中野村元之電番之相戻り申定

一字ニ之并手用水懸り堰留普請請入用銀人足等は、前々仕來之通立合割合可致事

一每年用水番割相定候ハ、村役人ノ頭百姓之内肝煎と唱、卷ケ村ニ卷兩人宛相定置、薬師寺東之并手ニ而、水上芦屋村肝煎と立合、毎時刻限互ニ我意無之様、定之通取斗可致定、

一深江村、中野村、森村、三条村、津知村、以上五ヶ村用水引川筋、是又水上并流末之差別有之候得は、水下水用引取候節、川筋決而差障致間鋪段、五ヶ村一統申合候事、一五ヶ村ニ番水式通相廻り候ハ、三通目之頭ニ而、卷ケ年ニ卷日休番いたし、芦屋村用水ニ引取可申定、

右之趣を以て和談、御願下仕候上は、已來五ニ申分無御座候、聊ニ而申合之通違乱致間敷候、具又番外急雨等ニ而而之、芦屋川え流水有之、芦屋村不用之水有之節は、断相立可申受候、年柄ニ寄植付之節差困候ハ、是又格別断相立可申候、併芦屋村入用水之節は押而不申入候、余水之節相頼可申候、兎角相互ニ慎合我意申間鋪候、為後証仍如件、

寛政十二年 中野村庄屋 彌三左衛門
申四月廿五日 年寄 又兵衛

- 百姓惣代 彌兵衛
- 同断 丈助
- 同村庄屋 紋治
- 年寄 半右衛門
- 百姓惣代 五兵衛
- 同断 与右衛門
- 深江村庄屋 作右衛門
- 年寄 利右衛門
- 百姓惣代 茂左衛門
- 同断 新兵衛
- 同断 惣左衛門
- 森村庄屋 利兵衛
- 年寄 久左衛門
- 同断 七郎兵衛
- 百姓惣代 重兵衛
- 同断 四郎左衛門
- 三条村庄屋 伊作
- 同村庄屋 七郎兵衛
- 百姓惣代 八郎兵衛
- 同断 六兵衛
- 津知村庄屋 五郎兵衛
- 年寄 与兵衛
- 百姓惣代 左次兵衛
- 芦屋村庄屋 九左衛門
- 年寄 庄左衛門

【中野・深江・津知・森・三条村為取替証文】

為取替証文之事

一五ヶ村組合用水字東川筋三条村畦垣内分水場所之儀、明和或四年、其節御地頭小堀数馬様御支配所中野村、松平遠江守様御領分深江村、森村、津知村、中野村、三条村相手取及出入、其節取嚙ニ而和済ニ相成、則論場所致合石ニ、則為取替証文を以右村々用水引來り罷在候、然処去未年芦屋村相手取銘々村方及出入候処、当申四月取嚙を以内済ニ相成、用水刻限ニ相定、一件及落着罷在候得共、中野村、深江村兩村之儀は流末ニ付用水難引足

当申閏四月十八日、大坂町御奉行所様へ三条村相手取、
 深江村、中野村、津知村、右三ヶ村の畦垣内分水引方出
 入及御訴訟、御吟味中御地頭様へ御下ケニ相成、依之
 木村周蔵様御役所、松平遠江守様御郡代杉浦久平様、御
 双方様へ御利解之上、八幡村庄屋市郎兵衛、魚崎村
 先庄屋十兵衛、兩人へ取囃被仰付、精々相談被具、木村
 周蔵様御手付池田富右衛門様、尼ヶ崎御郡代杉浦久平様
 御出役之上場所御見分被成下、格別之御利解被為成下、
 依之対談行届、左之趣を以内済仕候、

一字畦垣内分水之儀は、三条村へ毎日分水ニ引取可申定、
 一字東川用水引方日割、毎年五月夏至日ヨ相始め候、番割
 日数十二日等篇と相定有之、中野村日数三日之内二日相
 除キ残り一日午上刻ヨ未下刻迄丸二時、番割五番ニ相当
 り候日、三条村ヨ分水を以融通いたし可遣定、

但シ番水幾度相廻り候共右同事可致事、
 一右同断番割日割十二日等篇、深江村四日之内三日除キ残
 り一日午上刻ヨ未下刻迄丸二時、番割式番ニ相当り候日
 三条村ヨ分水を以融通可遣定、
 但シ番水幾度相廻り候共右同事可致事、

一午上刻ヨ未下刻迄丸二時、三条村ヨ中野村深江村へ融通
 いたし遣候刻限ニ相向候前、三条村役人中へ案内いたし
 立会之上、畦垣内地面之水引溝之口塞留、東川筋用水と
 一所ニ流水可致事、

一毎年七月十五日ハ順番ニ不拘三条村へ用水引方可仕定、
 但シ毎年東川さらへ之節は仕来り之通り三条村へ寄合
 可申事、尤東川用水五ヶ村番割式篇相廻り候ハ、三
 篇目之頭ニ而等ヶ年ニ一日休番いたし、芦屋村用水ニ
 引取可申、当日ニ自然突合候儀有之候ハ、五ヶ村一
 統ヨ芦屋村へ掛合、芦屋村へ用水引方翌十六日ニ相頼
 候共、又は芦屋村其段承知無之候ハ、三条村へ十六日
 之水引取可申事、

一字観音田七畝歩毎日分水、
 但シ夏至ヨ五十日後、毎日畦並武ツ之内等町ツ、用水
 引方可致事、

右之趣を以双方及和談候上は、相互ニ無申分、已来申合通
 り違乱申間敷候、尤津知村願方ニ候得共、三条村ニ手寄候
 場所故融通水之儀は相止申候、森村之儀は願ニ相洩候得共
 用水組合村方故此度為取替連印いたし申候、且明和年中合

石為取替以來共相用、向後銘々慎合、用水組合村方騒間敷
 及取締、たとへ書面ニ相洩候儀有之候とも出入ケ間敷儀決
 而申出間敷候、兎角実意を以諸事柔和ニ取斗、聊申分致間
 敷候、仍而為取替一札如件、

寛政十二年
 申七月

中野村庄屋	彌三左衛門	印
年寄	又兵衛	印
百姓代	丈助	印
同	彌兵衛	印
同	治兵衛	印
同	治兵衛	印
同	治兵衛	印
年寄	半右衛門	印
百姓代	五兵衛	印
同	与右衛門	印
深江村庄屋	作右衛門	印
年寄	利右衛門	印
百姓代	仁左衛門	印
同	新兵衛	印
津知村庄屋	五郎兵衛	印
年寄	市右衛門	印
百姓代	佐次兵衛	印
森村庄屋	利兵衛	印
年寄	久左衛門	印
同断	七郎兵衛	印

百姓代	十兵衛	印
同	四郎左衛門	印
三条村庄屋	伊作	印
年寄	六兵衛	印
百姓代	八郎兵衛	印
同	伊右衛門	印
八幡村庄屋	市郎兵衛	印
取囃人	魚崎村	
同断	十兵衛	印

○芦屋市三条町小坂作兵衛氏藏に同文連印文書、(一部破損)あり

【中野・深江・森・三条・津知・芦屋村為取替
 添一札】○享和元年(一八〇一)

為取替添一札之事

一撰劾兎原那芦屋村川上字一之井出ヨ東川え年々引取用水
 中野村、深江村、森村、三条村、津知村、右五ヶ村芦屋
 村と刻限存遺有之ニ付、去々未年及争論ニ、依之魚崎村
 先庄屋十兵衛、岡本村庄屋喜左衛門取囃ヲ以テ双方内済
 之上、村々用水番頭并ニ刻限割為取替証文罷在候、然ル
 処、当年夏至遲速之儀、從芦屋村故障在之ニ付、先取囃

而人々和濟之儀双方より相頼ニ付、本紙為取替証文ヲ以テ双方相宥、自今以後用水番頭左之通、一每年夏至入刻、寅ノ上刻ノ未之下刻迄之年は、其日番頭ニ相定、

亦夏至入刻申上刻ノ夜中ニ有之とは、翌日番頭ニ相定但シ中野村用水番頭刻限并村々用水番頭刻限等、本紙為取替証文之通相違無之候、尤年々番頭当日之儀は、中野村ノ川上芦屋村へ前日ニ可相違事、

右之通古書為取替ヲ以テ取替申候處、双方無異儀及和談ニ候ニ付、向後相互ニ違交申間敷候、為後日為取替添一札仍而如件、

享和元酉年
六月七日

中野村庄屋 彌惣左衛門(印)
同村庄年寄 又 兵衛(印)
同村庄屋 紋 治(印)
同村庄年寄 半右衛門(印)
深江村庄屋 作右衛門(印)
同村庄年寄 利右衛門(印)
森村庄屋 利兵衛(印)
同村庄年寄 久左衛門(印)
三条村庄屋 伊作(印)
同村庄年寄 六兵衛(印)

津知村庄屋 五郎兵衛(印)
同村庄年寄 市左衛門(印)
芦屋村庄屋 惣左衛門(印)
同村庄年寄 庄左衛門(印)
取替人 岡本村庄屋 喜左衛門(印)
同 魚崎村 十兵衛(印)
○旧中野村有文書に同文書あり

【本庄五カ村訴状】

芦屋市三条町、小阪作兵衛氏藏
○文化六年(一八〇九)

乍恐御訴訟

用水引方刻限妨出入

木村周藏殿御代官所撰州免原郡 願人 中野村
松平遠江守殿領分同州同郡 同 同
木村周藏殿御代官所撰同州同郡 同 同
同 同 同
松平遠江守殿領分同州同郡 同 同
同 同 同
同領分同州同郡 同 同
同領分同州同郡 同 同
同領分同州同郡 同 同
池田仙九郎殿御預り所同州同郡 同 同
同 同 同
相 手 芦屋村 百姓代

一私共村々并相手芦屋村御田地用水之儀ハ、往古ノ字六甲山谷川之流東川ノ引取来リ候處、去ル寛政十一未年早魃ニ付、刻限争御訴訟奉申上、及出入、双方対決之上、段々御糺被為仰聞、御地頭御下ニ相成、用水日割刻割ニ相定、出入下濟仕、則為取替証文を以字葉師寺東之井手ニ而水上芦屋村肝煎私共村方肝煎毎日立会之上刻限我意無之様是迄用水上ケ落シ仕候、然ル處、当五月植付之節ハ彼是刻限争申ニ付、先月廿九日私共村々ノ村役人之内并頭百姓一兩人宛相手芦屋村庄屋方ニ罷越、日々湯水ニ相成候間相互我意無之様頭百姓立会之者ニ御申聞被下度、

無左候而ハ数多之百姓殊ニ流末之村々人相立、如何之儀出来可仕哉、左候而ハ御公儀様御苦勞奉恐入、且又困窮之百姓諸失脚等も歎ケ敷候間、何分我意無之様精々相頼掛合置申候得共、日々多人數罷出利不尽ニ井堰切落シ兎角我儘仕候ニ付、私共義ハ流末之村方ニ御座候故幾重ニも申談候得共、承知不仕、剩用水上ケ落シ立会之井手土木迄夜中ニ取払用水引取指支候故、毎々相手芦屋村庄屋方へ掛合候處、彼是申延頓着不仕、右様日々我意增長仕、私共村々も人情を以相争候而ハ後難敷ケ敷奉存候

故、為取替証文刻限通、双方合時計ニ而用水上落シ仕度趣、且又再応掛合候得共、前書申上候通り水上ニ而我儘之取斗可致心掛故、一向頓着不仕、用水乍有之御大切之田地亡消仕候段歎ケ敷奉存候、最早下ニ而可仕様無御座候間、無抛御訴訟奉申上候、何卒相手芦屋村庄屋年寄百姓代急々御召被為成下、為取替証文通刻限相用、時計ヲ以用水上ケ落シ仕候様被為仰付被下候ハ、普百姓広太之御慈悲難有奉存候、以上、

文化六巳年六月

中野村庄屋 彌三左衛門
同村庄年寄 彌兵衛
同村庄屋 四郎右衛門
同村庄年寄 五兵衛
深江村庄屋 作右衛門
同村庄年寄 茂左衛門
森村庄屋 源太郎
同村庄年寄 吉兵衛
三条村庄屋 伊左衛門
同村庄年寄 伊左衛門
津知村庄屋 五郎兵衛
同村庄年寄 佐二兵衛

御奉行様

【中野・深江・森・三条・津知・芦屋・打出村
為取替証文】旧中野村有文書
○文化九年(一八二二)

為取替証文之事

一 芦屋川上字一ノ井堰切流レ大破ニ付普請早々致度旨、本庄五ヶ村ノ芦屋村相手取井堰普請差障り出入御奉行所ニ奉願上候処、向々御地頭御役所ニ御下ケ被為成、依之木村周蔵様御役所ニ而御三分御立会之上、双方被為御召成御札之処、本庄中野村、深江村、森村、三条村、津知村都合五ヶ村ニハ、井堰普請之儀ハ芦屋村本庄五ヶ村都合六ヶ村立会場所ト相心得居候、然ル処、芦屋村、打出村ニハ、本庄五ヶ村芦屋之庄式ヶ村都合七ヶ村ト相心得、及争論、依之山本村庄屋丈右衛門、大西村庄屋佐兵衛、大石村庄屋清右衛門、今津村庄屋伊人、四人取嚙被仰付下濟対談行届キ左之通、

一字一ノ井堰及破損ニ普請之儀ハ、向後中野村、深江村、森村、三条村、津知村、芦屋村、打出村、已上七ヶ村立会及相談、何時成共無滞普請築立可申度、然レ共右村之内我意妨を申村方有之候而相談相決シ不申時は、其村

方は差置、時刻ヲ不移早々普請可致事、

一 急雨ニ付出水有之、井堰切流レ及大破候節ハ、相互ニ我嚙不申、実意を以早々堰留、差支致申間敷事、

一字一ノ井堰差掛り諸普請出来申候ハ、小破之節は水取番之村方急々取繕イ、其趣廻状を以村々ニ触知せ、普請之品ニ立立会可申事、

但急破之節たり共芦屋村ニハ可相断事、

一字一ノ井堰諸普請入用銀并ニ人足等割方之儀ハ、本庄五ヶ村ニ八分、芦屋之庄式ヶ村ニ三分、右之通立会割方可致事、

一 此度出入之儀ハ井堰而已之儀ニ御座候、此表用水ニ抱り不申儀ニ御座候事、

前書ヶ条之通、此度双方得心之上、下濟対談行届キ申候、以来相互ニ実意ヲ以後々迄も相守可申候、為後日為取替証文、仍而如件、

文化九年
壬申五月

中野村庄屋 彌三左衛門(印)
同村年寄 安右衛門(印)
同村頭百姓 条 助(印)
同断 吉兵衛(印)

同村庄屋 四郎右衛門(印)

同村年寄 儀左衛門(印)

同村頭百姓 庄三郎(印)

深江村庄屋 作右衛門(印)

同村年寄 利右衛門(印)

同村頭百姓 宗次郎(印)

森村庄屋 源太郎(印)

同村年寄 治左衛門(印)

同村頭百姓 七郎兵衛(印)

三条村庄屋 作兵衛(印)

同村年寄 六兵衛(印)

同村頭百姓 伊右衛門(印)

津知村庄屋 五郎兵衛(印)

同村年寄 四郎左衛門(印)

同村頭百姓 彌右衛門(印)

芦屋村庄屋 九平(印)

同村年寄 仁兵衛(印)

同村頭百姓代 庄右衛門(印)

打出村庄屋 治郎左衛門(印)

同村年寄 吉右衛門(印)

同村頭百姓 幸次郎(印)

取替人
木村周蔵様御代官所 丈右衛門(印)
撰州川辺郡山本村庄屋
辻甚太郎様御預り所
撰州兔原郡大石村庄屋 清右衛門(印)

木村周蔵様御代官所 伊人(印)

撰州武庫郡津村庄屋

松平遠江守様御領分 佐兵衛(印)

撰州川辺郡大西村庄屋

○芦屋市三条町小阪作兵衛氏蔵に同内容口証文あり

【三条村そよ水車再建願】芦屋市三条町、小阪作兵衛氏蔵
○文化十一年(一八一四)
乍恐以書付奉願上候

一 享保六五年ニ、私先祖宇高座谷と申処ニ屋敷三屋敷奉願上候処、御見分之上御竿請被為仰付、三屋敷ニ而分米貳斗三合年々上納仕候様被為仰付奉畏候、然ル処、右同年三屋敷之内ニ水車貳輛取立仕度奉願上候処、願之通被為仰付雖有奉存、依之御冥加銀として年々銀貳両ツ、奉差上渡世仕居申候得共、勘定引合不申候ニ付、宝曆年中ニ右水車相止取払御届奉申上、依之御冥加銀は御用捨被下候得共、屋敷御年貢ハ相糶年々無滞上納仕来罷在候、然ル処、此度右之屋敷ニ又々水車貳輛再建仕度奉願上候、何卒願之通被為仰付被下候ハ、御冥加として水車壹輛ニ付年々銀五匁宛奉差上候、乍恐右奉願上候通御聞濟被為成下候ハ、御慈悲難有可奉存候、以上、

文化十一年八月

村上初右衛門様

三条村水車願主 茂兵衛後家 六兵衛(印)
同村年寄 同村庄屋 作兵衛(印)

乍恐以書付奉願上候

一先月廿八日御願奉申上候字高座谷水車貳輛再建之場所御見分之義、御用御差支ニ而大廻り御用先迄御見分難被為成下被為仰聞奉長候、乍恐最早追々酒造ニ取掛り申候時節ニ相成候得ヘ、酒造家ノ踏米取急キ申ニ付、一日ニ而も水車普請取急キ申度候間、何卒水車屋敷溜壺之繕イ追而御見分被為成下候迄ニ取掛り申候ヘハ勝手ニも相成申候間、何卒御憐愍之上願之通普請取掛り候様被為仰付被下候ヘ、難有可奉存候、已上、
文化十一年九月五日 ○差出、宛名(同前)略

【三条村作兵衛水車取建届書】

芦屋市三条町、小阪作兵衛氏藏 ○文化十一年(八一四)

乍恐以書付御届奉申上候

一此度私所持之田地之内ニ水車貳輛取建奉願上候ニ付、水掛り其外差支之場所所有無御尋ニ付、左ニ奉申上候、

一此度取建奉願上候水車之義は、御田地用水中ハ水車稼相候場所ニ而御座候処、流末深江村より不用水之節ニ而も高座谷出水之外余水取集メ水車ニ掛ケ申候而ハ流末御田地之差支ニ相成可申哉之故障申ニ付、余水取集メ水車ニ掛ケ申間敷之相對ヲ以熟談仕候、其外差支候場所一切無御座候、此段乍恐御聞濟被為成下候ヘ、難有可奉存候以上、
文化十一年九月 三条村水車願主 作兵衛(印)
同村年寄 六兵衛(印)

村上初右衛門様

【芦屋村車主八郎兵衛添一札】

芦屋市三条町、小阪作兵衛氏藏 ○文化十二年(八一五)

水車添一札之事

字小し美字略

一水車貳輛也
一水車此度新規取建仕候ニ付、去ル戌年各々村々本紙証文指入有之候文面ニ夏稼休車可致趣御座候、此義殊之外難波ニ付、此度中野村条助殿相頼各々村々へ段々掛ケ合對談致被具候、左之通り、
一水車貳輛前ニ銀四拾三匁宛、水料として毎年四月廿日限

リニ本庄之内井手番々村へ持参可仕候、若不相立候節ハ休車可致事、

一早魃打統候節は勿論休車可致事、

右之趣都而本紙証文通り相用ひ對談納得被下、依之一札指入可申候、為後日依而如件、
文化拾貳年 亥八月 芦屋村車主 八郎兵衛

三条村 御役人中

【芦屋・打出・住吉・横屋・魚崎・田中・野寄・岡本村水論濟口証文】

旧中野村有文書 ○文政十年(一八二七)

奉差上濟口証文之事

一撰州兎原郡打出村、芦屋村と、同郡住吉村、魚崎村、横屋村、田中村、野寄村、岡本村と水論一件、今般内濟仕候趣左ニ申上候、
一打出村、芦屋村申立候は、宇西谷川流末前々両村用水ニ取来候処、風雨之節右溝筋え山上ノ土砂押入候ニ付、当六月中古樋を伏用水引取之処、住吉村外五ヶ村之もの共大勢右場所え罷越、普請所理不尽ニ致破壊、用水引取

差支候ニ付、御吟味相願候旨申上候、

一住吉村外五ヶ村ノ申立候は、右住吉川え落入候山水往古ノ打出村、芦屋村え分水いたし候儀は無御座候處、当六ノ月右式ヶ村ノ川筋え新規之普請いたし、古樋を伏用水引取候ニ付、六ヶ村用水不足いたし及難儀候間、出訴も致と相談仕候折柄、弁へも無之若輩者共不斗右場所え立越普請所打崩候之段は不調法恐入候得共、新規ニ溝を掘用水引取候而は六ヶ村之難波ニ付、自今式ヶ村より用水引取不申様被仰付度旨相願候段申上候、

右之通双方より当閏六月中西御奉行え出訴仕候處、御利解之上、双方御願下ケ仕候得共、争論は相止不申候ニ付当御役所より小堀主税様、松平遠江守様御役所え御懸ケ合之上、双方被召出、猶又御上分様御用達播磨屋宇一郎、豊嶋屋門藏、小橋屋長兵衛、井中野村庄屋彌三右衛門、小路村庄屋幸助え取扱被仰付候ニ付、右之者共追々及懸ケ合、其上双方會得仕兼候趣意は於御役所厚御利解被仰聞候趣、一同難有承伏仕、熟談内濟仕候趣左之通ニ御座候、
一住吉川え流出候谷筋之水、自今以後打出村芦屋村え堅ク引取不申候筈、井ニ右場所谷川筋え普請其外用水妨ニ相

成候儀は決而致間敷旨儀定任、尤当夏中打出村芦屋村ニ
而普請いたし候場所、住吉村外五ヶ村之者共打崩し候ニ
付、右普請入用費銀之為償、住吉村外五ヶ村より此度銀
五貫目出銀仕、打出村芦屋村ニ相渡候旨、然ル処、元來
打出村芦屋村之儀年々用水不足致候ニ付、此度請取候銀
五貫目之外ニ両村并流末村々も足銀いたし、山寄ニ而
谷水落込宜敷場所見立、新規溜池築立可申積ニ御座候、
右之通双方熟談内済相整候上は、右谷川筋ニおゐて向後決
而違論仕間敷候、勿論此済口証文之享双方連印仕為後証村
々所持仕候、依之一同連印済口証文差上申処如件、

文政十丁亥年
十一月

小堀主税殿御代官所
横州鬼原郡芦屋村庄屋 九左衛門
年寄 庄左衛門
百姓代 八郎兵衛
御支配所
同州同郡打出村庄屋 佐太郎
年寄 清右衛門
百姓代 藤右衛門
住吉村庄屋 八郎左衛門
年寄 幸左衛門
頭百姓 長兵衛

辻六郎左衛門様
御役所

横屋村庄屋 与左衛門
年寄 助右衛門
魚崎村庄寄 掛三郎
右同断 儀三郎
百姓代 八兵衛
田中村庄屋 善五郎
年寄 孫九郎
百姓代 藤吉
松平遠江守殿領分
同州同郡野寄村庄屋 与左衛門
年寄 彌三五郎
頭百姓 正兵衛
岡本村庄屋 梅右衛門
年寄 五左衛門
百姓代 喜右衛門
小路村庄屋 幸助
取暖人
中野村庄屋 彌三左衛門
同
松平遠江守用達 小橋屋長兵衛
小堀主税用達 豊嶋屋門藏
御用達播磨屋宇一郎代 山田屋源吉

【深江村・中野村願書】

旧中野村有文書「芦屋谷新川
新水車差支一件願書控」より
○天保十三年（一八四二）

乍恐以書附奉願上候

一芦屋村川上字東川と相唱候川筋用水之儀は、往古ノ尼ヶ
崎領森村、三条村、津知村、中野村、并私共両村、右村
々御高合千五百貳石三升御田地用水ニ引取相繼仕來、至
而早損場所ニ而毎々難澁仕罷在候、然ル処、此度芦屋村
右川上堰留新規ニ川筋掘立新水車取建候ニ付、相手村
役人中ニ私共村々御田地用水之差支ニ相成候段及掛合候
処、右場所見分致儀候様申之、早速罷越立会之上右場所
見請候処、土砂山之原ニ凡十町余新川掘立水車新建屋敷
取拵罷有、彌以差支ニ相成候ニ付取拵儀候様及掛合候得
共願着不仕、不得止事其段去丑年十月廿七日奉願上候儀
相手方御召出之上追々御札ニ相成、何分新川水車早々取
拵候様被為仰附難有奉存候儀、其後迎も矢張取拵不申、
追々普請等いたし罷有候ニ付、再心御願奉申上、其度毎
ニ相手方御召出之上敵敷被為仰付成下候得共、今以取拵
不申、追々日数延引ニ相成候ニ付、最早此上致方無之進
前書尼崎御領四ヶ村役人中ノ毎々私共村方々如何可致哉

及相談候得共、何分当御役所様ノ敵敷被為仰渡罷有候ニ
付無程取拵可申哉之旨申聞候儀、其意ニ泥ニ相續罷有候
然ル処此節ニ至リ迄迄相待候進際限無之儀ニ付、私共兩
村は格別、右尼ヶ崎領四ヶ村ノ御奉行所ニ御出訴可仕旨
申出候得共、何分當時御札中ノ儀ニ付、何卒今惜之儀差
扣具候様段々申曉候得共、一田承知不仕、却而私共兩村
も内実芦屋村ニ随心致し右村等閑ニ致置候様と疑心を生
既ニ御出訴可及様子ニ相見候ニ付、不取敢乍恐又々御願
奉申上候、何分右村自儘ニ新規之儀を企具候而は、去文
化十一年十一月ニ取置候約定一札之趣甚相立不申、且
は御田地相繼難相成、村々騒乱之甚と重々敷敷次第奉存
候、何卒格別之御憐愍ヲ以急速相手方御召出之上、右井
堰并新川水車約屋葺葺不殘早々取拵被為仰付被下候儀、
御慈悲奉存候、以上

天保十三年
寅正月廿日

庄屋 藤助
庄屋 庄左衛門

御掛り元々 森誠一様

竹垣三右衛門様
御役所

【字横道新溜池為取替証文二通】旧中野村有文書
○元治二年(一八六五)

約定一札之事

一溜池床凡貳町步字横道芦屋打出兩村立会山御年貢地ニ御座候故、右池床御年貢之義ハ、啓ケ年ニ本庄五ヶ村六米三斗六升、水車中六米三斗六升、合七斗貳升、内三斗六升芦屋村、三斗六升打出村、右兩村ニ毎年十一月限りニ相渡し可申事、

一池普請入用之義ハ、銀高之内村々百姓ニ五分、水車ニ五分、二ツ割ニ致シ出銀可致事、

一尤百姓方五分之義ハ、是迄一ノ井手普請入用割方ニ准シ出銀可致候事、

一池水引取方之儀ハ、是迄谷水引取方之日割刻割ニ准シ引取可申事、

一用水不足致シ池樋抜初之日ハ、七ヶ村立会相談之上、池樋抜可申事、

一池普請之義ハ、手遠之場所ニ御座候故、可成丈夫ニ仕可申候、若又池堤切芦屋川堤押切破損仕候節ハ、此度池普請入用割方ニ准シ致出銀、元々之通普請仕上可申事、

尤芦屋川押切候共池水ニ無御座候得ハ差構無御座候事、
一後々年ニ至リ池普請相掛リ候節ハ、此度之入用割方ニ准シ出銀可仕候事、

右約定之通相互ニ堅相用、違背為仕聞敷、調印仕候如件
元治貳丑年四月

- 芦屋村庄屋 又左衛門(印)
- 年寄 清兵衛(印)
- 百姓代 忠左衛門(印)
- 同断 忠兵衛(印)
- 打出村庄屋 善藏(印)
- 年寄 小平治(印)
- 百姓代 才治郎(印)
- 深江村庄屋 茂左衛門(印)
- 年寄 善右衛門(印)
- 同断 久左衛門(印)
- 百姓代 宗五郎(印)
- 中野村庄屋 嘉兵衛
- 年寄 吉兵衛
- 百姓代 勘兵衛

同村 庄屋 安左衛門

年寄 仁兵衛

頭百姓 与左衛門

森村 庄屋 金兵衛(印)

年寄 嘉平治(印)

同断 喜平治(印)

頭百姓 重兵衛(印)

津知村庄屋 五郎兵衛(印)

年寄 新兵衛(印)

頭百姓 十兵衛(印)

三条村庄屋 宇兵衛(印)

年寄 茂兵衛(印)

頭百姓 利右衛門(印)

水車惣代 伊左衛門(印)

右同断 吉左衛門(印)

為取替証文之事

一字東川用水之儀ハ、芦屋村、三条村、森村、中野村、深江村、津知村用水ニ相違無御座候、然ル処、用水引取方

之儀ハ先規為取替証文約定書之通、本庄五ヶ村用水相違無御座候処、此度右川上字横道と唱候出水有之場所ニ、組合相談之上新溜池取企約定ニ罷在候処、右池水引取方之儀ハ、往古より仕来リ之通用水引取可申約定仕候、尤三条村支配之内字畦垣内と唱候場所、本庄村々々毎日日割刻割ヲ以用水引取之内合石ヲ以右場所へ引取申処相違無御座候、已来明和度、寛政度為取替之通、用水同様ニ可致相對約定ニ御座候、尙以後おゐては何事ニ不寄相互ニ申分一切無御座候、尤清水之節池堤押切、井芦屋川堤及大破、臨時普請入用何程相掛リ候共、割方并助銀等右畦垣内へ一切相掛ケ申間敷候、為後日之為取替証文依而如件、

元治貳丑年四月

○三条、森・両中野・深江・津知村の庄屋
年寄、百姓代、頭百姓(前同)連印略

但此度川上横道と唱候場所新溜池之事故、畦垣内之分何程出銀致候とも、跡々普請入用之分へ前書之通一切相懸ケ申間敷、其意ヲ以為取替致置候、為念如件、

7 菜種壳捌

【菜種壳捌一件願書扣帳】青屋市三条町小坂作兵衛氏藏
〇文化二年(一八〇五)

(表紙)

菜種壳捌一件二付
 諸願之扣

乍恐御訴訟

撰州鬼原郡之内拾八ヶ村

菜種壳捌手挾ニ而百姓

村々百姓共

一、燈油之儀は前以御触有之、猶又寛政九巳年被為 御触成、在々百姓之直売直買被 仰付、可成丈菜種作増シ可仕様被 仰付奉畏罷有候、然ル所、近年追々菜種壳捌方手挾ニ相成敷ク敷奉存候、既ニ当那水車油稼之者共立直段杯ニ申合、新規ニ目代並手先之者杯ニ御鑑札を所持為致、無益之費不厭、油相場之上下直ニ、至而下直ニ買取趣、粗承リ申候、左様候得は自売捌手挾ニ相成、末々百姓迄必至難渋ニ相成、菜種作増進退相減申段敷ク敷奉存候、依之寛政九巳年御触有之候御趣意之通、大坂表廻

着之菜種綿実、商売人買入候節、問屋之外仕入銀之姿ニ而、銀子調達致候儀ハ大坂表同様ニ被為 仰付被下度奉願上候、左様候得は夏作肥シ之類其外金銀飯米と仕送り銀調達仕、又ハ肥シ之類現銀ニ買取之姿ニ而都合宜敷、百姓相統之基と乍恐奉存候、都而百姓共之儀ハ農業ニ無他事、銘々難儀ニ相成候筋も何之弁も無之愚昧之者ニ而、実々難儀的当仕候迄決而御數キ不奉申上候、此度之儀、近年追々菜種壳捌方手挾ニ相成難儀彌増、夏作之差支相成可申哉と奉恐入候、何卒右之始末 御上様御堅察之上、御憐愍ヲ以菜種手広壳捌仕候様、前書申上通大坂表同様被為 仰付被下候ハ、村々百姓一統広太之御慈悲難有奉存候、以上、

文化二丑年 池田仙九郎御預リ所
 七月五日 撰州鬼原郡青屋村年寄 庄左衛門 印
 木村周藏御代官所
 打出村庄屋 佐太郎 印
 右同所
 深江村庄屋 作右衛門 印
 右同所青木村庄屋与兵衛
 病氣ニ付代 大次兵衛 印
 右同所
 中野村年寄 又兵衛 印

地 大西駒藏様
 萩野勘右衛門様
 浅羽太膳様
 方 定 請 役
 瀨口藤四郎 様
 安東丈之助 様
 萬山龜右衛門様
 千田叟十郎 様
 杉浦兵左衛門様
 役

乍恐口上

撰州武庫郡村々惣代
 撰州鬼原郡村々惣代

右之通西御奉行様之願出候處、御趣意ニ不叶ニ付願下致候様被仰付願下致、夫方又願書少々披差致押而願書差上候得共、杉浦兵左衛門様段々御利害ニ而、無致方願下致候、則此下之願書押而差上候得共御聞届なく候

右同所 西青木村庄屋伊兵衛 病氣ニ付代 太兵衛 印
 右同所 横屋村庄屋 平兵衛 印
 右同所 魚崎村庄屋久兵衛 病氣ニ付代 八兵衛 印
 右同所 田中村庄屋 彦右衛門 印
 松平遠江守殿領分 同州同郡三条村庄屋 作兵衛 印
 右同所 津知村庄屋 五郎兵衛 印
 森村庄屋利兵衛 病氣ニ付代 惣五郎 印
 右同所 中野村庄屋 四郎右衛門 印
 小路村庄屋吉五郎 病氣ニ付代 七郎兵衛 印
 右同所 北畑村年寄 次左衛門 印
 右同所 田辺村年寄 次兵衛 印
 岡本村庄屋喜左衛門 病氣ニ付代 善左衛門 印
 野寄村庄屋宗次 病氣ニ付代 茂兵衛 印
 右同所

四 御奉行様

一、私共村々菜種壳捌方手挾ニ而、百姓共必至難渋仕ニ付、無是悲今日御訴訟奉申上候處、寛政九巳年之御触御趣意之内、仕入銀之姿ニ而銀子調達仕度、大坂表同様被仰付被下度奉願上候儀は、元来水車油稼之者共、新規ニ目代並手先之者ヲ拵、油稼之者一統申合、油相場之直ニ菜種買取申手段仕、百姓必至難渋ニおよび、右ニ付願出候處、右願之内大坂表同様と申義ハ難叶段、御利解被為仰聞奉畏候得は、百姓共儀も此度ハ難儀差詰リ不相統ニ付、乍恐左ニ愁訴奉申上候、

一、菜種作上候節、小前百姓共式斗三斗之端菜種ニ而も余

人え手渡シ仕候へは、油稼之者聞付御公儀様へ出訴被致、難儀之上之難儀相成、敷敷奉存候、何卒右小前瑞菜種之分は村役人え預リ置、銀子調達為致、其年之作付仕候様仕度候、尤村役人え預リ置候而も、其年無滞荒私、御法度之困菜種相成不申様、実意ヲ以取斗可仕候、左候は菜種作増、追々出精仕候、恐多御儀候へ共、而郡百姓一統相統仕度愁訴奉申上候、何卒右之段御聞置被下候へ、難有奉存候、以上、
文化二五年七月五日
武庫郡村々惣代
摂州兎原郡村々庄屋

西
御奉行様

乍恐御願下

摂州武庫郡村々惣代
同州兎原郡村々

一、私共村々菜種不捌、百姓難儀ニ付、大坂表同様仕入銀之姿ニ而銀子調達仕度段願奉申上候所、不行届之儀有之候間、右願御下被為、下候様仕度奉願上候、何卒右之段御聞置被為成下候へ、難有奉存候、以上、
五月五日
願人村々

御奉行様
右は願下之扣

乍恐口上

一、一昨四日御届奉申上候菜種売捌手扱之願、御奉行様へ而郡一同願出候処、段々御糺之上、私とも願筋仕入銀之姿ニ而銀子調達仕度、大坂表同様と願上候得共、此義往々は困菜種ニ相当リ、御法度之ケ条ニ御座候得は、私共願相止メ申候様被、仰付、猶又其油稼之もの新規之儀取立候義は別段願出候様被、仰聞、無是悲願下ケ仕候、乍恐右之段御届奉申上候、以上、
文化二五年
七月六日
摂州武庫郡惣代
鳴尾村
嘉兵衛 印

文化二五年
七月六日

同州兎原郡惣代
深江村庄屋
作右衛門 印

木村周蔵様
御役所
但し尼崎へも右同所

本仲買目代

大石村 小池屋吉右衛門
同所 浜田屋藤右衛門
石屋村 油屋惣兵衛
西宮 中嶋屋半兵衛
同 細中伊兵衛

手先中買

同 中屋権兵衛
同 綿屋吉三郎
同 今津屋仁兵衛
同 鳴尾村八ッ松清七
東新田村 八三郎
淡田村 六左衛門
四武庫村 和助

乍恐御訴訟

菜種買方不正道ニ付差支御願

願人 摂州武庫郡
五十六ヶ村々
同所 兎原郡
拾八ヶ村々

一、燈油之儀は、前以御触有之、可成丈油下直ニ相成申御趣意趣、猶又寛政九已年菜種売捌方宜鋪様、油稼之者共正道ニ買取可仕旨御触有之、菜種作増可仕段奉長罷有候、然ル所、当年作リ上之菜種売捌方差支百姓難儀之始末、左ニ奉申上候、

一、例年新菜種取入次第油稼之者共村々え買取ニ參候所、当年は菜種取入候得共買入參リ不申候、小前之者共直ニ売払不申候而ハ夏作之仕込諸肥出来不申、末々極窮難儀之者共無抛油屋年寄ヲ以売払候得ハ、漸七拾三匁買取

不申、余リ下直ニ御座候故聞合仕候処、当年ハ油稼之もの一同申合、立直段ととなへ、七拾三匁より決而買不申段定被申、殊ニ当年凶作之上油相場不相応之下直段ニ而は百姓とも相統出来不申、其上当六月晦日迄菜種買取不申、七月朔日より買始可申様承知仕、右之振合ニ相成申も水車油稼之者共新規ニ目代と申もの拵、其余手先中買之もの遣り直買不仕、油相場ニ不抱、絞リ油屋一同申合セ立直段杯と申、村々之菜種下直ニ買取、石数多少不寄油屋一同割賦仕、目代並ニ手先仲買え無益之口銭差出シ候得共、元来之直段下直ニ買取申ゆへ、油屋共之損銀ニ相成不申、皆々百姓共之難儀ニ相成、敷敷奉存候、右様ニ而は菜種作増も相減シ、油共新規之申合不仕御触通実意ヲ以買取具候へ、自作増も出精可仕、右之始末御座候故、乍恐御憐愍ヲ以右新規之申合セ立直段并目代手先仲買之もの相止候様、被為、仰付被下候へ、而郡之百姓共一統広太之御慈悲難有奉存候、以上、
文化二五年八月七日
摂州兎原郡十八ヶ村惣代
三条村 作兵衛
中野村 四郎右衛門
打出村 佐太郎

深江村 利右衛門
五十ヶ村
武庫郡村々惣代
高木村 常右衛門
上瓦林村 久左衛門
鳴尾村 嘉兵衛

御奉行様
右願書之連印扣
○中略
ハ七拾四ヶ村

右之通願書認察、八月七日罷出候得共、御開濟無之付、又々申下致、得と勘弁之上又々願出、則願書別紙ニ有候、

【菜種売捌一件願書扣帳二】
芦屋市三条町、小阪作兵衛
氏歳
○文化二年(一八〇五)

(表紙)
文化二五年
菜種不捌ニ付指支願書写
閏八月 三条村庄屋
作兵衛

乍恐御訴訟
撰州兔原郡八ヶ村 村々百姓共
同州武庫郡五拾六ヶ村 村々百姓共

一、菜種作方之儀出稽之上作増売捌方之儀は、御定場所之
兔原郡油稼人共え正路之直段ヲ以直買ニ仕候儀と一統相
心得罷在候処、近來油稼共一統、時々之相場ニ不抱、下
直ニ買取可申様之仕法ヲ付、殊更当丑六月ノ新規ニ油稼
仲間目代と唱、在々一統之菜種右目代え為買集、右油稼
仲間之者一統え配分仕、時之相場ヲ以油稼人共え之直買
は必至と相止メ候付、右目代之者共時之相場ニテハ一粒
も買取不申、油稼仲間ニテ菜種相場ヲ外シ、在々之買
入直段格別引下ケ直立ヲ仕買集候儀ニ御座候、元來百姓
共義は、菜種売捌代銀ヲ以諸肥仕入、其外諸私向は菜種
売捌時節迄相對ヲ以延置候程之儀ニ御座候処、右前々
より之御触渡ニ相背、新規不正道之買方仕、百姓共ヲ為
致難決候段數ヶ敷奉存候、別而菜種之儀ハ御定之場所外
えハ一粒も難出、且又時之相場ヲ以買取候共、右目代
え売渡候而へ是又御定之直売ニ背ケ候付難売渡、此上時
之相場ヲ以油稼人共直買仕時節を相待候外無御座、左候
而ハ菜種困持候様之趣意ニも相当リ可申哉と奉恐入候、
乍併此義は右前之成行ニ而自然と売捌差支候儀ニ付、何
様ニも可申被候得共、百姓共一統諸肥手仕入其外諸私向

之差支ニ相成、甚難決仕候ニ付、無抛乍恐奉願上候、元
々新規ニ目代持、御定候直買差止候、右前在々一統之
難決ニ相成義ニ御座候間、乍恐先年ノ御触渡し之御趣意
不相背、新規之目代相止、油稼人共え直々ニ正道之売捌
出来候様被仰付被下度奉願上候、右之通奉願上候得共、
強而目代指留候儀ニ而も無御座候、畢竟目代ヲ以不正道
之買方仕候ノ事発、一統難決仕候儀ニ御座候間、縦目代
ヲ以買集候共、時々相場ヲ以正道之取斗仕候儀ニ御座候
ハ、於私共ニは目代指留候存心無御座候、此段乍恐御
堅察之上、右願之趣御聞届被成下候ハ、百姓共一統広
太之御慈悲難有奉存候、以上、
文化二五年
閏八月五日

兔原郡七拾四ヶ村 村々庄屋連印
武庫郡七拾四ヶ村 村々庄屋連印

○奉行所罷出届書略
乍恐口上
撰州武庫郡之内
同州兔原郡之内
七拾四ヶ村 惣代

一、菜種買方不正道ニ付差支御願、当月五日御訴訟奉申上
置候処、昨十八日私共被 召出、此度差支奉願上候油稼
仲間新規目代ヲ以菜種買集仕候前々之売買致方、并右目
代出来後之売買致方御尋ニ御座候、此段右新規目代出来
仕候前は、百姓共作立之菜種、御定場所之油稼人共、時
之相場ヲ以銘々直売仕、或は小前之百姓共ニ而ハ、作立
之菜種聊ツ、ニ御座候故、五人拾人程ツ、申合、一手ニ
仕、同様油稼人え売渡来リ候儀ニ御座候、然ル処当五月
頃新菜種売買之節、油屋仲間目代と唱、人数相定菜種
新規之買集方を始、右目代仲買、或ハ目代手先仲買と唱
候者、寄え相廻シ、以來菜種直売買相止、右目代仲買又
ハ手先仲買え買集候間、其心得ヲ以売渡可申旨申之相廻
り候ニ付、前々之御定ニ振れ、其上時之相場ヲ外シ格
別下直ならでハ買取不申候ニ付、銘々危路一鉢売捌方差
支難決ニ付、無抛御訴訟奉申上候儀ニ御座候、御札ニ付
右之段乍恐以書付奉申上候、則右目代仲買同手先仲買と
唱候者共名前左之通ニ御座候、

池田仙九郎御預所
撰州兔原郡大石村
目代仲買 小池屋吉右衛門

右同所 同所 浜田屋藤右衛門
 木村周藏御代官所 油屋 惣兵衛
 同州同郡日代官所 石屋村
 右目代手先仲實 中屋 権兵衛
 同州武庫郡西宮 同 今津屋 仁兵衛
 同 同 中嶋屋 半兵衛
 同 同 納中屋 伊兵衛
 同 綿屋 吉三郎
 木村周藏御代官所 清 七
 同州同郡鳴尾村
 松平遠江守御領分 八 三 郎
 同州同郡東新田村 右同所 浜田村 六 左 衛 門
 松平遠江守御領分 松平遠江守御領分 兵 衛
 撰州武庫郡小倉根村左 佐藤修理御知行所 和 助
 同州同郡西武庫村 松平遠江守御領分 三 郎
 同州同郡原田辺村 同州同郡魚崎村 忠 三 郎
 木村周藏御代官所 同州同郡魚崎村 忠 三 郎

程奉願上候、以上
 文化二丑年閏八月十九日
 松平遠江守御領分 松平遠江守御領分
 撰州武庫郡上五林村 年寄久 左 衛 門
 木村周藏御代官所 同州同郡鳴尾村 年寄 嘉 兵 衛
 同州同郡高木村 青山主膳殿御知行所 庄屋常 右 衛 門
 同州同郡高木村 庄屋常 右 衛 門
 木村周藏御代官所 庄屋作 右 衛 門
 同州同郡原野村 庄屋 彦 右 衛 門
 右同所 同州同郡中村 庄屋 利 兵 衛
 松平遠江守御領分 同州同郡森村 庄屋 利 兵 衛
 同州同郡中野村 同州同郡中野村 庄屋 四郎 右 衛 門

【撰河村々五百六拾八ヶ村惣代願】 同前
 乍恐口上

御奉行様
 撰河村々五百六拾八ヶ村 惣代 共
 一、今般業種綿実而種并油売買手広ニ被為成下度段、奉願上候処、容易不成儀ニ付御取用ひ難被成段、御利解被為

仰下、御尤至極奉存候得共、此儘御願下仕候而ハ油屋株持共御定法ニ事寄セ、是迄々々運ひ相付内談申、非道之儀有之候処、此度之愁訴御取用イ無御座候趣相聞候得は、此上増長仕候而ハ百姓共而種売買手挾彌増ニ相成、本文願書ニ奉申上候通、作り出シ減石仕候ハ、油下直ニ可相成様之御慈悲振合、纒油屋共斗之利益ニ相成、百姓共ハ困窮之基、縮所ハ御年貢上納之隔ニ相成、其段如何斗敷、歎ク敷奉存候、猶然れば而困之儀は当御奉行様へ御すがり可申外可仕様無御座、不得止支乍恐奉願上候、何卒格別之御慈悲ヲ以、右願之趣幾重ニも御聞濟被為 成下候ハ、広太之御慈悲難有可奉存候、以上、
 文化二丑年八月廿七日
 撰河村々五百六拾八ヶ村 村々惣代判
 ○以下連名略
 御奉行様
 【水車両組油稼濟口書上写】 同前
 乍恐口上
 撰州灘目油稼水車両組 請負人 共

一、撰州武庫原原武郡之内、都合七拾四ヶ村惣代庄屋共々業種買方不正道ニ付、村々百姓共指支難涉之趣、御訴訟被申上、右願書八月十九日為 御見被下、私共業種買口之儀否可申上旨被 仰付奉長候、然ル処、而組多人數之者共他行仕候者も有之、得と買口之始末相調御答申上度、追々御日延御猶預奉願上候所、御聞濟被為 成下、難有奉存候、則今日御日限ニ付、乍恐左ニ奉申上候、一、當時住吉村井上屋伊左衛門請負持五拾六輛、水車新田油屋兵五郎請負持五株、都合六拾壹輛油稼水車之儀ハ、元御当地日野屋庄左衛門被 願上、奉蒙御免、而絞草之内業種之儀は、武庫原原八部三郡分買入可申旨御定法被 仰付、勿論油直段高直ニ而ハ諸人之難儀ニ付、精々油直段引下ケ候様、正道ニ出精可仕旨、兼而被 仰渡御趣意一同難有承知奉長候、然ル処而組六拾壹輛業種買場所之儀ハ、右三郡買合ニ而手挾ニ付、業種買入方石數甚無數被是心配仕罷在候、尤先年は綿実登リ方相応ニ在之、而絞草持合ヲ以稼方相賄、可成ニ渡世相統仕候得共、近年諸国ニ綿実稼之油屋共増長仕、綿実買留、登リ方追々相減、只今ニ而ハ前々三分一ニも引足リ不申、一同之相統

難相成、自然と右三郡之菜種糶合買之姿ニ相成、連々困窮相募、油稼相止メ候者儘有之、既ニ去年凶作と見込業種直段至高直ニ相成、夫ニ連油相場も高直ニ仕候得共、元方菜種格別ニ引上候故大不引合ニ相成、一同損失多、又々此節も休車出来仕候、全株菜種直買不取締之元立ハ、須臾より西宮寂寄在々入込候諸商人、或ハ干鯛諸肥手米穀ニ至迄も仕送り之商人夥敷有之、多分ハ菜種引請代物代銀之価故、油相場之算当ニも不抱、直段高直ニ買取困持利潤之程を思惑仕候者共在之、畢竟是等ハ私組菜種買場無数絞リ草払底ニ成込を考候哉ニ奉存候、右之振合ニ而混雜仕候御儀故自然と大不引合ニ罷成、追々衰微仕、當時ニ而ハ式夕株ヲ以水車巻輪ニ縮メ相稼候者も有之程之成行ニ而、水車稼方一同之相続無覚束、惣分ニ之者共ハ何卒相続可仕様、取締仕法ヲ相立具候様、再応申出ニ付、外ニ致方も無御座、油屋共菜種夫々正路之直段ヲ以直買仕、望之者共得ハ平等ニ配当仕、稼方融通仕候ハ、御冥加銀株々取集方之差支可申儀も無之、別而中間相続之基ニも相成可申儀と奉存候ニ付、請負人共ハ指図を致、旧来ハ仲間惣辻ニ而綿実請所方ニ世話為致抱同

前之者三人御座候処、先達而御上様御免被為 成下候直買之御提札、右之者共為持直買仕候儀、全不正道ニも可相成トハ不奉存、取斗仕候処、此度七拾四ヶ村惣代庄屋共被 願上趣意は、新規菜種買集候段百姓方指支ニも可相成様被 願上候ニ付、此段自然 御上様御察當奉請候儀も奉恐候ニ付、向後ハ目代ヲ以買集候儀相止メ、以来は前々御定法之通り油共直買可仕候、右御尋ニ付、乍恐御答奉申上候、以上、

文化二五年十月五日

五拾六兩請買人
井上屋伊左衛門
病氣ニ付代 甚 兵衛 印
五兩請買人
油屋兵五郎
病氣ニ付代 儀 兵衛 印
両組油稼人惣代 浜屋利兵衛 印

御奉行様

8 酒株・酒造稼

【三条村久兵衛酒株覚】

芦屋市三条町、小阪作兵衛氏蔵
○安永七年(一七七八年)

酒株覚

寛文六年御改
一酒造高 七拾石
元禄十五年御改
一同 拾三石

正徳五年御改
一同 四石三斗三升三合

右之株、私所持仕罷在候得共、何方の譲り請候哉相知不申候、御証文も無御座候、先年関口直右衛門様、御上様御帳面之写被下置、所持仕候、其後三橋仙左衛門様御役之時節、貸株ニ仕度段御申上候處当分見合候様被仰付候

延宝七年御改
一酒造高八石七斗五升

右之株、十貳年以前、亥年魚崎村十兵衛方之譲り申候、右之通相違無御座候、以上

安永七戌年十一月

三条村 久 兵衛
同村年寄 八郎 兵衛
同 所、仁 兵衛

御奉行様

庄屋 長 兵衛

【三郷酒造屋年行司等請証文】

芦屋市三条町
小阪作兵衛氏蔵
○天明七年(一七八七)

(端書)

「九月廿日 大坂御番所御召之節御請証文 写」
差上申一札之事

一、私共先年酒造仕来り、御当地之儀は株御定メ有之候得共、在方之儀は株御定メ無御座候ニ付、去ル午四月以來、追々被 召出、株冥加等之儀御糺ニ付、銘々存之趣御答書差上置、未ノ御糺中ニ御座候所、其比トハ違ひ、右同年諸国一統ニ不作ニ而、米穀高直ニ付、酒造米高半石造り被 仰出、猶又此度酒造米高三分一造り之儀被仰出候儀ニ御座候得共、旁酒造株冥加等之儀、此節不被及御吟味之間、一統其旨奉存候、諸事右御糺以前之姿ニ相心得可申候、尤右之通被 仰渡候進、當時酒造休居候者酒造初之儀ハ勿論、是迄酒造仕来り候もの共も此度被 仰出候通り酒造米高三分一之所ハ決而過造り等不相成候、万一不埒之段御座候ハ、御吟味之上急度御答メ可被、仰付候間、御当地酒造屋共ハ年行司共ハ具ニ申達、

在方酒造屋共へ之義へ領主用達之者無間違早々申聞、
右何れも承知之趣請書ニ当人并ニ役印等取之、當御奉行
所へ差上可申旨、委細被 仰渡候趣奉長候、仍而請書差
上申所如件、

天明七未
九月廿日

三郷酒造屋年行司 拾三人 印
在方 用開 連印
兵庫西宮惣代 庄屋 印

右之通り大坂御番所へ上り候事

【三条村久兵衛酒造願書】

菅屋市三条町、小阪作兵衛氏藏
○寛政三年(一七九一)

乍恐以書付奉願上候

一、私義、先祖専酒造仕来り候処、中興身上不如意相
成、暫中絶仕、又々拾三ヶ年以前、岡本村好右衛門と
申者と相談仕、先年所持仕来り候三株ヲ以、則好右衛
門方之居室統キニ納屋葺ヲ建、出造り仕、尙又居室之内
ニ而も少シ宛酒造仕来り候処、去ル未年御改之砌、私義
折簡他参任願違レ罷成候内、則岡本村方へ御札被為遊候
処、少シ間違筋有之、休株同様罷成、因窮私甚難没仕敷
ケ敷奉存候、且又右間違事共御願奉申上度候、御上様
之御苦勞被為成下候義も奉恐入、差扣罷在候、然ル処、此

度御他領之内、辰年造来り高御免被為遊、此節酒造取懸
り居申候、則右之者共へ魚崎村十兵衛、住吉村勝右衛
門、深江村平治郎、其外今津村ニも有之趣ニ付、得と承
り合候処、相違無之ニ付、此段奉申上候、右之弊事共御座
候御義、恐多ク奉存候へ共、何卒右三株ニ而私義酒造仕
候様、御免被為成下度奉願上候、勿論困窮私、已年久間
違筋ニ而休株同様相成身上難立行、甚難罷仕候、御慈悲
ヲ以被 為仰付被下候様奉願上候、乍恐右奉願候通御聞
届被為 成下候へ、広太之御慈悲難有可奉存候、以上、

寛政三年
亥十二月

三条村 願人 久兵衛(印)
同村年寄 宇兵衛(印)
同村庄屋 伊作(印)

○引替
○引替

松沢伴蔵様

○他に同文一通、荒井時内様宛あり

【松沢伴蔵書状】

菅屋市三条町、
小阪作兵衛氏藏

伊作 殿

松沢伴蔵

其村久兵衛、旧職願出置候休株酒造之儀、當時右願難濟ニ付、
願書下ケ申候、已上、

正月十一日

尙々、酒造株之儀は、度々從 公儀御触之通ニ、一統被 仰付
候筋ニ候、御触通りニ違候義は願難立事ニ候、休株御免有之筋
ニ候へ、何れ從 公儀一統御触可有之事ニ候、已上、

【酒造株讓渡証文】

菅屋市三条町、小阪作兵衛氏藏
○寛政三年(一七九一)

譲り渡申酒造株之事

酒造元株高百石
一造米高百六拾石
但天明五巳年造白米石高也
此三步老五拾三石三斗三升三合
當時造白米石高也

右之酒株雖為我等所持、此度金子入用ニ付、永代讓渡、為
札金三拾三兩隨ニ請取申候、然ル上は何方ニ而成共、其元
御勝手次第酒造可被成候、右酒株讓渡之儀ニ付、故障之義
致出来候へは、左之連印之者何方迄も罷出、其元之御難儀
掛ケ申間敷候、為後日之酒造株讓渡シ証文、仍而如件、

寛政三年
亥四月日

生野御代官所 播州多可郡中村町
酒株讓り主 彦九郎
同町請人 仁兵衛
同町年寄 佐平治
同村庄屋 治左衛門
松平遠江守御領分 摂州兔原郡
三条村久兵衛殿同家 才次郎殿

前書之通相違無之候、尤此表より江戸御勘定所へ御届ケ相
濟有之候酒造株之内候条、奥印仍而如件、

生野御役所 稻垣藤四郎

【酒造株讓渡証文】

菅屋市三条町、小阪作兵衛氏藏
○寛政三年(一七九一)

譲り渡シ申酒造株之事

酒造元株高百石
一造米高百五拾石
但天明五巳年造白米石高也
此三步老四拾九石九斗九升余
當時造り白米石高也

右之酒株雖為我等所持、此度其元へ永代譲り渡申候実正明
白也、則札金相對通無相違儀ニ受取相濟申候、然ル上は何
方ニ而成共、其元御勝手次第酒造可被成候、右酒株讓り渡
シ之義ニ付、如何様之義致出来候へ、左之連印之者何方
迄も罷出、其元へ少も御難儀懸ケ申間敷候、為後日酒造株
譲り渡シ証文、仍而如件、

寛政三年
六月日

京極兵部權知行所但馬朝來郡赤井村
酒株讓り主 七郎右衛門
同町請人 又兵衛
同村年寄 茂兵衛
松平遠江守御領分 摂州兔原郡
三条村久兵衛殿同家 才次郎殿

前書之通相違無之候、尤此表之江戸御勘定所へ御届相濟有之候酒造株之内候条、奥印仍而如件、

京極兵部内同国同郡系并村
多田喜左衛門

【三条村才次郎願書】 同前

乍恐以書付奉願上候

一酒造株米高百五拾石

京極兵部御知行所
但馬朝來郡系并村
七郎右衛門株

右之酒株、去ル六月ニ讓請、御願申上置候、然ル処、右酒株世
語人共謀計ヲ以取組候義ニ付、此度段々相許申、何卒下濟具候
様申立候ニ付、右株証文先方之差返下濟仕度候間、右奉願上置
候願書何卒御下ケ被為、成下候ハ、難有可奉存候、以上、

寛政三亥年
十一月日

三条村 久兵衛 (印)
願主同家 才次郎 (印)
同村年寄 宇兵衛 (印)
同村庄屋 伊作 (印)

荒井時内様

【酒造株控帳】 菅屋市三条町、小阪作兵衛氏藏

(表紙)

寛政十三四年二月

酒造株控帳

三条村庄屋 伊作

酒造株覚

寛文六年御改 株主久兵衛
一酒造高七拾石
元禄十五年御改 同 人
一同 拾三石
正徳五年御改 同 人
一同四石三斗三升三合

右之酒造株、当村久兵衛所持仕罷有候処、拾三ヶ年以前申
年御改之節、休株ニ相成罷有候、右申上候通相違無御座候
以上、

寛政十三四年二月

三条村庄屋 伊作 印

大庄屋那家
平野本治様

右此節酒造株御改有之候ニ付、休株之分も大庄屋殿迄書付
差出候様、御沙汰有之ニ付、書付差出置候、

寛政十三年西二月十二日

【三条村他国稼願書控】 菅屋市三条町、小阪作兵衛氏藏

(表紙)

寛政十三年申八月

他国稼願書控

三条村

一源兵衛年五十一、江州志賀郡大津御蔵町鍵屋利助方へ酒
頭司ニ望申ニ付、当八月ヨ来西五月迄罷越申度奉願上候

願主 源兵衛
請人 伊左衛門

一彌三右衛門年四十一、江州志賀郡賀多田川村六右衛門方
へ酒頭司ニ望申ニ付、当八月ヨ来西五月迄罷越申度奉願
上候、

願主 彌三右衛門
請人 甚兵衛

一五兵衛年五十七、伏見丹波橋屋六兵衛方へ酒頭司ニ望
申ニ付、当八月ヨ来西五月迄罷越申度奉願上候、

願主 五兵衛
請人 甚兵衛

一市右衛門年四十七、京都西替町万屋源兵衛方へ酒頭司ニ
望申ニ付、当八月ヨ来西五月迄罷越申度奉願上候、

願主 市右衛門
請人 善右衛門

一利右衛門年四十六、京都室町通一条上丸屋市兵衛方へ
酒頭司ニ望申ニ付、当八月ヨ来西五月迄罷越申度奉願上
候、

願主 利右衛門
請人 八郎兵衛

一嘉右衛門年五十六、京都河原町大和屋伊右衛門方へ酒頭

司ニ望申ニ付、当八月ヨ来西五月迄罷越申度奉願上候、

願主 嘉右衛門
請人 八郎兵衛

一又兵衛年五十四、若州上中郡新道村松木庄左衛門方へ酒
頭司ニ望申ニ付、当八月ヨ来西五月迄罷越申度奉願上候

願主 又兵衛
請人 八郎兵衛

一善左衛門年三十九、京都小川一条上丸屋藤兵衛方へ酒
頭司ニ望申ニ付、当八月ヨ来西五月迄罷越申度奉願上候

願主 善左衛門
請人 八郎兵衛

一字兵衛年三十、若州小浜塩浜小路細警伝兵衛方へ酒頭司
ニ望申ニ付、当八月ヨ来西五月迄罷越申度奉願上候、

願主 字兵衛
請人 彌三兵衛

一吉兵衛年五十一、若州小浜塩浜細警伝兵衛方へ酒頭司ニ
望申ニ付、当八月ヨ来西五月迄罷越申度奉願上候、

願主 吉兵衛
請人 利兵衛

一四郎兵衛年六十一、丹州桑田郡下村角左衛門方へ酒頭司
ニ望申ニ付、当八月ヨ来西五月迄罷越申度奉願上候、

願主 四郎兵衛
請人 善右衛門

9 宗 教

【芦屋村神社御改委細帳】 芦屋市、猿丸吉左衛門氏藏 ○元祿五年(一六九二)

(表紙)

元祿五申年
十月十一日 荊州夷原郡芦屋村 神主 吉左衛門

一 氏神 天神 社 面五尺五寸 屋ねのしよき 神主 吉左衛門
御拜四尺五寸

拜殿 桁行三間半 梁行式間半

敷地 北南式拾拾間 馬場五拾式間横幅一間式尺
東西拾八間 石ノ鳥居高九尺

境内 北南九拾拾間
西東六拾拾間

末社 いつもの神 面三尺三寸 神主 人
つま巻尺三寸 御拜七寸

石とう 高五尺 台式尺 同 人

末社 あたこ 右同断 同 人

末社 多賀大明神 右同断 同 人

末社 荒神 右同断 同 人

一門丸之くろ 敷地四間四方 廻りニ松有 同 人

一 かうしん塚 東西式間半 南北四間 同 人

石とう 高六尺 台共大式尺三寸

一 十王堂 石ほこら 面三尺六寸 村廻り支配
つま七寸五分 石台敷地六尺二五尺

御神塚 御神作り 神主 吉左衛門
一天照 面三尺五寸
一 太神宮 面三尺五寸 御神作り 神主 吉左衛門

敷地 南北六間半 東西四間半

一 大しやうくん塚 北南四間半 一尺五寸 同 人

東山 敷地四間松木少々御座候 村廻り支配

西山 小社 面八寸 右同断
つま巻尺 屋ね板ふき

敷地 北南四間半 東西四間半

うがまつり 西巻尺八寸 神主 吉左衛門
一 弁才天女 御拜八寸

敷地 境内共ニ拾間四方 福石三ツ有

一 若社 相殿中央 大比叡大明神 小比叡大明神 神主 吉左衛門
客人大明神 八王子大明神

社 面九尺つま三尺六寸 なかし作り 同 人
御拜巻尺六寸 屋ねのしよき

敷地 三間半

境内 北南四拾拾間 東西拾五間

末社 牛頭天王 面九寸 同 人
つま巻尺五寸五分

才の神 同 人
末社 面巻尺 屋ねいた 同 人
つま巻尺 ミせたな作り

敷地 東西四間南北拾間半

同村長福寺支配薬師堂 式間半四方 火燈 宗 獣
一塩通山法恩寺 ぼろぎやう作り

知恩院末寺 当住持 覚 誓
一 浄土宗 大甲山長福寺

堂 桁行四間 南東二四尺ノ縁有
梁行三間 裏ニ四間ニ巻間五ひさし有

庫裏 桁行五間 屋ねわらふき

門跡式間 敷地 北南拾九間 西東九間式尺

此寺何百年以前ニ開基仕も不存候、当住九代以前、元和元年卯年ノ以来七十八年之住僧、法名相知申候ニ付、書付申候、

九把、真誓、諦存、広誓、了頓、信誓、相誓、証誓、覺誓、此覺誓三年前入院、師匠坂本案女寺還誓、敷地年貢地、御帳ニ或畝或拾四歩、斗代或斗八舛と有之、

右薬師堂塩通山法恩寺は、行基菩薩之開基、其後在原之業平加藍建立之所に、或百五十年前以前焼失仕由申伝候、其後少之堂を村中として建置、同村長福寺支配ニいたし置候、三十五年以前迄ハ、専故と申道心者を御断申上長福寺ノ火燈為仕候、其後宗清と申道心者火燈仕候処ニ、九年以前相果、去年迄ハ火燈不相究候所、御断申上去年八月ノ宗獸と申道心者火燈為仕候、則長福寺当住覺誓之弟子ニ而御座候

右何も社堂何百年以前ノ勧請仕候哉相知不申候、并神主數代之訳儲存知不申候、社堂之境内ハ除地ニ而御座候、以上

元祿五申年十月 芦屋村庄屋 太郎右衛門(印)
同村年寄 八左衛門(印)

御改奉行 秋田岡右衛門様
星野七郎兵衛様

【三条村寺社御改扣】 芦屋市三条町、小阪清兵衛氏藏、
〇銘々慶凶并古キ事覚書之帳」所収
元禄五年(一六九二)

(中扉)

撰州 兎原郡 三条村
元禄 五年 申十月 日
寺 社 御 改 扣

申ノ十月十一日上ル
一氏神稻荷大明神

森村ニ有り

一八幡宮 面唐尺壹寸妻唐尺壹寸
屋ね板ふき見せたる作り

三条村

敷地九間

村中廻り持

敷地八間

宮座彦兵衛
廻り林

境内 除地

此宮由来勸請年数申伝無御座候

西本願寺末寺小浜毫撰寺下

当住持

一一向宗 照楽寺

教 伝

堂桁行四間梁行貳間半屋ねわらふき
貳間半ニ半間之ゑんあり

敷地拾四間ニ拾壹間 年貢地

此開基之由来代々住持職之名相知不申候、勿論村中申伝証
拠致吟味候得共数代之年数も相知不申候、四代以前ハ道
順、三代以前ハ玄香、貳代已前ハ正海、

一禪寺 普門山宗四寺 本庄九ヶ村 氏 寺

屋敷拾八間

拾貳間

境内除地

從殿様御引被下候

一此寺開基相知不申候、貳拾四年已前寛文九年酉ノ年迄好
鈍と申坊主居申候、酉ノ年ニ出寺仕候、拾九年已前延宝
貳年寅ノ年迄小寺御座候得共寅ノ年ニつれ申候、

一弁財天 面唐尺壹寸妻唐尺
屋ね板ふき

市右衛門事
助左衛門

敷地貳間半貳間

彦右衛門事
長左衛門

境内除地

一春日明神

除地 宮座 助左衛門
長左衛門

境内貳間

無禿倉

一山神 印之木有り

境内三間

除地 宮座 助左衛門
長左衛門

無禿倉
印之木有り

一大日堂跡 四間

除地 宮座 助左衛門
長左衛門

元禄五申十一月十一日

(マニ)

三条村庄屋 次 兵衛

御奉行様

同村年寄 伝 兵衛
同 断 忠 兵衛

追而御尋被成候書付之趣

西本願寺末寺 三条村

照楽寺住持

教 伝

手次小浜毫撰寺ニ而入道仕則毫撰寺請証文
指上ケ元禄四年未ノ四月五日ニ入院仕候

一八幡宮

村中廻り持

何百年以前ノ廻り持ニ仕候も相知不申候

元禄五申ノ年十月十五日ニ上ル

一八幡宮

境内

申ノ十月廿三日ニ上ル
往古ノ除地ニ而御座候

一向宗 往古ノ御年貢地ニ而住持ノ御年貢上納仕候

一禪寺 拾六年以前延宝五年巳ノ年ノ

普門山宗四寺

一弁財天 荒引被成被下候

敷

一山神

境内

一春日明神 右同断

境内

右是迄ハ庄屋年寄判形ニ而差上申候、

覚

一向宗小浜毫撰寺末寺

当住持

教 伝

此寺何百年以前ニ開基仕候哉知不申候、住持数代之わけ
覚不申、六拾九年已前ノ道順、玄香、正海、当住持教伝
迄四代之間已来相知申、わけて書記差上ケ申候、為後日
如件、

元禄五 申年 十一月六日

三条村 教 伝 判

秋田岡右衛門様

伊藤次郎右衛門様

田中九右衛門様

星野七郎兵衛様

一茂兵衛を宮座と書付指上ケ候事ハ、廿五日之御たうの番
ニ而有之ニ付、如此ニ候、

一助左衛門、長左衛門迄宮座と書付候事ハ、其年之山番ニ
而有之ニ付、宮座と書付候事、

【銘々慶凶并古キ事覚書之帳抄出】 芦屋市三条小阪清兵衛
氏藏、天和三(一六六二)

一普門山宗四寺住持好鈍と申坊主、貳拾八年以前明暦貳年
申ノ六月三日ニ、大坂平野町宮嶋屋彦太郎と申弟方ノ来

り、拾五年以前寛文九年酉ノ十二月ニ大坂彦太郎方へ歸り、其寺拾年以前延宝貳年寅ノ年迄有之、寅年大雨大風ニつむれた多申候、

一御くわんおんへ貳拾四年以前万治三年子ノ年ニ好鈍本庄中奉加仕本尊出来仕候、

一津知村太兵衛と申もの、好鈍ニ奉公致シ、妻子共ニ会下ニ引越住宅仕、会下分之田地耕作仕居申所ニ、好鈍酉ノ年ニ大坂へ引越申ニ付其跡を持、戌ノ年亥ノ年ニケ年太兵衛自分ニ作仕罷在会下ニ而相果、其妻子今津知村太兵衛と名乗罷有也、

一宗円寺之田畑太兵衛相果申以後、子ノ年丑年ニケ年ハ加兵衛親之源市兵衛当作ニ而作り申候事、

三年以前延宝九年但天和元年酉ノ三月六日大坂両殿様へ指上ケ候社書付之覚

一八幡宮 除地 横州鬼原郡尼崎青山大膳亮殿知行所 三条村
一神宗 除地 屋敷跡 同村 宗 円 寺
一西本願寺下川辺郡小浜邊禊寺末寺 同社本 道場次兵衛
一向宗

此社本道場、六年以前貞享三寅ノ四月五日日本寺の照樂寺と申寺号申請候所ニ、其刻御改失念不申上ケ候、此度悴教伝ニ道場譲申ニ付寺号御尋ニ付、元録四年四月廿五日ニ庄屋次兵衛・年寄伝兵衛・教伝申上ケ候事、

一右之通元録四年未四月廿五日ニ天満御寄騎寺社御奉行関根庄左衛門様へ罷出、添書仕、庄屋年寄教伝三人印形仕候、右ハ五畿内五ヶ国御改ニ付、御寄騎衆古屋新十郎殿、前田十兵衛殿、由井加兵衛殿え參、右之通書付判形仕候

判形人 庄屋 佐次兵衛 判
年寄 伝兵衛 判

【村々社寺神主官守堂守支配人等判形之覚】 同前

元録五年正月日
村々社寺神主官守堂守
其外支配人等判形之覚
村々寺院并社本五人組証文扣

一ケ条書 累年切支丹宗門御改御制禁付て、連判之寺院、相互ニ申合を以無油断吟味仕、少も疎略之義仕間敷候、若違背之族有之は連判之内ハ早速可申上者也、依而如件

元録十五正月

知恩院末寺 打出村 親王寺 覺營
同末寺 芦屋村 長福寺 行營
同末寺 北畑村 西光寺 門營
同末寺 中野村 真光寺 見牛
同末寺 尾崎専念寺下
四ヶ寺組 横屋村 西福寺 林營
知恩院末寺 野寄村 明休寺 支哲
知恩院派 大坂城国寺末寺 野寄村 光明寺 巴察
大坂安樂寺末寺 岡木村 要支寺 要学
本興寺末寺日蓮宗 小路村
四ヶ寺組
平松 次太 夫殿
伊藤五右衛門殿
天野八郎兵衛殿
浅井次郎右衛門殿
新開郷左衛門殿
附り本寺へ歸參有之節其子細御役人中之不申届私として
任心ニ申聞敷事
一向宗
西本願寺末寺 深江村 正壽寺 空昭
京都常樂寺下

同末寺 京都仏照寺下

右 同断

右 同断

四ヶ寺組

西本願寺末寺

箕輪超光寺下

同末寺

京都常樂寺下

同末寺

同末寺下

三ヶ寺組

東本願寺末寺

同末寺

多田光通寺下

右 同断

右 同断

四ヶ寺組

一神社之内、有米室殿神祠末社等ニ至まで小破之修覆ハ格

別、及大破建テ直シ之修理、又ハ新造之普請等ハ何時も

奉伺之、随御指図可申候、私として取立申ましく候、惣

而神社之義、本社末社等室殿有無之写シニ至まで去ル年

元録五申冬御改任御帳面大坂御奉行所へ被遣置候何事に
よらず御奉行中へ不仕伺之、内証にて致取捌違却之儀任
間敷事、

右之条々急度相違なく相守可申候、若於相背へ何様之由事
にも可被仰付候、為其村々連判証文、依而如件、

元録十五年正月日
打出組

○中略(森村、田辺村、小路村)
三条村

- 一八幡宮御神 村中廻り持 宮座 善市郎
- 一弁財天 村中廻り持 宮座 五兵衛
- 一春日大明神 同断 五兵衛
- 一山神社 同断 五兵衛
- 一大日堂 同断 五兵衛
- 中略(魚崎村、深江村)
- 右之通相違無御座候

【三条村百姓訴状】 芦屋市三条町、小阪清兵衛氏藏
○寛政十二年(一八〇〇)
乍恐御訴詔

- 市兵衛(印)
 - 太兵衛(印)
 - 徳兵衛(印)
 - 源兵衛(印)
 - 五兵衛(印)
 - 嘉兵衛(印)
 - 彌兵衛(無印)
 - 吉兵衛(印)
 - 甚(印)
 - 利兵衛(印)
 - 大五郎(印)
- 惣代人 先三郎兵衛弟 甥幼少ニ付代

【三条村兵衛中惣代願書】 芦屋市三条町、小阪清兵衛氏藏
○寛政十二年(一八〇〇)
以口上書御願奉申上候

一摂州兔原郡三条村、当村内ニ八幡宮禊舎御座候ニ付、村中
廻り持ニ而火燈支配等致来り候処、宮座火燈等之儀も御
家御許状頂戴不仕候へでは不相濟候趣承、村方打寄火燈
御許状御願可申出段相談ニ及候処、元来当村開発之仁由
緒有之候ニ付、其末胤筋家来筋等家筋相分り有之、尤右御
社御神事之御座席等急度相改動来り候処、此度火燈御許
状御願可申段相談仕候処、右家来筋之者共彼是故障申、右

御殿様御領分三条村百姓

一私共村方八幡宮火燈印形仕差上申候事、先例村中廻り
持致シ来り候、然処寛政貳年神社仏閣神主火燈之御触書
相廻り、其節私村方之由緒不存候哉、相談之取へ火燈印
形拾得軒と相限り致印形以書附奉御願上候事、去年年々
風聞ニ承、是迄源五先祖代々兵衛式拾三軒別れ出来、
無高下住ミ来り有之候処、右拾得軒ニ相限り、唯今ニ而
は火燈印形願入之外加入為致具不申事、其儘ニ差置、後
々年ニ至家名家筋ニ相隔テ出来候而は先祖相立不申、
此段數々敷存候而去未七月同八月迄村方ニ而火燈印形
之趣加入致可異様段々掛合致候得共、先祖之任来りニ
背キ我儘ヲ申立一向聞入無之故、是迎も其儘ニ差置候得
は後々年ニおいて神主筋卒と申立家名家筋相隔テ可致存
知寄かと奉察候、依之無抛乍恐、御訴詔奉申上候、何卒
古例之通り火燈印形村中廻り持可致様被為仰付被下候へ
、広大之御慈悲難有奉存候、以上

利兵衛(印)
甚兵衛(印)
三郎兵衛(印)
寛政十二年
申五月日

御許状不申請、而宮座火燈等目名相消候共右等之儀御願
申候は不致候様一節族申、依之談合落合不申候、右之趣
打捨置候得は右目名相消、火燈等仕儀不相成候様罷成候
而は神慮之程恐入、且家筋惡敷者共之故障ニ付神慮ニ相
背ケ候様成行候而は尙更残念ニ奉存候、彼是相論仕候得
は、相分り候様可相成事ニ而も無御座候得共、左様仕候
而は村中忽不和と可相成、左有時は帰而神慮ニも不相叶
道理と奉存候ニ付、先例有之候故、此度御改之砌、繼目御
願申候と申候得は、先例有之ニ付早速平和ニ相調可申と
神祇道信仰之銘々申候ニ付、先例有之と村方末々之者へ
披落申節為見せ候、先達而御頂戴申候向之古キ火燈御許
状被為御下候得は、以右を村中平和ニ納得為致置、御改
之砌早速繼目ニ罷出、御許状難有頂戴、村中火燈無懈意
相動申度候ニ付、此段御勘察之上御沙汰被下度御願奉
上宜敷御披落奉願上候、以上、

寛政十二年
御本所 三條村兵衛中
惣代 三郎兵衛(印)
御役人中様
右相違無御座候ニ付同事御願奉申上候、以上、

仲林主計(印)

【三条村百姓訴状】

芦屋市三条町、小阪清兵衛氏藏
○寛政十二年(一八〇〇)

乍恐御詔

御殿様御領分三条村百姓

一私共村方八幡宮火燈印形仕差上申候事、先例村中出入
勝手ニ相勤廻り持致来り候儀は、源五先祖の兵衛一統之
仕来リニ御座候、然処寛政三年神社諸国取之御触書相
廻り、其節私村方之由緒不存候哉、唯今兵衛別れ或拾三
軒出来有之、一統之相談も無之火燈印形拾壹軒と取以
書附奉御願上候処、右源五先祖の三条と村号ス由諸書有
之由不相辯哉、兵衛火燈印形拾壹軒と相限り願入之外
人ノも加入不致候趣、去年年々風聞ニ承、其儘ニ差置可
申儀相成不申、其訳源五先祖京都吉田御赦許被 差致難
有村中勝手ニ廻り火燈致来り候、然処右源五之儀は、
御殿様 御存知之通り段々病死致家絶仕、其節新類共呼
寄右御赦許新類共え譲り置、唯今御赦許之儀は新類共ニ
所持仕罷在候、依之去未七月の同八月迄先例之通り火燈
加入可致様段々掛合候得共、先祖ヲ不知我儘ヲ申立一向
不取敢、此儘ニ差置候而は先祖之仕来リ相破り、其上

徳兵衛印
五兵衛印
嘉兵衛印
源兵衛印
太兵衛印
彌兵衛 不承知故
落印

【本庄氏神稱荷社神役請証文】

芦屋市三条町小阪作兵衛氏藏
○寛政七年(一七九五)

一札

一本庄九ヶ村氏神、当村ニ御鎮座
正一位稻荷大明神御神吏之節、神輿神役之儀ニ付、御庄
内之及御相談ニ候処、庄内御集會之上ニ而、神役之儀當
村ニ御頼、此段無余儀相聞え、右ニ付一札御差入被下候
ニ付、無滞神役相勤可申候、依之応村柄ニ御心持次第御
酒料可被遣旨、是又致承知候、右之通申談置候得共、氏
子御村々繁榮之節、御勝手ニ神役御勤被成度節、無異儀
差戻し可申候、然上は此方へ御差入之証文通相用神役相
勤可申候、為後日一札請証文、依如件、

寛政七年卯四月初日
同 森村年寄 久左衛門(印)
同 五良兵衛(印)

吉田家之御赦書猶亦神慮ニも不相叶之道理と奉存、且は
私村方之儀は源五先祖源五兵衛と申仁三条と村号シ開筭
仕代々及繁榮、是迄無高下住ミ来り、何兵衛ノと申罷
在候、右拾壹軒と相限り候事其儘ニ差置後々年ニ至家名
家筋ニ相隔出来候而は、吉田之御赦許其上先祖へも相立
不申候段、數ヶ敷奉存、下タニ而は我儘勝手ヲ申立不相
分と奉存候処、當春他村より私村方ヲ相手取水論出来
仕、此儀養水之事故ニ大事と奉存、前書ニ申上候通り之訳
ニ御座候得共、是迄差扣罷居申候、然処此度京都吉田御家
之御役人中諸国村々大社小社ニ不抱御赦許神主火燈有無
之御吟味遵行被成候ニ付、私村方之儀も先例火燈印形
廻り持申上度、猶亦源五之仕来リも相背候而は村方破
談之基と奉存、無抱乍恐 御詔詔奉申候、何卒先例之通
リ火燈印形村中廻り持相勤可致様被為 仰付被下候へ、
雖有仕合奉存候、以上、

寛政十二年
申六月日

利兵衛印
三郎兵衛印
甚兵衛印
市兵衛印
吉兵衛印

同村庄屋 利兵衛(印)

【本庄九ヶ村神役申合定】

芦屋市三条町、小阪作兵衛氏藏
○文化五年(一八〇八)

神役申合定

四月
一神輿御行之儀、氏子九ヶ村一同申談、当辰年々来ル戌年
迄七ヶ年之間、左之通、
申(森) 巳 辰
津知村 深江村 青木村
未(田) 午
北畑村 中野村

但跡式々年之義は、森村、三条村、津知村、田畑村、北畑村、
小路村、中野村、都合七ヶ村ヲ割合テ以神役相勤可申定、
右之通七ヶ年相勤候上ニ而ハ、先規申合之一札通相用、神
役官元森村ヲ被相勤候様可致候、依之一同連印如件、
文化五辰年 森村庄屋 利兵衛(印)
三月四日 三条村年寄 六兵衛(印)
津知村庄屋 五郎兵衛(印)

【本庄村々申合】 芦屋市三条町、小阪作兵衛氏蔵
 ○文化六年(一八〇九)
 定

一氏神御神事之節、何レ之村方ニよらず喧嘩口論無之様、
 庄内一統相慎可申候、万一喧嘩口論いたし候ハは其村方
 ニ而可相濟候、若庄内ニ評儀ニ可及様成行候ハ、諸参会
 諸造用何程相掛り候とも其掛り双方ニ割ツ割ヲ以出銀可
 仕候、為後日庄内一統申合如件、
 文化六巳年二月

- 森 村
- 津 知 村
- 深 江 村
- 東 青 木 村
- 青 木 村
- 田 辺 村
- 北 畑 村
- 小 路 村

中野村
 両組
 三条村
 奉申上候
 【三条村神事申上書】 芦屋市三条町、小阪作兵衛氏蔵
 ○文化九年(一八一二)
 氏神 一稻荷大明神
 鎮守 一八幡宮
 祭礼八月十五日森宮神主相頼御神酒奉献上候
 同 宮座村中廻り持
 一弁財天 敷地斗 当年番作兵衛
 同 宮座村廻り持 当年番作兵衛
 一春日明神 敷地斗 当年番作兵衛
 右之通相違無御座候、尤修葺等之節、下遷宮、上遷宮之儀
 は、先年森宮之神主相頼申仕来り御座候、以上、
 文化九申年五月
 三条村宮座年番 作 兵衛 印
 同村庄屋 兵衛 印

吉田御殿
 御役中様
 前書之通本紙相認、生田宮神主事大宮詞差出申候、
 申五月十一日

10 その他

1. 売券

【田地永代売渡証文】 芦屋市三条町、小阪清兵衛氏蔵
 ○万治三年(一六六〇)
 永代売渡し申田地之支

合上田五畝貳步 字ハかいち斗代高七斗六舛
 右之田地、子ノ年御年貢米ニ指詰リ申ニ付、丁銀四拾目ニ
 永代売渡し申廻明白実正也、於此田地ニハ、天下一統之徳
 政乱行候共少も違乱申者有聞敷候、為後日証文仍如件、
 万治三年 田地売主 源一二郎(印)
 十二月十八日 子ノ 二郎兵衛(印)
 善兵衛(印)
 源一兵衛
 彦右衛門(印)
 次兵衛(印)
 久兵衛殿

【田地永代売渡証文】 芦屋市三条町、小阪清兵衛氏蔵
 ○天和三年(一六八三)
 永代売渡し申田地之事

字ハたぬノまへ 斗代高九斗貳舛町数貳町
 上田六畝貳步

同 中田三畝八步 斗代高四斗貳舛五合町壹ツ
 同 下田拾七步 斗代高六舛或合町壹ツ
 右之田地ハ亥ノ年御年貢米ニ指詰リ申ニ付、丁銀三百六拾
 匁ニ永代売渡し申所明白実正也、於此田地ニハ及子孫々
 天下一統之徳政遵行候共、違乱妨申もの有之聞敷候、若何
 かと申もの有之は、此判形之者共罷出、急度埒明可申候、
 但し加兵衛身躰つむれ御役義相勤不罷成候ハ、此田地ニ相
 応之役義、御勤可有候、
 為後日証文仍如件 三条村田地売主加兵衛(印)
 天和三年十亥ノ二月十五日 同 村証人年寄 忠兵衛(印)
 同 断 伝兵衛(印)
 同 庄屋 左次兵衛(印)
 同村庄屋 兵衛殿
 同 下田五畝四步 永代売渡し申田地之事
 ミのへ 下田五畝四步
 同所 下田五畝四步
 二口ノ貳反拾六步 斗代御帳面次第也
 右之田地ハ、雖為相伝と、戌之年御年貢米不足ニ付、銀子

【田地永代売渡証文】 芦屋市三条町、小阪清兵衛氏蔵
 ○天和三年(一六八三)
 永代売渡し申田地之事
 同所 下田五畝四步
 二口ノ貳反拾六步 斗代御帳面次第也
 右之田地ハ、雖為相伝と、戌之年御年貢米不足ニ付、銀子

八百目ニ永代壳渡し申所実正明白也、若此田地ニ付、脇
坊申もの御座候ハ、判形之者共罷出、急度埒明可申候、
為後日永代之証文仍如件、

天和三戌十二月廿日

深江村亮主 孫左衛門(印)
同村 口入 又左衛門(印)
同村 年寄 十右衛門(印)
同 断 善右衛門(印)
同村 庄屋 忠兵衛(印)
三条村三郎兵衛殿

【本物返田地壳渡証文】 芦屋市三条町、小阪清兵衛氏藏
○貞享二年(一六八五)

本物返シ壳渡し申田地之事

上田合九畝貳拾貳步

斗代高老石四斗六升
字ハ五反田町敷三ツ

右之田地ハ、丁銀貳百八拾貳匁、内百拾貳匁ハ、当丑ノ年
ノ辰ノ暮迄頼母子利銀ニ相渡し申管ニ而、四年切壳渡
シ申所明白実正也、其内田地主ノ利銀勝手次第ニ相立可申
候、若利銀不足有之ハ、此田地永代御取可被成候、其時一
言之子細有間敷候、残テ百七拾匁之銀子ハ、六年以前申ノ
年ニ請取御年貢上納申候、右之通無相違候、為後日仍而如
件、

貞享三年丑ノ十二月廿日

三条村田地亮主 加兵衛(印)
同村 年寄 忠兵衛(印)
同 断 伝兵衛(印)
庄屋 次兵衛(印)
作兵衛殿
三郎兵衛殿
書直し

【田地永代壳渡証文】 芦屋市三条町、小阪清兵衛氏藏
○貞享二年(一六八五)

永代壳渡し申田地之事

上田合七畝貳拾九步

斗代高老石一斗九升五合
字ハ了心田町敷二ツ

下々田合拾六步

斗代四升三合
字ハかわら町一ツ

右之田地ハ、丑ノ年御年貢米ニ指詰申ニ付、銀子三百五拾
匁ニ永代壳渡し申所明白実正也、於此田地ハ、子々孫々ニ
至迄違乱妨申もの有之間敷候、若何かと申もの有之ハ、此
判形之者共罷出、急度埒明可申候、為後日仍如件、

貞享三年丑ノ十二月廿一日

三条村田地亮主 加兵衛(印)
同村 年寄 忠兵衛(印)
同 断 伝兵衛(印)
同村庄屋 次兵衛(印)
同村三郎兵衛殿

【田地永代壳渡証文】 芦屋市三条町、小阪清兵衛氏藏
○元祿六年(一六九三)

永代壳渡し申田地之事

中田合壹畝四步

斗代高老石四斗七合
字ハ河原町敷三ツ

右之田地、酉年御年貢米ニ差詰リ申ニ付、銀子三拾七匁ニ
永代壳渡し申所明白実正也、於此田地ニハ違乱妨申もの有
之間敷候、若何かと妨もの於有之ハ、加判人罷出申訳仕、
急度埒明可申候、為後証之仍如件、

元祿六年十二月日

三条村田地亮主 市兵衛(印)
証人年寄 伝兵衛(花押)
同断庄屋 次兵衛(花押)
庄屋年寄印打出ニ有之
忍屋三郎兵衛殿

2. 奉幣使通行・同助郷

【宇佐・香椎宮奉幣使通行次第書留】

芦屋市三条町、
小阪作兵衛氏藏
○文化元年(一八四)

(表紙)

文化元年三月
豊前国宇佐宮 三条村庄屋
筑前国香椎宮 作兵衛
右両宮ニ京都ニ
奉幣使御通行之次第書留

一奉幣使四辻中将様三月十四日京都御出立ニ而伏見御泊、
翌十五日ひらかた御昼休、大坂鴻池屋善五郎方ニ御泊、
十六日大坂ノ神崎通、尼崎御小休、西宮御昼休、兵庫津
御泊リ、此間御小休手当ハ、芦屋村、住吉村、生田村、
右三ヶ所ニ有之候処、住吉ニ而御小休有之候
一海道筋掃除之儀ハ、海道広さ壹丈位イニ作立、両方ニ玉
ぶちを付、砂を一めんニちらし、村境橋詰ニハ盛砂致、
尤西宮御昼休ニ付、砂ハ御通十六日之早朝ニちらし候様
之積がよし、
一十六日西宮御昼休ニ而御通行之節、半時斗先え、長持九
棹、御召替之乗物等ツ、御轅等ツ、高サ五尺斗、内ノリ
ハ五尺ニ四尺位イニ見え、長糸之長サ凡三間或尺位イ有
之候、此分え、ほうき、さらゑをひかし、年寄兩人案内
しはらく致、追々御長持其外たれ籠参り候得共、是ハ皆
夫々え、御案内、さらひ引等、差出村かたもあり、又差
いださず村かたもあり、
一奉幣物、其外御朱印、御装束櫃六棹、此御先へ、ほうき
引式人、年寄式人、御地頭様御足輕式人、
一四辻中将様、此先へ、ほうき引式人、其次ハ年寄式人、
御地頭様御足輕式人、御小頭参人、四辻様御先手、御本
陣、御跡ニ庄屋御供致候、
但し庄屋ハ羽織袴脇指、雨天なれハ手がさニ而、
右之通ニ而御領分村々掃除場御通行無滞相済申候、以上
年寄ハ殿引羽織ニ而御案内
庄屋ハ袴羽織ニ而御供

成候、右之通我等共々村々郷中達候様被為仰付候ニ付、御知らせ可申上候、夫ニ付直ニ御目ニ懸り相致度義御座候間、乍御苦勞加嶋村やつこ方迄只今御出可被下候、御間違無之様御頼申上候、以上
九月廿九日
三津や村 九右衛門
江口村 孫右衛門

神崎
御役人中様

一天文測量御出役御名前
御一卜間 伊能勘解由様
高橋善助様

一卜間 坂部貞兵衛様
下河辺政五郎様

一卜間 平山郡蔵様
橋生秀蔵様
小門奈清治郎様
外坂寛平様
御下通六人

可相成候ハ、菅軒ニ而御宿、右之通神崎村庄屋方ニ而開合書致し、夫々庄屋治左衛門殿口次ニ而、井筒屋忠次郎方ニ有之候六ヶ村之総面書取則忠次郎ニ為写申候、是迄開取写書ともニ委相認、飛脚或人相持、那家村へ注進致し、則今晚井筒屋ニ泊り居申候処、則井筒屋ニ而神崎辺最寄拾ヶ村暮六ツ時急参会有之候ニ付、今福村庄屋利兵衛殿へ参会之様子承度段御頼申置候処、追而参会相決シ候

上御沙汰可申と被申候、然ル処追て神崎村庄屋今福村庄屋参会之趣承合セ候処、何れ一日延引相成候様相聞候、総面之義ハ先出来立候を相用ひ可申積り、且又村々伺ひ之義ハ拾ヶ村惣代ニ而三ヶ村程江口村迄参、江口村庄屋へ掛合見合致積り候、何分右神崎辺最寄庄屋惣代宇治辺迄参候得共、時定致がたく、何れ神崎辺ハ一日之延引之積り之退参

九月卅日開合セ之事

俄に御通筋上方村々々神崎通達之義ハ、十月三日尼崎泊リニ相成候様申来、是ハ間違なくと被存候、且又総面之義ハ随分慮総面ニ而宜敷、往還筋并村居御田地とも間敷書ハ手帳ニ扣置、御尋之節申上候様宜、総面へ書記候ニハ不及様相聞候、

右之通開合セ致候得共、尼崎御泊りる振合替り、万事難筋ハ打出村へ住吉川迄私領御料申合、西宮へ掛合、総面も山浜合総面ニ而書紙致、請入用立会わり方致、則別紙帳面ニ記有之候、尤西宮山浜式手ニ而測量有之由ニ候処、海辺斗ニ相成、山手村々其深々罷出、遠見ニ而申上候、則大石村御泊りえ総面書上共持参致し、大石村ニ而ハ村々惣代ニ而右済申候、

五月十六日

拾ヶヶ村惣代

打出村庄屋 佐太郎
深江村庄屋 作右衛門
三条村庄屋 作兵衛
中村庄屋 四郎右衛門

【測量御用諸入用割写帳】

青屋市三条町、小阪作兵衛氏藏

(表紙)

文化式丑年
天文方御役人
測量御用ニ付御越諸入用割写帳
十月

一、御江戸表より、戸田采女
正様御証文ニ而、天文方高
橋作左衛門様
御手附 伊能 勘解由様
同 下河辺政五郎様
右作左衛門様 高橋 善助様
天文方御下役 坂部貞兵衛様
右御供拾五人
上下拾五人
右御人数、西園筋園々海辺并
往還筋共測量為御用、十月五
日西宮御止宿被遊候ニ付、諸
入用小前、左ニ記、
一、拾匁
右ハ御出之様子知らせとし
て伏見方飛脚至來賃銀
一、式匁五分
右ハ尼崎開合上下式人雜用

善八取替
一、百五匁
右ハ村々一同参会諸雜用、
木津勘へ私
一、三匁
右ハ尼崎開合夜通し賃銀、
千足茂兵衛様
一、老匁五分
右ハ津門村、小松村、小會
禰村へ廻状持、井尼崎之開
合人足賃、庄八私
一、六分
右ハ御出之様子知らせ人足
賃、太八私
一、老匁五分
右ハ御通行ニ付、諸入用割
方相談ニ津門村へ進賃、京
太八私

一、老匁八分
右ハ住吉村、御影村へ廻状
持、庄八私
一、式匁
右ハ青屋村、深江村、中野
村へ進賃、權六へ私
一、老匁五分
右ハ御出立日限御日延、村
々えしらせ廻状持、太八私
一、四分
右同所、上村へ廻状持、權
六へ私
一、老匁
右ハ総面認替之儀ニ付、廻
状持人足七兵衛へ私
一、五分
右同所、下村へ廻状持人足
平五郎へ私
一、三匁
右ハ雨天ニ而尼崎御逗留ニ
付日限開合進賃口雜用共
一、老匁
右ハ五日御出立之趣、村々
へしらせ廻状持、源八私
一、五匁九分
右ハ御日限伺として役人上
下五人罷越、尼崎薬屋吉右
衛門雜用取替、平喜へ私
一、式匁
右ハ尼崎遠見人足六兵衛へ

一、式匁
右同所、鳴尾村、今津村、
遠見遣人足庄五郎私
一、四分五厘
右ハ尼崎御出立為知廻状持
權六へ私
一、老匁老分
右ハぼんでん竹代、竹屋吉
右衛門へ私
一、老匁式分
右ハぼんでんニ用半紙代、
坪源へ私
一、拾六匁
右ハ手伝人足星夜四人分
一、老匁
右ハ無滞御出立東西村々え
しらせ廻状持應兵衛へ私
一、拾式匁九分
右ハ御宿ニ用屏風おし総四
枚持歸り候故、無損料と
して進、坪屋源兵衛私
一、三匁
右ハ一件ニ付筆紙墨代
一、式百目
右御宿期代
一、四匁
右御見分先之儀ニ付尼崎
へ両度遣入足賃、京太へ私
一、老匁式分

右ハ惣勘定ニ付、東西村々
 之廻状持
 一、拾五匁
 右ハ大石村迄御案内役人申
 上下拾八兩度賄入用
 一、拾六匁六分
 右ハ高次村ハ参り候御、上
 下八人、其外村々役方賄代
 平蓋取カ
 一、壹匁五分
 右御用船之差入候、とん五
 状損料、浪方平蔵ハ私
 一、壹匁三分
 右ハ勘定立会刻限延引ニ付
 東西村々之呼ニ遣實
 一、七拾匁
 右ハ十月十五日惣勘定立会
 雜用、木津勘ハ私
 一、拾七匁五分
 右ハ御休手当入用取カ、
 菅屋村、青木村ハ私
 一、三拾匁
 右ハ十月十五日 御屋休雜
 用鳴尾村ハ私
 一、三拾匁
 右同勘、今津村ハ私
 一、拾五匁
 右同勘ニ付茶代鳴尾村ハ私
 一、拾五匁
 右同勘、今津村ハ私
 一、五拾目
 右ハ御泊り茶代、西宮町私
 一、六百四拾九匁五分五厘
 此取

式百五拾九匁九分八厘
 高老万九百八十七石七斗
 七升九合之所
 老万九百八十七石二割
 百石ニ付
 式百五拾九匁九分八厘
 村役廿七ヶ村ニ割
 壹ヶ村ニ割
 九匁六分三厘
 百式拾九匁九分八厘
 家數四千三百八拾四軒ニ割
 百軒ニ付
 式百九分七厘
 一、九匁六分三厘
 九百四十四石六升九合
 一、廿匁四分九厘
 家百六十一軒
 一、四匁七分八厘
 村割 打出 村
 一、九匁六分三厘 人足割合
 一、八匁七分七厘 人足割合

三拾六匁九分七厘
 百六石五斗五升
 一、式匁三分七厘
 家廿一軒
 一、六分式厘
 村割 津 知 村
 一、九匁六分三厘 人足割合
 一、八匁七分七厘 人足割合
 一、廿匁七分七厘 人足割合
 高式百式石三升
 一、四匁三分八厘
 家四十四軒
 一、壹匁三分七厘
 村割 三条 村
 一、九匁六分三厘 人足割合
 一、八匁七分七厘 人足割合
 一、廿四匁三分七厘
 一、馬八疋
 老疋八百匁、
 此實六匁四百匁

代銀五拾六匁三分式厘
 一、御用船老艘
 此實老實八百匁
 代銀拾五匁八分四厘
 一、人足四拾九人
 老入ニ付三匁五分、
 代銀百七拾壹匁五分
 一、式百四拾三匁七分三厘
 廿八ヶ村ニ割
 老村ニ八匁七分七厘、
 一、式百四三匁七分三厘
 三拾老ヶ村ニ割時ハ
 老村ニ七匁八分七厘、
 但、右廿八村之上、鍛冶屋
 村、神田村、味泥村ナ増、三
 十一村ニ割
 右三ヶ村、無滞出銀有之ニお
 りてハ、
 此三ヶ村寄銀廿三匁六分七厘
 此銀廿八ヶ村ハ割戻ス時は
 老ヶ村ニ八分四厘ニ當ル
 右之通、昨日御目ニ懸ケ候下
 帳面を以今日清帳相仕立申候
 則寫し帳被仰開候通差遣申候
 御落手可被下候、已上、
 十月十六日 西宮町
 御總代
 御役人中棟

4. 朝鮮信使対島聘札役人通行

【朝鮮信使対島来聘觸書控】
 小版作兵衛氏藏
 〇文化八年(一八二一)

(表紙)

辛文化八年
 朝鮮人対劾迄来聘御觸控
 三条村作兵衛
 未正月吉日

此度朝鮮人御用ニ付、公様御役人様対劾之被成御出候ニ付
 御道筋ニ掛候村々之内、御領分境分石墨入、作事方之来ル
 廿一日頃之罷越候ニ付、右分石兼而掃除又はミがき置候様
 可申付旨被仰下候間、御道筋領境ニ分石有之村方は承知可
 有之候、已上、
 未正月十八日 平野本治

村々庄屋中
 野寄村方三条村迄早々順違可有之候、尤御留村より返却可有之候

来未春中朝鮮信使来聘ニ付、小笠原大膳大夫、脇坂中務大
 輔始、対州之罷越候面々往来之道筋、旅宿等、掃除并取繕
 ニ不及、賄道具等も有合を差出し可申候、旅宿差支候所ハ
 寺院之類相用候而も不苦、為馳走新規之茶屋を設け、或ハ
 送り迎えもの差出候儀等可為無用候、其所ニ無之商売物脇
 之遣し置為先申聞敷候、勿論右之向々通行之節遠慮なく農

業之いとなき可申事
 一御朱印并証文員數之外、余分之人馬入候ニおゐてハ、所
 定之賃錢取之、無賃之人馬出すへからず候、賃錢之定無
 之所ハ近辺之定ニ準し可取之事
 右之通、東海道、中山道、中国、西国筋領知有之向々之可
 被相觸候
 十二月

右之通、從江戸被仰下候付、触知ラセ間、村々令承知、尤
 御料私領寺社領等入組有之村方之分ハ、其ヶ所々不洩様、
 庄屋年寄寺社家承知之段届書令印形、郡切村次順々無遅滞
 相廻し可申候、依之別紙村名書差添遣シ間、御留村方信濃
 守番所之可持参者也、
 文化八年
 正月 信伯 濃 著

村々庄屋
 年寄
 寺社家

廻 状

兼而被仰開置候御道筋取繕之義出来方御見分、来月差入早
 々ニ御出郷有之候様被仰下候間、当月中ニ取繕出来候而
 可然候間、其心得ニ而御取斗可有之候、右可申入早々已上
 未正月廿四日 平野本治

村々庄屋中
 野寄村方三条村迄早々順違可有之候、
 〇中略(大庄屋廻状一通)

西宮駅廻状

態以使札得御意候、御村々無御別条珍重奉存候、然ハ此度朝鮮人來聘ニ付從御江戸表近々之内諸家様方対州表之御越ニ付、人馬御入用之程難相知、若多分之人足御入用ニ有之候ハ、何時ニ而も當駅ニ案内次第御差出、御用向差支無之様可被成候、尤例年式千八百人御際限有之候得共、万一繼立之上出過ニ相成候ハ、及熟談可申候、何分何用向差支不申候様、前以得御意候、御承知之方村下ニ御調印可被成候、万一御不承知之村方有之候ハ、町方惣会所ニ早々御越可被成候、其節否可承候、為其別段使ヲ以如此ニ候以上、未正月廿七日 西宮駅所 役人 同町方 役人

覚

一 挾箱持人足老人 赤川唯市
一 合羽籠持人足老人
一 合羽籠持人足老人 東三右衛門
外ニ間竿持人足老人

右者來月朔日ヲ往還道筋出來為檢分相越候間、無滞可差出者也、 未正月 富 真宜

廿七日

別所村方上街道筋
御休西長尾村
夫方村々順達ニ而
御泊田辺村

廻状を以得御意候、然ハ此度朝鮮信使來札ニ付、御江戸方対州表ニ御下向御役人様方近々之内御通行ニ候間、其節川

案内可相勤候、しかし御模様ニハ其村々明後日ニ相成可申候哉、何分無油断明日申合心掛、其支配ニ罷出可申候已上 二月十七日酉下刻書 内藤團藏

右村々廻状

兼而被仰聞置候御通行之義、明十八日別紙御名前之御方様御通行ハ、定而明後十九日之御積ニ可有之候間、其旨承知可有之候、尤別紙ニ有之候御方様ニハ御先弘上ハ不被差出候間、村役人御名前篤ニ承知仕候上御案内可申様被仰付候間、其段御心得可有之候、已上、 二月十七日酉上刻 平野本治

村々庄屋中

野寄村方三条村迄、急々順達可有之候

覚

御目付 佐野肥後守様
御勘定吟味 松山惣右衛門様
右之御方様、明十八日、大坂御屋休、西宮御泊、

此度 公儀御役人様方対筋ニ御越ニ付、明十八日追々御通行之節、在中之もの共拜見仕度候ハ、往還家居有之候所は軒下ニ罷出見せ構之内を限り不札無之様諸事相儀可致拜見候、猥々聞敷儀有之候ハ、後日ニ急度可及沙汰候尤此節火之元別而可入念候、其旨可令承知者也、 未二月十七日 郡代

中灘村 庄屋 年寄

大灘村 庄屋 年寄

々出水有之候ハ、支配村々ハ川越人足御手当可被成候、一御通行之御、御同勢之内万一途中ニ而御足痛之儀ハ勿論繼立候人馬之内病人病馬怪我等有之候ハ、宰領之者ハ最寄村方ニ可致案内之間、其節早速手代人足御差出御通行差支無之様御取斗可被成候、尤賃錢之儀ハ兵庫津迄道割を以宰領之者ハ引合、同津ニ而取斗可申候、此廻状兵庫津迄海道掛り村々無滞滞御順達、村下ニ調印被成、兵庫津迄送、同津ニ當駅ニ御返却可被成候、為其如此ニ候、以上、 未二月十三日 西宮駅印 兵庫津迄海道掛り村々 御役人 中

朝鮮人御用ニ付 公儀御役人様対州ニ被成御出候ニ付、其村々御道筋御案内之義、庄屋年寄着類ハ、木綿布ニ而、羽織ハ右ニ准シ、何れも紋付股引着用ニ而、御地頭表ハ被差出候御足輕之御先ニ而側ニならび御案内可有之候、今以御通行御日限相知不申、其内駈ニ相知候ハ、可申入候已上 二月十五日 平野本治

村々庄屋中

野寄村方三条村迄、早々順達可有之候

口達

今朝大庄屋平野本次迄申達置候、定而其村々ニも通達可有之候、明十八日佐野肥後守様、松山惣右衛門様、大坂御立尼崎御通行ニ而、其村々御行ノ由候処、殊ニ寄御一方様ニハ明日兵庫津迄被成御越候様相聞候間、村々其心得ニ而御

覚

一 此度御役人様方対筋ニ御通行ニ付、芦屋川急水之節ハ、川越助入足之義ヲ三条村、津知村、森村、中野村ハ、一ヶ村ニ付人足拾人ツ、差出し具候様御地頭様ニ辻甚太郎様より御頼有之候ニ付、御地頭御代官様より右四ヶ村ハ被仰候ニ付、早速参合致、右四ヶ村之内ニも遠方ハ縁ニ参候者共も有之、別而中野村、津知村ハ少人数ニも有之、又は西宮駅ニ差出申候付、甚差支ニも相成申、同庄之内、小路、北畑、田辺村、右三ヶ村ニも御割賦被下度奉願上候処、則大庄屋殿ニ左之通御廻状、 此頃中野村年寄申上候ハ、芦屋川助入之義、一ヶ村ニ而拾人ツ、と申候而ハ、四ヶ村共西宮助郷、其上遠國ハ縁ニ罷出、勿論中野村、津知村別而少人数之義候間、何卒庄内之義ニ付北畑、小路、田辺、右村々ハも割賦ニ而被仰付被下候様相願候由、右ニ付助之義被仰聞候、依之右三ヶ村ハ篤ニ申候候処、一ヶ村ハ四人ツ、ニ而三ヶ村ハ拾人差出可申候間、左様ニ御心得可有之候、尤人足差出候日限は其四ヶ村ハ右三ヶ村ハ無間違可被申遣候、為其早々已上、 二月十九日 平野本治

中野村庄屋 四郎右衛門殿
森村庄屋代 源太郎殿
津知村庄屋 五郎兵衛殿
三条村庄屋 作兵衛殿
追而申入候、急々請承度候、已上、

此度御通行ニ付、村役人御案内之節、手札被差上候而可然哉、尤松平遠江守殿領分撰劾兎原郡何村庄屋年寄と被相記可然と存候、

一ほうき用意致罷出、前後村々見合之上、御通行之御先へ兩側ニならひ箒を引候而可然哉ニ存候、已上、
未二月十九日 平野本治

野寄村方三条村迄、急々願違可有之候、已上、
〇中略(井上美濃守ほか順次通行の廻状等六通)
野寄村方三条村迄、急々願違可有之候、已上、

脇坂中務大輔様

右者明後廿日大坂御発駕、尼崎通り被成御通候、依之其村々支配之内御通之節、兼而申聞置候通村役人御案内可相勤候、勿論掃除等之儀随分入念を、間違無之様諸支取斗可申候、已上

三月十八日 津知村方坂本村迄 内藤因蔵
村々庄屋中 年寄中

尙々此廻文無滞村々順々可相廻候、且又御休泊之儀は不相分候間兼而之通最寄村方西宮駅所へ問合、村々之申通可取斗候、以上、
三月十八日 中井又平様 萩野文七様
一廻廻り様助役
右御案内十八日朝御立之御祐筆方之出役ニ而、中村御屋ニ而尼崎へ御引取之節、雨天ニ付津知村茶屋ニ而御酒を差出申候、
酒三ちやうし 着あな子がれ、物手長だこ

未六月晦日御廻状
以廻状致上候、然へ先達而御通行有之候对劾之御用彼方相済、当十八日追々発足有之候由、左候へ、無程御通行ニも相成候間、道筋損候場所へ御取繕被成、当春御通行之通御心得万支御取斗可被成候、右可得御意如此ニ候已上
六月晦日 村松藤左衛門 竹内政蔵

別所村方往還掛り村々 役人 中

先達而对州迄被成御越候、公儀御役人様方、為御歸府近々御領分御通行追々有之候節、在中之ものとも罷出拜見仕度候へ、往還家居有之所、軒下へ不罷出、店構之内を限り、不礼無之様諸事相慎可致拜見候、狼々間敷儀有之候へ、後日急度可致沙汰候、尤此節火之元別而可入念、其旨可令承知者也、
未七月 郡代 大灘村 庄屋 年寄

脇坂中務大輔様对劾御用相済、来ル十三日兵庫津、翌十四日西宮御昼休ニ而、可被成御通行之旨申来り候間、御道筋掃除、村々街道支配之内村役人御案内等之儀、都而御下向之節通相心得可申候旨被仰下候間、其旨御承知有之候已上
未七月七日 平野本治 村々庄屋中

芦屋市史 史料編第一 [非売品]

昭和三十年三月三十一日発行

編集者 魚澄惣五郎

発行者 三枝秀行 芦屋市教育長

印刷所 明和印刷所

発行所 兵庫県芦屋市教育委員会事務局

課報公聽